



堀川1000人調査隊2010 第38回調査隊会議

会場：名古屋都市センター 11階ホール



堀川1000人調査隊201

2026年(令和8年)3月28日



第38回 調査報告 目次

1. 堀川1000人調査隊2010の概要	3
2. 調査隊の登録状況	7
3. 調査期間・調査結果の報告数	9
4. 気象の状況	11
5. 主な水質改善施策の実施状況	17
6. 第38ステージ調査報告	27
6.1. はじめに ~コラム~	27
6.2. 堀川の変化	37
6.2.1. 水の汚れの印象と評価	37
6.2.2. 透視度	43
6.2.3. COD	47
6.2.4. 泡	51
6.2.5. におい	54
6.2.6. 色	59
6.2.7. ごみ	62
6.2.8. 風	64
6.3. 新堀川の変化	65
6.4. 第22回 堀川一斉調査	69
6.5. 堀川と新堀川の潮回りによるちがい(その2)	94
6.6. 堀川と新堀川の潮位によるちがい	111
6.7. 除草で改善した水辺環境(年2回除草)	122

6.8. 生き物	129
6.8.1. 堀川的主要な生き物	129
6.8.2. 堀川・新堀川で冬を越す水鳥たちのなぞ	130
6.9. 市民意識の向上	142
6.9.1. 学習会、イベントなど	142
6.9.2. 空芯菜による堀川浄化実験	146
空芯菜のハダニ被害と猛暑は関係がある?(その2)	

堀川1000人調査隊2010
ホームページ QRコード

定点観測結果
入力ホーム QRコード

堀川の生き物たち
YouTube QRコード



事務局からのお願い

- みなさんからの情報をお待ちしております。
 - みなさんの活動の様子を紹介させていただきます。
 - 過去の堀川の姿を記録として残しましょう。
- (報告先) 調査隊事務局
メールアドレス 2010@horikawa1000nin.jp
携帯電話、パソコンなどで、コメント・画像(日時・場所)を送ってください。
*写真は携帯電話に付属しているカメラで撮影したもので十分です。



1. 堀川1000人調査隊2010の概要

～堀川社会実験～

1.目的

堀川浄化のため、木曾川の清らかな水を堀川へ流し、その浄化効果を市民とともに検証する。

- (1) 新規浄化施策への展開
- (2) 生態系への影響の把握
- (3) 市民の浄化活動の継続と盛り上げ
- (4) 流域全体の浄化意識向上への展開



2.水源及び導水量

- (1) 水源:一級河川木曾川水系木曾川
- (2) 導水量:毎秒0.4立方メートルを上限

3.実施期間

- (1) 実験期間:5年間 2007年(平成19年)4月から
2012年(平成24年)3月まで
(導水終了後の事後調査、評価期間を含める)
- (2) 導水期間:3年間 2007年(平成19年)4月22日から
2010年(平成22年)3月22日まで

■ 庄内川からの導水の増量実験(追加実験)

1.水源及び導水量

- (1) 水源 一級河川庄内川水系庄内川
- (2) 導水量 毎秒0.4立方メートルを上限に増量
(総導水量:毎秒0.7立方メートルを上限)

2.増量期間

- (1) 実験期間:2010年(平成22年)10月1日から
2010年(平成22年)12月31日
- (2) 増量期間:2010年(平成22年)10月5日から
2010年(平成22年)11月2日

堀川1000人調査隊2010結成

2007年(平成19年)4月22日

導水による浄化効果を市民の視点と感覚で調査を開始



■市民の視点と感覚

・汚れ・透明感・色・泡・臭い・ごみ・生き物など



第1回なごや環境活動賞
環境首都づくり貢献部門
優秀賞
2012年(平成24年)2月



水資源功績者表彰
(国土交通大臣)
2016年(平成28年)8月



3

木曾川からきれいな水を導水

2007年(平成19年)4月22日から3箇年(2010年(平成22年)3月22日停止)



- 木曾川からの導水中の調査 3箇年
2007年(平成19年)4月～2010年(平成22年)3月
- 木曾川からの導水停止後の調査 2箇年
2010年(平成22年)4月～2012年(平成24年)3月

堀川1000人調査隊2010

- 定点観測隊
堀川浄化の社会実験の効果を調査
- 自由研究隊
自由なテーマで堀川を研究
- 堀川応援隊
堀川の浄化を応援



市民の視点 と感覚

堀川浄化の社会実験 5箇年のとりまとめ

- 猿投橋～松重橋間で浄化の効果を確認
- 堀川の浄化と再生を願う市民のネットワークが拡大
- 清掃活動が活発化するなど市民の浄化意識が向上

■ 調査隊の役割

(第10回調査隊会議での決議)

①堀川にはまだまだ時間をかけて調査を続けなければわからないことがある

堀川の調査を継続し、堀川の実態解明、汚濁の原因をデータで特定する必要がある。それによって、対策をたて、処方箋を描く。そして、官と民が力をあわせて、堀川の浄化・再生をめざし、それぞれができることを継続する。

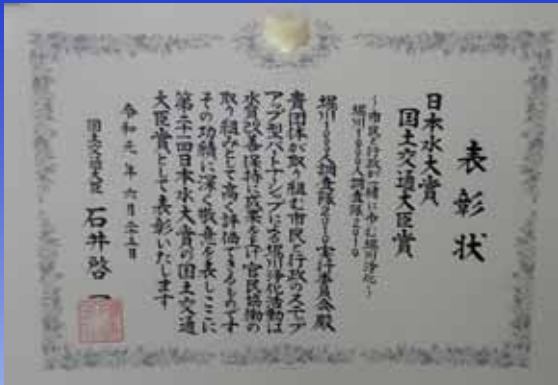
②市民としてできることがある

- ・木曾川導水の復活を目指し、堀川を愛する人の輪をさらに広げる。
- ・木曾川、長良川、揖斐川など、流域の人たちと市民レベルの交流を広げる。
- ・雨の日の生活排水に気をつける運動や、家庭排水からの汚濁負荷を削減する実験を行い、その効果を確認して実行する。

4

第21回 日本水大賞 国土交通大臣賞を受賞 2019年(令和元年)6月

官民学協働
ステップアップ型パートナーシップ



堀川1000人調査隊2010実行委員会の会長以下8名が日本水大賞・国土交通大臣表彰の報告をするために名古屋市長を訪問しました。

2019年(令和元年)6月25日、第21回日本水大賞の表彰式が名誉総裁秋篠宮皇嗣殿下のご臨席のもとに行われました。堀川1000人調査隊2010実行委員会は、「国土交通大臣賞」を受賞しました。



日本科学未来館
(東京都江東区青荷)

堀川の水環境

堀川
流域面積:52.85km²
延長:16.20km

新堀川
流域面積:22.77km²
延長:5.95km

気温、降水量、日照時間等の変化

私たちが使っている水の水源は木曾川です

植物プランクトンの繁殖のもと(窒素やリン)は、家庭や工場や店舗などの排水に含まれています

水の汚れの主な原因は家庭や工場や店舗などからの排水です
汚れた水は水処理センターで処理されてから放流されています

たくさん雨が降ると汚れた水がそのまま放流されることもあります

庄内川 暫定:0.3m³/s

防潮水門

水処理センター

猿投橋

元枳樋門

赤潮や青潮のようになる時がありました
名古屋港や堀川の下流域では植物プランクトンなどが増殖と死滅を繰り返すことで水域がさらに汚れるといわれています

満潮
干潮
潮の干満の差が2m以上の時もあります
潮の干満によって水位、流れの向き・速さが変化します

地下水等

清水わくわく水

巻きあげ

ヘドロが浮かび上がったり、巻き上がったりする時がありました

赤潮の状況

青潮の状況

ヘドロ浮上の状況

ヘドロ巻き上げの状況

2. 調査隊の登録状況


2007年(平成19年)3月26日受付開始

堀川の浄化と再生を願う市民のネットワークが
大きく広がりました。



5万人を超える市民ネットワーク

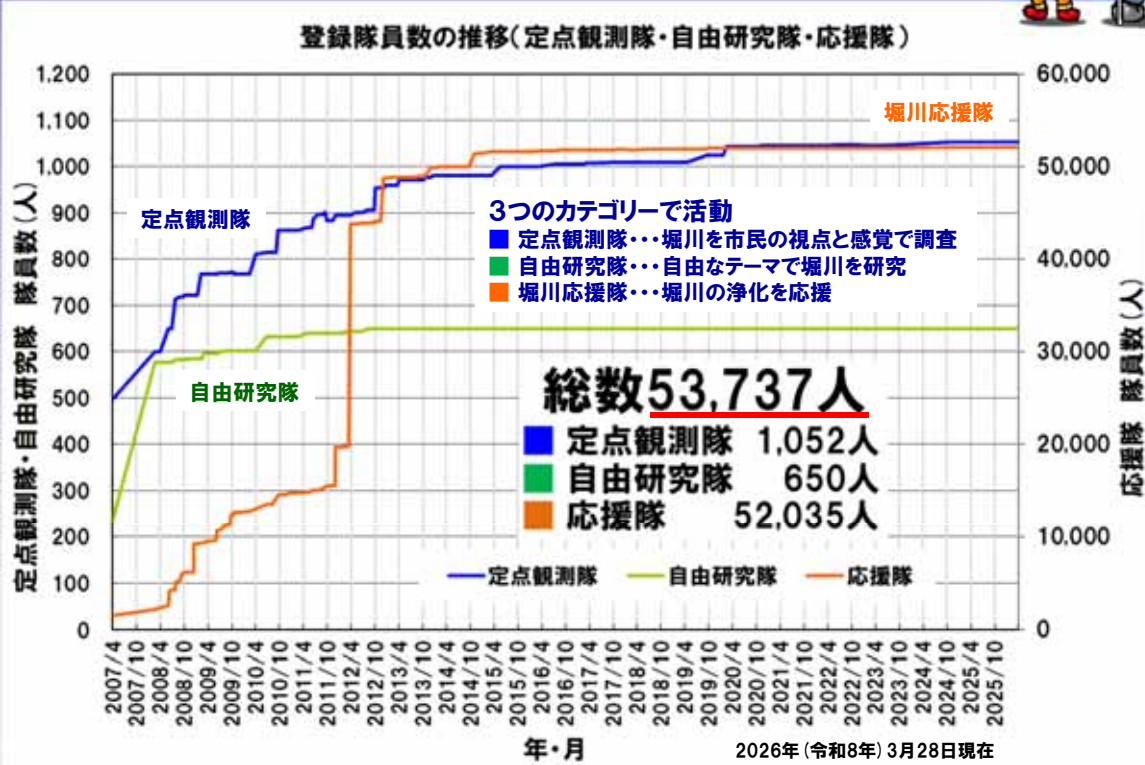
高度成長期に着しく汚れた「名古屋の母なる川・堀川」
かつての姿を取り戻そうと市民が立ち上がりました

	発足時 2007年 (平成19年) 4月22日	現在 2026年 (令和8年) 3月28日現在
定点観測隊	55隊 497人	110隊 1,052人
自由研究隊	22隊 234人	40隊 650人
応援隊	88隊 1,531人	2,610隊 52,035人
計	165隊 2,262人	<u>2,760隊</u> <u>53,737人</u>

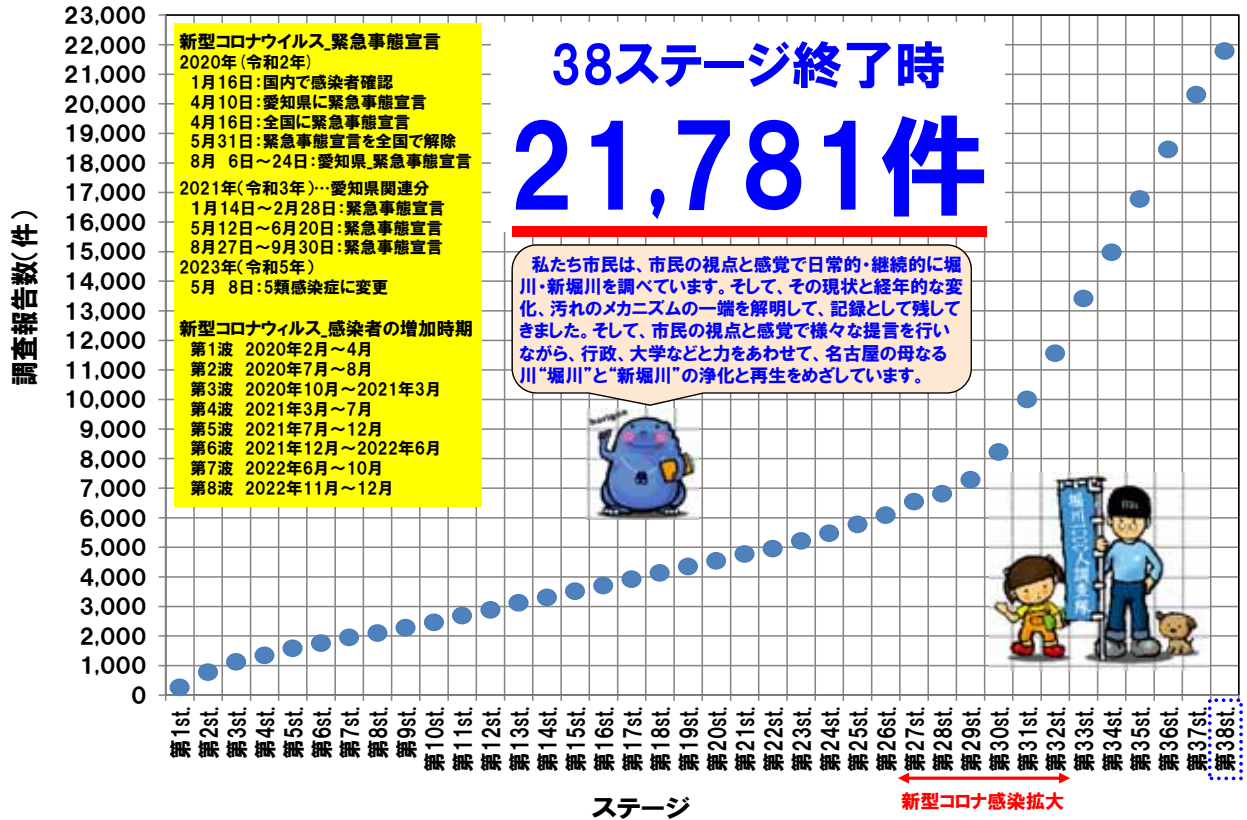


調査隊の登録状況

堀川をきれいにするためのプロジェクトや実験の効果を市民の目線で調査することから始まった「堀川1000人調査隊」。その活動は調査にとどまらず、浄化・美化実験、清掃活動、啓発活動、地域間交流の実施などにも広がっています。



3. 調査期間・調査結果の報告数



調査期間・調査結果の報告数

内容	年度	期間	報告数		内容	年度	期間	報告数				
			堀川	新堀川				堀川	新堀川			
堀川浄化の社会実験	平成19年 2007年	第1ステージ 春~初夏	4月22日~6月30日	258	258	官民学協働の ステップアップ型 パートナーシップ	平成31年、 令和元年 2019年	第25ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	193	127	66
		中間	7月1日~9月7日	134	134			中間	7月1日~9月19日	101	43	58
		第2ステージ 秋~初冬	9月8日~12月16日	383	383			第26ステージ 秋~初冬	9月20日~12月16日	214	105	109
	平成20年 2008年	中間	12月17日~3月31日	103	103		中間	12月17日~3月31日	123	67	56	
		第3ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	245	245		第27ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	333	168	165	
		中間	7月1日~9月27日	64	64		中間	7月1日~9月19日	32	23	9	
	平成21年 2009年	第4ステージ 秋~初冬	9月28日~12月16日	152	152		第28ステージ 秋~初冬	9月20日~12月16日	232	161	71	
		中間	12月17日~3月31日	100	100		中間	12月17日~3月31日	131	101	30	
		第5ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	145	145		第29ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	343	190	153	
	平成22年 2010年	中間	7月1日~9月26日	54	54		中間	7月1日~9月19日	35	22	13	
		第6ステージ 秋~初冬	9月27日~12月16日	120	120		第30ステージ 秋~初冬	9月20日~12月16日	907	816	91	
中間		12月17日~3月31日	81	81	中間	12月17日~3月31日	878	857	21			
平成23年 2011年	第7ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	111	111	第31ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	897	788	109			
	中間	7月1日~9月11日	44	44	中間	7月1日~9月19日	699	696	3			
	第8ステージ 秋~初冬	9月12日~12月17日	104	104	第32ステージ 秋~初冬	9月20日~12月17日	906	789	117			
平成24年 2012年	中間	12月18日~3月31日	72	72	中間	12月18日~3月31日	849	842	7			
	第9ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	112	112	第33ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	959	866	93			
	中間	7月1日~9月10日	42	42	中間	7月1日~9月19日	623	621	2			
平成25年 2013年	第10ステージ 秋~初冬	9月11日~12月16日	133	133	第34ステージ 秋~初冬	9月20日~12月18日	941	853	88			
	中間	12月17日~3月31日	77	77	中間	12月19日~3月31日	916	914	2			
	第11ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	148	148	第35ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	886	778	108			
平成26年 2014年	中間	7月1日~9月21日	60	59	1	中間	7月1日~9月19日	662	660	2		
	第12ステージ 秋~初冬	9月22日~12月16日	139	135	4	第36ステージ 秋~初冬	9月20日~12月15日	1,018	902	116		
	中間	12月17日~3月31日	92	78	14	中間	12月16日~3月31日	910	908	2		
平成27年 2015年	第13ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	145	129	16	第37ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	942	838	104		
	中間	7月1日~9月28日	70	55	15	中間	7月1日~9月19日	544	532	12		
	第14ステージ 秋~初冬	9月29日~12月17日	113	99	14	第38ステージ 秋~初冬	9月20日~12月15日	927	816	111		
平成28年 2016年	中間	12月18日~3月31日	79	68	11	中間	12月16日~3月31日					
	第15ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	133	117	16	計		21,781	19,512	2,269		
	中間	7月1日~9月28日	91	78	13							
平成29年 2017年	第16ステージ 秋~初冬	9月29日~12月16日	99	90	9							
	中間	12月17日~3月31日	107	89	18							
	第17ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	113	100	13							
平成30年 2018年	中間	7月1日~9月19日	81	69	12							
	第18ステージ 秋~初冬	9月20日~12月16日	126	109	17							
	中間	12月17日~3月31日	91	79	12							
平成31年 令和元年 2019年	第19ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	127	116	11							
	中間	7月1日~9月19日	62	54	8							
	第20ステージ 秋~初冬	9月20日~12月16日	130	107	23							
令和2年 2020年	中間	12月17日~3月31日	104	84	20							
	第21ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	129	100	29							
	中間	7月1日~9月18日	58	48	10							
令和3年 2021年	第22ステージ 秋~初冬	9月19日~12月20日	121	93	28							
	中間	12月21日~3月31日	80	67	13							
	第23ステージ 春~初夏	4月1日~6月30日	180	107	73							
令和4年 2022年	中間	7月1日~9月19日	76	44	32							
	第24ステージ 秋~初冬	9月20日~12月16日	184	106	78							
	中間	12月17日~3月31日	108	67	41							

調査結果の報告数は、38ステージ(2025年9月20日~12月15日)の終了時に21,781件でした。なお、38ステージの報告数は927件でした。このうち、堀川が816件、新堀川が111件でした。堀川・新堀川では、たくさんの市民が、市民の視点と感覚で日常的・継続的に水環境の実態を調べています。

4. 気象の状況

資料：気象庁_気象統計情報 名古屋地方気象台
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

■ 2025年(令和7年)の気象概況

名古屋(名古屋地方気象台、以下省略)の年平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、平年値よりもかなり高い17.5℃(平年差+1.7℃)でした。年間の降水量は1,306.0mmで少なく、年間の日照時間は2,275.6時間で多くなりました。

2025年のソメイヨシノの開花(名古屋)は、平年(3月24日)並みの3月26日、満開は4月4日でした。また、梅雨入りは平年(6月6日)よりもかなり早い5月17日頃、梅雨明けも平年(7月19日頃)よりもかなり早い6月27日頃でした。

第38ステージ 気象の概況

2025年(令和7年)9月~12月

特徴：気温が高く、降水量が少ない

- ・日平均気温は平年よりも高い17.2℃
- ・月平均降水量は平年よりも少ない97mm/月
- ・月平均日照時間は平年並み160時間/月

■ 気温

日平均気温は、平年値(9月~12月平均15.7℃)よりも高い17.2℃でした。この気温は“秋~初冬”のステージでは高い方から3番目の値でした。特に9月から10月中旬までの気温がかなり高くなりました。

■ 降水量

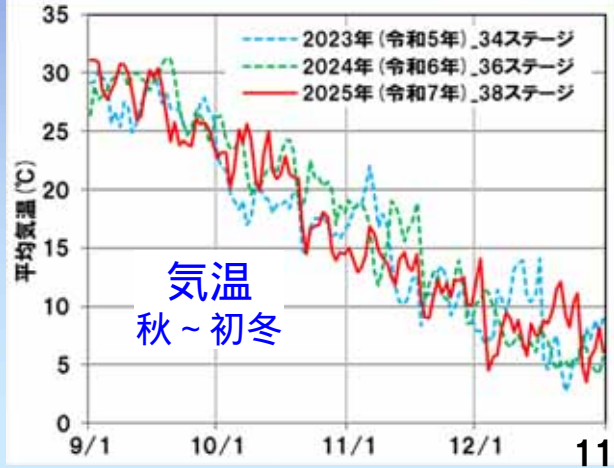
月平均降水量は、平年値(9月~12月平均133.0mm/月)よりも少ない97mm/月でした。9月~12月に東海地方に接近した台風は9月上旬の台風15号だけでした。11月の降水量は高気圧に覆われて晴れの日が多くなり34mm/月と少なくなりました。その他の月は概ね平年並みでした。

■ 日照時間

月平均日照時間は、平年値(9月~12月平均166.5時間/月)並みの160時間/月でした。

名古屋地方気象台 平年値(月ごとの値)

区分	降水量(mm) 合計	気温(℃)			日照時間(時間) 合計
		平均	日最高	日最低	
統計期間	1991 ~2020	1991 ~2020	1991 ~2020	1991 ~2020	1991 ~2020
資料年数	30	30	30	30	30
年間	1535.3	15.8	20.7	11.9	2091.6
4月	127.5	14.6	20.1	9.7	200.2
5月	150.3	19.4	24.6	14.9	205.5
6月	186.5	23.0	27.6	19.4	151.8
期間平均	154.8	19.0	24.1	14.7	185.8
9月	231.6	24.5	29.1	21.0	159.6
10月	164.7	18.6	23.3	14.8	168.9
11月	79.1	12.6	17.3	8.6	167.1
12月	56.6	7.2	11.7	3.4	170.3
期間平均	133.0	15.7	20.4	12.0	166.5

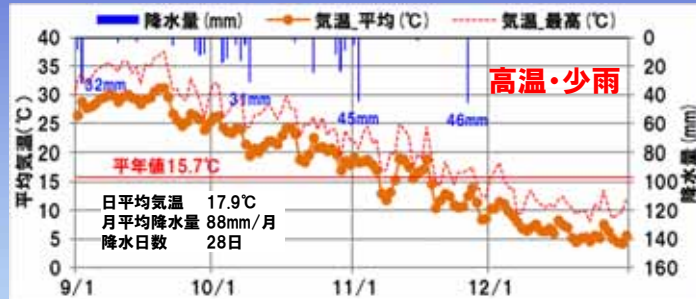


名古屋地方気象台 気温と降水量

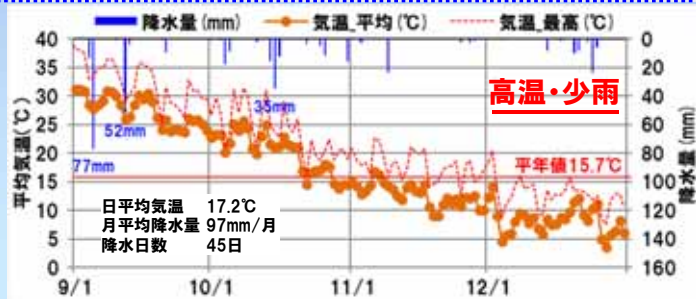
34ステージ 2023年(令和5年)



36ステージ 2024年(令和6年)



38ステージ 2025年(令和7年)



資料：気象庁_気象統計情報
 名古屋地方気象台
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

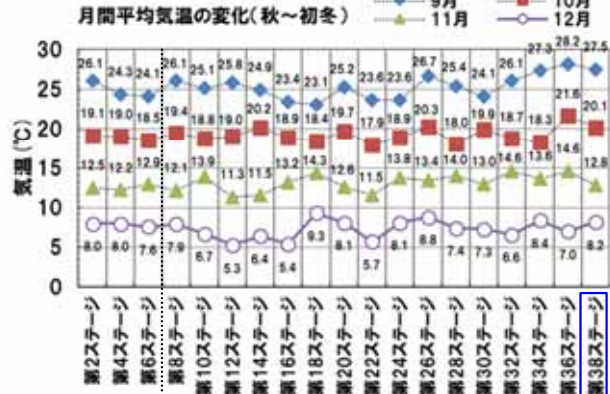
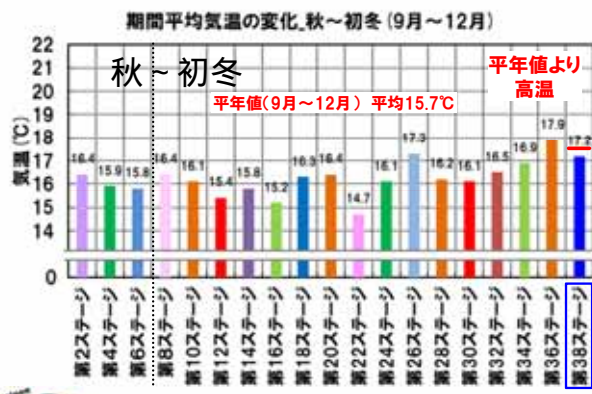
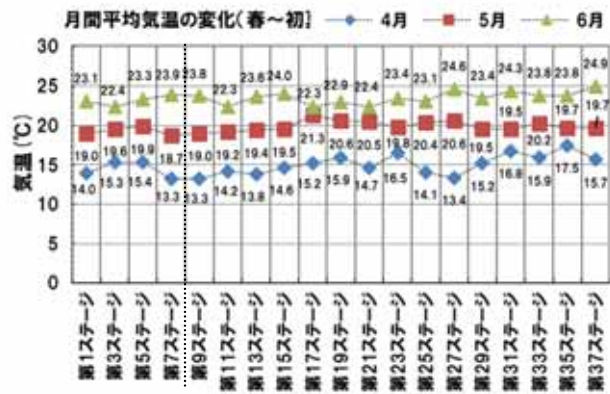
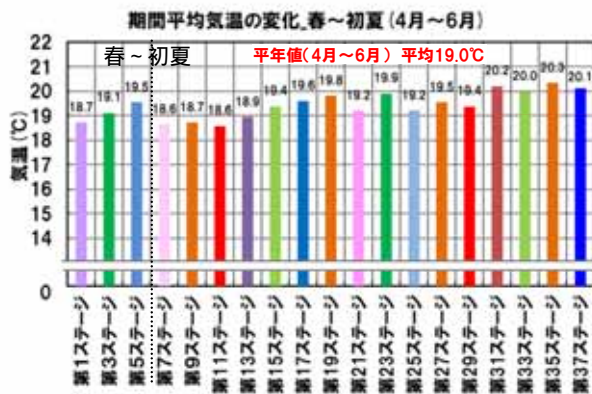
気温が高く、降水量が少ない
 ・日平均気温
 平年値よりも高い17.2℃
 ・月平均降水量
 平年値よりも少ない97mm/月



注)降水日数:9月~12月の降水量が日間0.5mm以上の日数

気温の変化

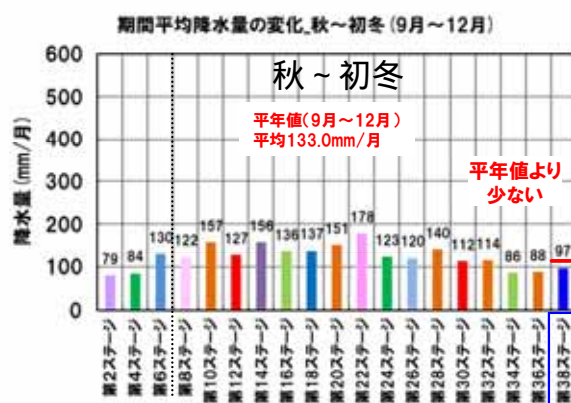
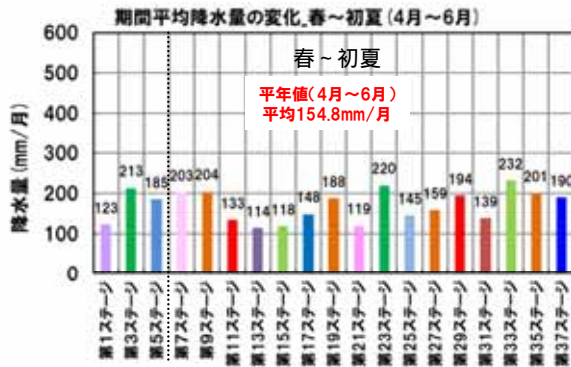
資料: 気象庁_気象統計情報 名古屋地方気象台
http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html



秋～初冬の日平均気温は、平年値(9月～12月平均15.7℃)よりも高い17.2℃でした。この気温は“秋～初冬”のステージでは高い方から3番目の値でした。特に9月から10月中旬までの気温がかなり高くなりました。

降水量の変化

資料: 気象庁_気象統計情報 名古屋地方気象台
http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html

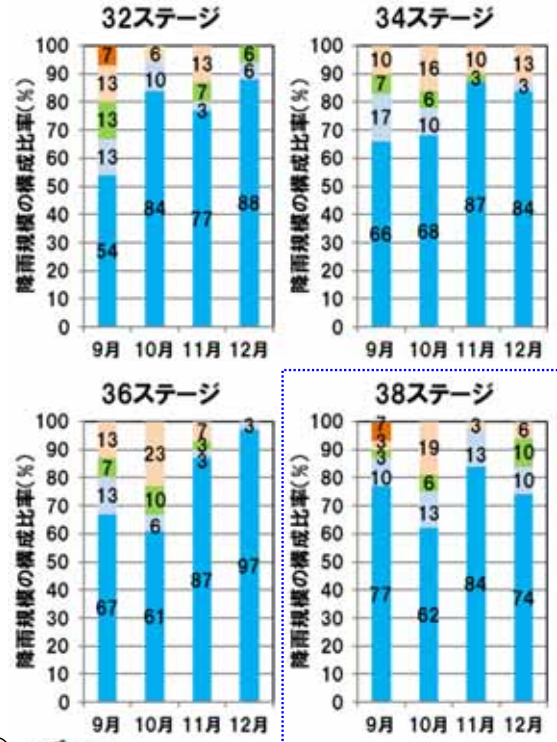
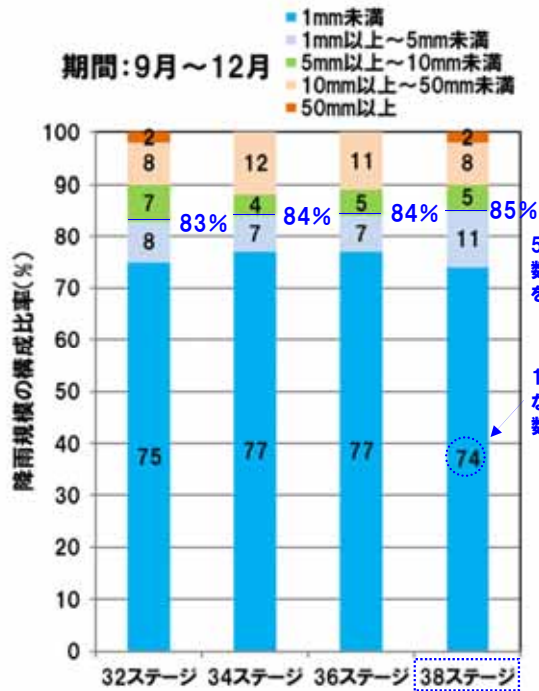


秋～初冬の月平均降水量は、平年値(9月～12月平均133.0mm/月)よりも少ない97mm/月でした。9月～12月に東海地方に接近した台風は9月上旬の台風15号だけでした。11月の降水量は高気圧に覆われて晴れの日が多くなり34mm/月と少なくなりました。その他の月は概ね平年並みでした。

秋～初冬の日降水量の特徴

降水量の規模別構成比率

資料：気象庁_気象統計情報 名古屋地方気象台
http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html

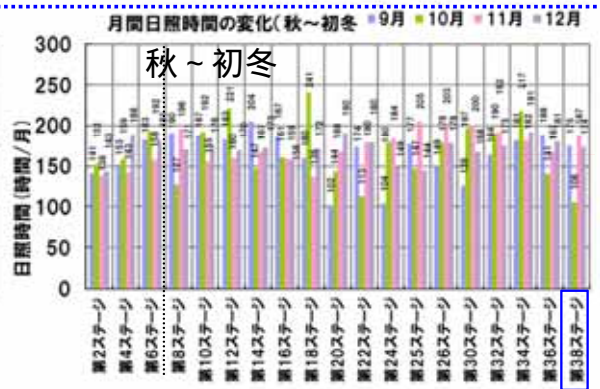
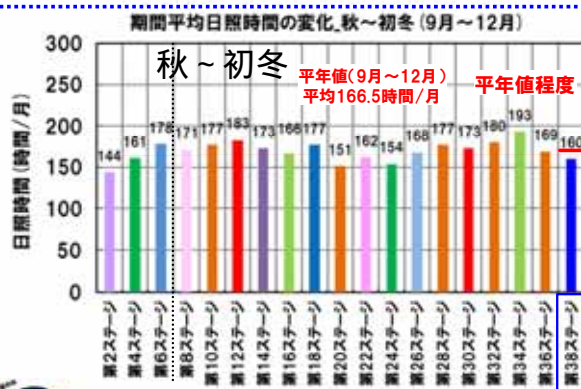
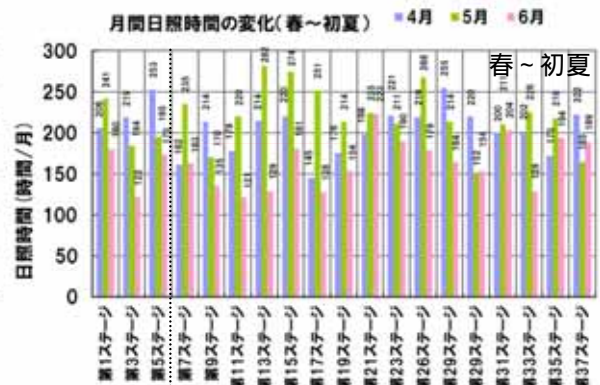
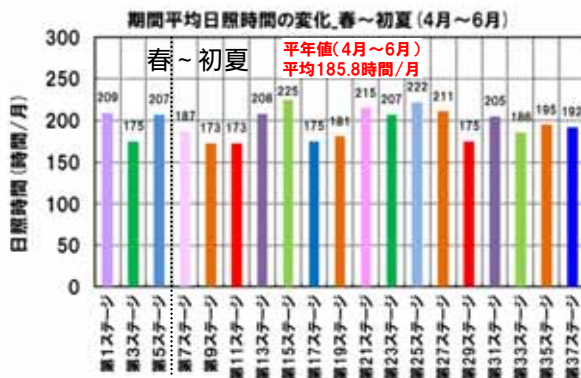


秋～初冬の日降水量は、期間を通して1mm未満(雨なし含む)の日が7割以上、これに1mm以上～5mm未満の日を加えると8割以上を占めています。



日照時間の変化

資料：気象庁_気象統計情報 名古屋地方気象台
http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html



秋～初冬の月平均日照時間は、平年値並み(9月～12月平均166.5時間/月)の160時間/月でした。



5. 主な水質改善施策の実施状況

実施施策 (平成19年度以降)	2007年度 (平成19年度)	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)	2011年度 (平成23年度)	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	
	1st.	2st.	3st.	4st.	5st.	6st.	7st.	8st.	9st.	10st.	
木曾川からの導水(0.4m ³ /s)	●										
瀬淵の形成 (自然浄化機能の向上、水環境の改善)				●	●	●	●	●	●	●	●
庄内川からの導水の増量(+0.4m ³ /s)				●	●	●	●	●	●	●	
水源の確保(地下水の利用) (堀川分:0.0825m ³ /s) (新堀川分:0.004m ³ /s)				●	●	●	●	●	●	●	
覆砂による浄化 巾下橋~桜橋付近(両岸の水際)									●	●	
新堀川の悪臭対策(浚渫・覆砂)									●	●	
守山水処理センターの下水再生水の活用(0.046m ³ /s)				●	●	●	●	●	●	●	
名城水処理センター高度処理の導入				●	●	●	●	●	●	●	
雨水滞水池の供用				●	●	●	●	●	●	●	
簡易処理高度化施設の設置				●	●	●	●	●	●	●	
中川運河の水循環促進(堀川へ放流)				●	●	●	●	●	●	●	

実施施策 (平成19年度以降)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	
	21st.	22st.	23st.	24st.	25st.	26st.	27st.	28st.	29st.	
木曾川からの導水(0.4m ³ /s)	●									
瀬淵の形成 (自然浄化機能の向上、水環境の改善)				●	●	●	●	●	●	●
庄内川からの導水の増量(+0.4m ³ /s)				●	●	●	●	●	●	●
水源の確保(地下水の利用) (堀川分:0.0825m ³ /s) (新堀川分:0.004m ³ /s)				●	●	●	●	●	●	●
覆砂による浄化 巾下橋~桜橋付近(両岸の水際)									●	●
新堀川の悪臭対策(浚渫・覆砂)									●	●
守山水処理センターの下水再生水の活用(0.046m ³ /s)				●	●	●	●	●	●	●
名城水処理センター高度処理の導入				●	●	●	●	●	●	●
雨水滞水池の供用				●	●	●	●	●	●	●
簡易処理高度化施設の設置				●	●	●	●	●	●	●
中川運河の水循環促進(堀川へ放流)				●	●	●	●	●	●	●

木曾川からの導水停止後の新たな水質改善施策 (2010年度(平成22年度)以降)

水の汚れの発生源
家庭・工場・事業所等

自然浄化機能を向上

- 瀬淵の形成
(2010年度(H22年度)以降 11箇所)

水処理センターからの放流水
合流下水の雨天時の排水
(未処理下水等の流入)

水の汚れ
主に有機物(溶解・浮遊)

茶褐色
どぶ臭

市民の感覚
印象・泡・におい・色

新たな水質改善施策
の実施による

改善を

確認



色
主に白濁、濃灰色、茶褐色

におい
主にどぶ臭、ヘド口臭、腐卵臭など

無色・無臭

白濁

濃灰色

腐卵臭

ヘド口臭

ヘドロ巻き上げ

ヘドロ

泡
メタン

泡
硫化水素

浮遊・懸濁物が
沈降・堆積
(有機物含む)

浮泥

酸素消費

川底に堆積した汚れが腐敗したもの

水の汚れを減らすための対策

(水処理センター放流水の水質向上)

- 名城水処理センター高度処理
(2010年度(H22年度))
- 伝馬町水処理センター簡易処理の高度化
(2011年度(H23年度))
- 堀留水処理センター簡易処理の高度化
(2018年度(H30年度))
- 名城水処理センター簡易処理の高度化
(2019年度(R元年度))
- 千年水処理センター簡易処理の高度化
(2024年度(R6年度))

(合流下水の雨天時の排水の抑制)

- 堀川右岸雨水滞水池(2010年度(H22年度))
- 堀川左岸雨水滞水池(2019年度(R元年度))

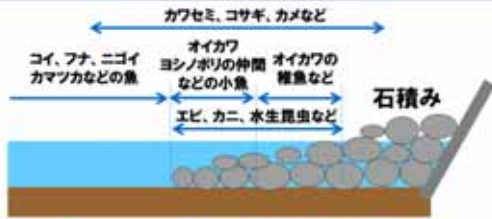
新たな水源を確保

- 守山水処理センターの下水再生水の活用
(2011年度(H23年度))
- 地下水の利用
(2013年度(H25年度)以降 堀川7箇所 新堀川1箇所)
- 中川運河の水循環促進(堀川へ放流)
(2024年度(R06年度)以降 約18万m³/日)

川底からの悪臭・白濁を減らす対策

- 覆砂
・堀川:桜橋~巾下橋付近
(2014年度(H26年度)、2017年度(H29年度))
- ヘドロ除去・覆砂
・新堀川:下流部(2017,2018年度(H29,30年度))
- ヘドロ除去
・新堀川:立石橋~上流端
(2018年度(H30年度))
- 堀川:護岸工事後にヘドロ除去

■ 瀬淵の形成



瀬淵を形成すると、そこで色々な生き物が生育・繁殖することが確認されました。オイカワなどの石・礫がある環境を好む生き物の生息・生育の場になっていました。冬になると、ここで春を待つカマツカの仲間もいます。使われている石の違い(丸い石、角張った石)にも注目して観察をしています。

水際

カワセミ、コサギなど

水域

*外来種

クサガメ、ミシシッピアカミミガメ

コイ、ニゴイ、ナマス、ブラックバス、ブルーギル、カムルチー

フナ、オイカワ、カマツカ、ヨシノボリの仲間、カタヤシなど

スジエビ、テナガエビ、モクスガニ、水生昆虫など



テナガエビとモクスガニは、川と海城・汽水域の間を回遊する生き物です。

■ 食物連鎖による自浄作用の高まり

水の汚れ(有機物・窒素・リンなど)



水の中の汚れの成分は、食物連鎖の中で、生き物に取り込まれ、生育・繁殖のために消費されます。瀬淵が形成され、多様で豊かな生態系が構築されると、より多くの汚れの成分が連鎖的に消費され、水の中から取り出され、水がきれいになります。川が持つ自らの浄化作用が高まります。(=自浄作用の高まり)



YouTube
堀川の生き物たち



2020年度(令和2年度)完成
新堀橋下流

撮影:事務局 2025年(令和7年)12月



2016年度(平成28年度)完成
夫婦橋下流

撮影:事務局 2026年(令和7年)12月



モクスガニ

護岸工事が終わると川底が掘られ、へドロが除去されます。



護岸工事の状況
事務局:現地確認

凡例
— 護岸工事
— 済み区間

撮影:事務局
2025年(令和7年)12月

■ 護岸工事が進む中流部の様子(へドロ除去を実施)



筋違橋下流



五条橋下流



錦橋上流



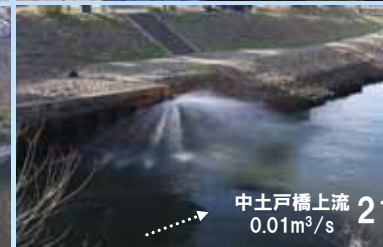
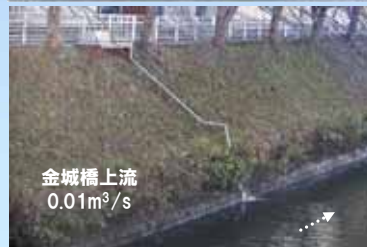
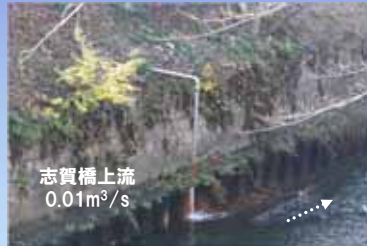
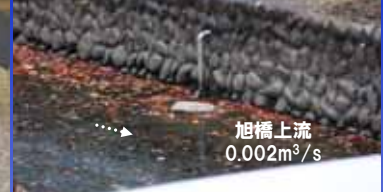
松重開門付近

覆砂の工事 桜橋～巾下橋間

2015年(平成27年)1月～2月
2017年(平成29年)12月～2018年(平成30年)1月



水源の確保(浅層地下水の利用)



新堀川の悪臭対策 (浚渫:ヘドロ除去)

区間:上流部 立石橋～堀留
期間:2018年(平成30年)9月～2019年(平成31年)2月



新たな水源の確保

◆下水再生水の活用(冬場を除く)
守山水処理センターで、
繰り返し過された下水再生水を活用し、
日最大4,000m³堀川へ通水する。
通水開始 平成23年8月

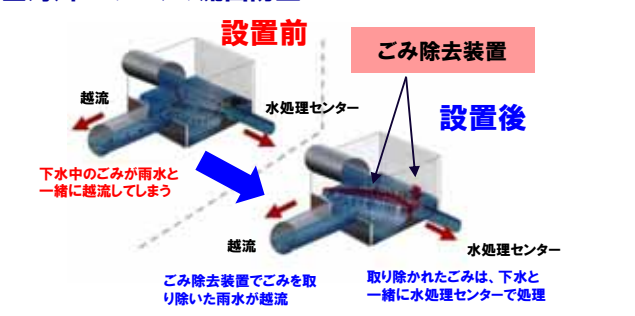


木曾川からの導水が停止した後に 新たに稼動した施設

■処理水質の向上
名城水処理センターの処理水をさらにろ過して、名城水処理センター高度処理堀川に放流する水質を向上しています。
・処理方法 標準活性汚泥法+急速ろ過
・供用開始 2010年(平成22年)5月



河川へのごみの流出防止



雨水スクリーン目幅縮小 (ごみの流出防止)

堀川 白鳥橋ポンプ所 千年水処理センター
新堀川 牛巻ポンプ所 高蔵ポンプ所 伝馬町水処理センター

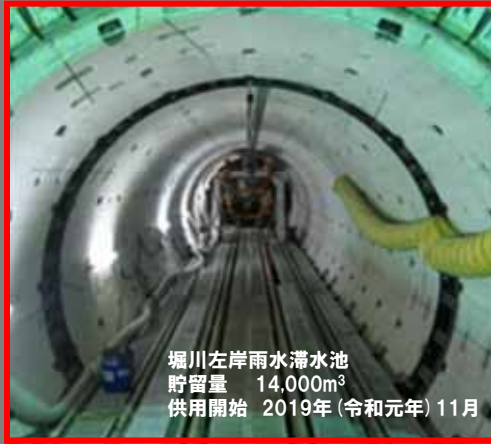


木曽川からの導水が停止した後に新たに稼動した施設

■合流式下水道の改善

汚濁負荷の高い初期雨水を一時的に貯留して流出を抑制、雨水吐の越流頻度を低減しています。

堀川右岸雨水滞水池
貯留量 13,000m³
供用開始 2010年(平成22年)9月



堀川左岸雨水滞水池
貯留量 14,000m³
供用開始 2019年(令和元年)11月



堀留水処理センター簡易処理高度化施設の設置

雨の日の合流式下水道 2019年(平成31年)3月供用開始

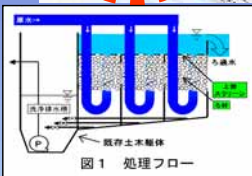


一定量の雨水までは汚水とともに水処理センターで処理されますが、それを越えた雨水は川に直接流れ出てしまいます。

汚れの度合いが大きい降雨初期の雨水を一時的に貯留する施設を雨水滞水池と言います。貯留された雨水は、降雨終了後に水処理センターに送水されて、処理(雨天時に増加した分は簡易処理)されて放流されています。

(出典) 第25回調査隊会議(名古屋市からの報告)

簡易処理高度化施設は、雨水滞水池から水処理センターに送水された水のうち、雨で増加した分の水に対する簡易処理をより高度(きれい)にできる施設です。



*簡易処理で行う沈殿による処理をろ過処理等に置き換えることで、従来の簡易処理と比較して処理水質を大幅に向上するための施設です。

新堀川における地下水利用

- 底層の溶存酸素濃度(DO)の改善
- 成層化(表層と底層の塩分濃度の差)の軽減を主な効果として地下水を導水

名古屋市環境局 舞鶴橋環境井戸広場

地下水利用のイメージ図

052-972-2675



新松重ポンプ所の運転開始により
中川運河の水循環が促進
(水循環量の増加と安定的な排水)

中川運河の滞留時間 (試算値)

約24日→約13日→約9日

1~21ステージ 7万m³/日
22~34ステージ 13万m³/日
35ステージ以降 (2024年4月) 18万m³/日

流動の改善(滞留時間の減少)
⇒水質の更なる改善に期待

- ①中川運河の流動が改善(滞留時間の減少)することで植物プランクトンの増殖が減少
⇒堀川に排水される水質の更なる改善に期待
- ②中川運河に導水される海水が増えることで堀川への排水の塩分濃度が高くなる
⇒塩分濃度が高く(比重が重くなる)となると、堀川の停滞しやすい底層の水を押し流す力が強くなることに期待



水質の更なる改善に期待
塩分濃度が高くなる



新松重ポンプ所が2024年(令和6年)4月に供用を開始しました。これに伴い閉鎖的な水域である中川運河の水源の一つとなっている名古屋港(海水)からの一日の導水が7万m³から12万m³になり、中川運河の滞留時間が短く(約9日:試算値)になりました。中川運河の流動が改善することで、水質の更なる改善に期待をしています。また、塩分濃度が高く(比重が重くなる)となると、停滞しやすい堀川の底層の水を押し流す力が強くなることに期待をしています。中川運河から堀川への排水による堀川の変化が楽しみです。これらの変化は、市民の視点と感覚で積み重ねている調査で時間をかけて少しずつ見えてくると考えています。

中川口ポンプ所水門 海水取水約12万m³/日=1.4m³/秒

露橋水処理C 約6万m³/日 63,050m³/日 =0.7m³/秒

朝日橋 巾下橋 元杖樋門

尾頭橋 松重開門 天王崎橋 小塩橋 城北橋 猿投橋

大瀬子橋 熱田記念橋 新洲崎橋 錦橋 五条橋 中土戸橋 北清水橋

御慶橋 瓶屋橋 松重橋 伝馬橋 志賀橋 夫婦橋 庄内川 暫定導水 0.3m³/秒

熱田水処理C 22,444m³/日=0.3m³/秒

山王橋 日置橋

名城水処理C

浅層地下水 下水再生水など =0.1m³/秒

千年水処理C 33,179m³/日 =0.4m³/秒

伝馬町水処理C 39,218m³/日 =0.5m³/秒

堀留水処理C 98,984m³/日 =1.1m³/秒

名城水処理C 52,950m³/日 =0.6m³/秒

中川運河からの排水量 約18万m³/日=2.1m³/秒

新堀川合流 =1.9m³/秒

▼満潮
 潮の干満によって水位、流れの向き・速さが変化します

▼干潮
 潮の干満の差が2m以上の時もあります

海水(塩水)

堀川

水源	水量(m ³ /秒)
庄内川からの暫定導水	0.3
浅層地下水・下水再生水など	0.1
名城水処理センター放流水量	0.6
中川運河からの排水量	2.1
海水取水量	1.4
露橋水処理センター放流水量	0.7
新堀川合流量	1.9
堀留水処理センター放流水量	1.1
熱田水処理センター放流水量	0.3
伝馬町水処理センター放流水量	0.5
千年水処理センター放流水量	0.4
計	5.4

注) 潮位の変化に伴わない移動する水量は含まない

青字: 淡水
赤字: 塩水

(参考) 堀川・新堀川の主な水源のイメージ

(資料) 水処理センター 日平均処理水量
令和4年度下水道統計
晴天時日平均下水量

6. 第38ステージ調査報告

6.1. はじめに ～コラム～

～コラム～ 堀川の浄化・再生をめざして

堀川1000人調査隊2010は、堀川の浄化と再生を願う市民の活動の場(定点観測隊、自由研究隊、応援隊)として、2007年(平成19年)4月22日に発足しました。

定点観測隊は、水質改善施策の実施による堀川の浄化効果の確認、水質の実態及び汚濁の原因の解明をめざして、市民の視点と感覚で調査をしています。自由研究隊は、堀川を自由な視点で研究をしています。応援隊は、自由なスタイルで堀川の浄化・再生を応援しています。そして、この3つの活動が堀川の浄化と再生を願い、大きなネットワークの中でお互いに手をつないで活動をしています。

現在の調査隊の登録状況(2026年(令和8年)3月28日現在)は、定点観測隊が110隊、自由研究隊が40隊、応援隊が2,610隊の計2,760隊、53,737人です。発足時は165隊、2,262人でした。堀川の浄化と再生を願う市民のネットワークが大きく広がったことがわかります。(参照:2. 調査隊の登録状況_p.7~8)

定点観測隊の活動の状況について説明します。定点観測隊は38ステージ終了までの間に21,781件の観測を実施しました。これまでの調査で、堀川の猿投橋から下流の区間や新堀川(感潮区間)では、潮の干満によって、水域の様子が時々刻々と変化していることがわかってきました。また、定点観測隊がたくさんの観測(色々な場所、潮の状態、時間帯に観測)をすることで、市民の視点と感覚で水質の平均的な状態、泡、におい、ごみ、生き物の様子などが分かり、その変化の傾向もとらえられることがわかりました。(参照:3. 調査期間・調査結果の報告数_p.9~10)

～堀川浄化の社会実験(2007年(平成19年)4月~2012年(平成24年)3月 木曾川からの導水による浄化効果を確認)～

堀川浄化の社会実験の5箇年では、木曾川からの導水(毎秒0.4m³)による水質改善の範囲が概ね“松重橋～猿投橋間”であったことを確認しました。また、この活動の期間にごみ(人工ごみ:プラスチック系など)が減少したことを確認しました。清掃活動が活発化するなど、市民の意識が変化したためと考えられます。

【社会実験5箇年のとりまとめ】

- 松重橋～猿投橋間で木曾川からの導水による浄化の効果を確認
- 堀川の浄化と再生を願う市民のネットワークが拡大
- 清掃活動が活発化するなど市民の浄化意識が向上



27

第38ステージ(秋～初冬:9月20日～12月15日)は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行(2023年(令和5年)5月)して約2年半が経過した状況での調査でした。インフルエンザの感染拡大が心配されたこともありましたが、調査隊の活動は社会経済も市民の日常生活も概ね正常な状況の中で行うことができました。

(1) 気象等について(参照:4.気象の状況_p.11~16)

今年のソメイヨシノの開花(名古屋)は、平年とほぼ同じの3月26日、満開は4月4日でした。また、梅雨入りは平年よりもかなり早い5月17日頃でした。38ステージの平均気温は、平年値(9月～12月平均15.7℃)よりも高い17.2℃でした。特に9月～10月中旬までの気温がかなり高くなりました。降水量は平年値(9月～12月平均133.0mm/月)よりも少ない97mm/月でした。日照時間は平年値(9月～15月平均166.5時間/月)程度の160時間/月でした。

(38ステージの気象等の特徴)

・気温は平年値よりも高い ・降水量は平年値よりも少ない



(2) 新たな水質改善施策の実施について(参照:5.主な水質改善施策の実施状況_p.17~26)

木曾川からの導水が停止(2010年(平成22年)3月)した後は、水質改善を実現するための新たな施策が実施されてきました。昨年度(2024年度(令和6年度))は千年水処理センターの簡易処理高度化施設が供用し、堀川の辻栄橋～新堀橋間に潮溜が形成され、新堀川の舞鶴橋環境井戸からの放流が始まりました。

これまでの主な施策としては、堀川では護岸整備に伴い川底のヘドロ浚渫が継続的に実施されています。また、近年では2019年度(令和元年度)に合流式下水道の改善を図るため、堀川左岸雨水滞水池と名城水処理センターの簡易処理高度化施設が供用しました。2021年度(令和3年度)には、新たに堀川の旭橋上流に浅層地下水を利用するための10本目の井戸が掘られ、堀川への導水(0.002m³/s)が始まりました。新堀川では2017年度(平成29年度)と2018年度(平成30年度)に合流点付近と上流区間で悪臭対策として川底のヘドロ浚渫が実施されました。また、新堀川の上流端の堀留水処理センターでは2018年度(平成30年度)に簡易処理高度化施設が供用しました。

(3) 堀川の水質の変化について(参照:6.2.堀川の変化 6.2.1.水の汚れの印象と評価～6.2.7.ごみ_p.37~63)

堀川の水質は、木曾川からの導水停止後に悪化しました。その後は気象条件などによって悪化することもありましたが、総じて少しずつ改善の傾向が見られています。

導水停止後の秋～初冬の水の汚れの印象は、増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向であることが分かります。しかし、松重橋～朝日橋間では他の区間よりも改善に遅れが見られます。

においは、少しずつ“どぶ臭”・“ヘドロ臭”の構成比率が減少し、“無臭”が増加(改善)しました。無臭の構成比率の増加は新たな水質改善施策の実施による効果だと考えています。38ステージは無臭が94%まで増加(改善)しました。

28

(4) 堀川と新堀川の潮回りによるちがい (その2)

(参照: 6.5.堀川と新堀川の潮回りによるちがい (その2) p.94~110) 悪 ← → 良

項目	堀川								新堀川																		
	大瀬子橋～松重橋		松重橋～朝日橋		朝日橋～猿投橋		内田橋～立石橋		立石橋～宇津木橋		宇津木橋～舞鶴橋		宇津木橋～舞鶴橋		宇津木橋～舞鶴橋												
	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬											
水の汚れの印象 きれい～どちらともいえないの割合 (%)	小潮	77	86	61	46	65	82	49	58	27	41	25	52	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	77	84	21	43	66	77	25	52	15	28	23	43
	大潮	67	84	20	41	67	71	29	49	10	44	17	30	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	66	85	22	51	78	92	46	66	14	46	18	36
水の色 の印象 快速～どちらともいえないの割合 (%)	小潮	80	89	62	51	72	89	60	61	43	52	43	55	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	79	87	28	47	74	91	48	60	19	29	39	41
	大潮	66	85	22	51	78	92	46	66	14	46	18	36	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	66	85	22	51	78	92	46	66	14	46	18	36
水の色 ヘドロ系の色 の割合 (%)	小潮	1	11	13	34	2	1	9	6	3	11	2	7	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	2	10	33	37	1	1	0	17	2	4	2	4
	大潮	10	5	42	25	2	0	3	21	6	7	5	5	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	10	5	42	25	2	0	3	21	6	7	5	5
水の色 白濁系の色 の割合 (%)	小潮	36	39	19	29	20	11	34	30	52	22	64	52	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	36	39	19	29	20	11	34	30	52	22	64	52
	大潮	51	33	34	22	19	9	50	37	56	54	64	49	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	51	33	34	22	19	9	50	37	56	54	64	49
泡 川底からの泡 の割合 (%)	小潮	3	0	11	5	14	4	13	0	11	0	76	10	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	3	0	13	5	15	4	5	4	4	0	80	27
	大潮	15	0	34	9	13	4	29	8	10	0	76	23	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	15	0	34	9	13	4	29	8	10	0	76	23
におい におわない の割合 (%)	小潮	97	93	84	76	96	98	81	91	57	65	29	39	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	97	93	84	76	96	98	81	91	57	65	29	39
	大潮	95	95	55	62	98	99	65	92	47	67	30	25	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	95	95	55	62	98	99	65	92	47	67	30	25
大潮	83	94	54	74	97	99	56	59	52	56	26	29	3月-8月 春・夏	9月-2月 秋・冬	83	94	54	74	97	99	56	59	52	56	26	29	

松重橋～朝日橋間

特に3月～8月(春・夏)の大潮・中潮等の時に川底のヘドロが攪拌されて印象が悪化

堀川

9月～2月(秋・冬)よりも3月～8月(春・夏)は、気温が高く・降水量が多いため、水域に有機物が多く流入して、川底でヘドロが生成されやすい環境になりやすく、特に大潮・中潮等に川底のヘドロが攪拌されやすいためと考えています。

宇津木橋～舞鶴橋間

特に3月～8月(春・夏)の大潮時に底泥中の硫化物が水域に解放されて印象が悪化

新堀川

9月～2月(秋・冬)よりも3月～8月(春・夏)は、気温が高く・降水量が多いため、水域に有機物が多く流入して、底泥中で硫化物が生成されやすい環境になりやすく、特に大潮時に水域に解放されやすいためと考えています。

悪 ← → 良

(5) 堀川と新堀川の潮位によるちがい

(参照: 6.6.堀川と新堀川の潮位によるちがい p.111～121)

堀川

松重橋～朝日橋間

特に潮位が低下した時に川底のヘドロが攪拌されて印象が悪化

他の区間よりも“ヘドロ系の水の色”の割合が多く、特に潮位が低い時に水色の印象が悪いことが分かりました。潮位が低下した時に川底のヘドロが攪拌されやすい環境になるためだと考えています。

新堀川

宇津木橋～舞鶴橋間

特に潮位が低下した時に底泥中の硫化物が水域に解放、大気に揮散されて印象が悪化

他の区間よりも“川底からの泡”、“白濁系の水の色”の割合が多く、“におわない”の割合が少なく、特に潮位が低い時にその傾向が顕著に表れていることが分かりました。潮位の低下とそれに伴う川底の水圧の低下により、底泥中の硫化物が水域に解放、大気に揮散されやすい環境になるためだと考えています。

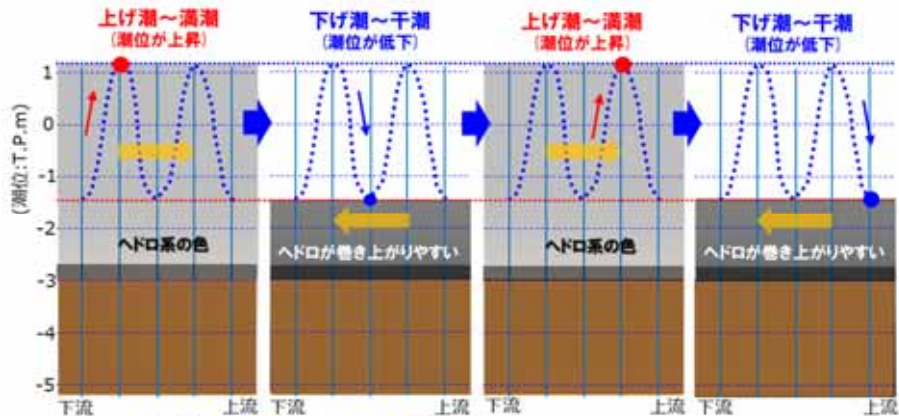
項目	潮位の区分 T.P.cm	堀川				新堀川								
		大瀬子橋～松重橋	松重橋～朝日橋	朝日橋～猿投橋	内田橋～立石橋	立石橋～宇津木橋	宇津木橋～舞鶴橋	宇津木橋～舞鶴橋						
水の汚れの印象 きれい～どちらともいえないの割合 (%)	50cm以上	83	41	70	53	26	36	50cm未満～0cm以上	81	40	71	58	34	35
	0cm未満～50cm以上	77	45	75	40	32	39	-50cm未満	68	20	83	27	7	13
	-50cm未満	68	20	83	27	7	13	50cm以上	89	47	86	62	43	43
水の色 の印象 快速～どちらともいえないの割合 (%)	50cm以上	89	47	86	62	43	43	50cm未満～0cm以上	85	46	83	71	44	45
	0cm未満～50cm以上	80	49	81	53	34	46	-50cm未満	68	26	87	41	9	18
	-50cm未満	68	26	87	41	9	18	50cm以上	9	36	1	6	16	0
水の色 ヘドロ系の色 の割合 (%)	50cm以上	9	36	1	6	16	0	50cm未満～0cm以上	7	28	1	9	7	5
	0cm未満～50cm以上	7	30	1	14	4	3	-50cm未満	4	35	2	6	2	5
	-50cm未満	4	35	2	6	2	5	50cm以上	36	19	10	41	13	57
水の色 白濁系の色 の割合 (%)	50cm以上	36	19	10	41	13	57	50cm未満～0cm以上	35	30	14	27	42	49
	0cm未満～50cm以上	36	29	16	37	54	60	-50cm未満	44	25	16	48	71	78
	-50cm未満	44	25	16	48	71	78	泡	0	9	0	0	0	24
泡 川底からの泡 の割合 (%)	50cm以上	0	9	0	0	0	24	50cm未満～0cm以上	0	5	8	6	3	43
	0cm未満～50cm以上	2	9	8	8	3	37	-50cm未満	13	34	7	22	10	72
	-50cm未満	13	34	7	22	10	72	におい におわない の割合 (%)	94	56	99	65	55	26
におい におわない の割合 (%)	50cm以上	94	56	99	65	55	26	50cm未満～0cm以上	95	72	98	93	65	35
	0cm未満～50cm以上	93	73	98	74	62	33	-50cm未満	87	60	88	53	40	19
	-50cm未満	87	60	88	53	40	19							

(参考資料) 潮位によるちがい (イメージ図)

松重橋～朝日橋間

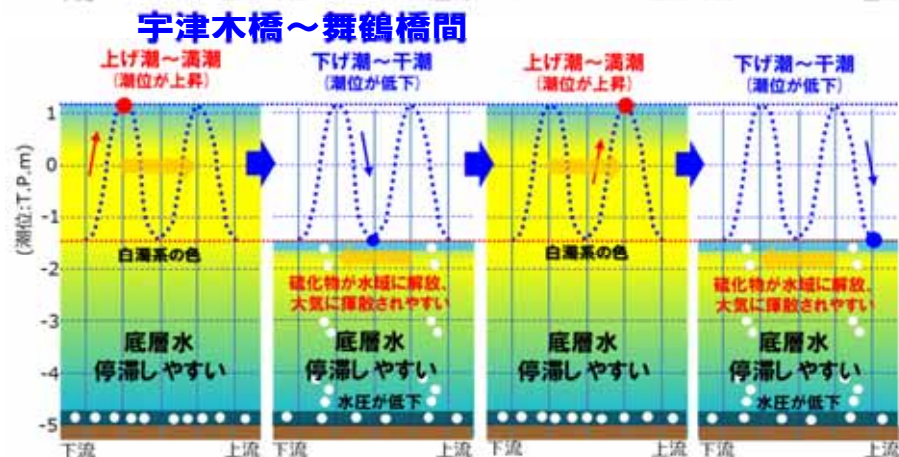
堀川
大潮時

川底にヘドロが堆積していると、潮位が低下した時にそのヘドロが巻き上がりやすい環境になります。



新堀川
大潮時

底泥中に硫化物が生成・蓄積されていると、潮位が低下した時に川底の水圧が低下して、その硫化物が水域に解放、大気に揮散されやすい環境になります。また、硫化物を多く含む底層水が表層部分にあると硫化物が大気に揮散されやすい環境になります。



(6) 除草で改善した水辺環境 (年2回除草) (参照: 6.7. 除草で改善した水辺環境 (年2回除草) p.122~128)

第31回調査隊会議

今後、水辺を除草して、その後の浮遊物(自然由来)の変化を確認する。

2022年度から
名古屋시가水辺の除草を実施

- ① 除草の範囲・回数は例年どおり実施
- ② 猿投橋下流を対象にひとりばえの木を撤去を実施
- ③ 田橋橋から名城公園間のヨシの刈り込みを実施

年2回除草実施

- 2023年度
1回目: 7月18日頃
2回目: 11月25日頃
- 2024年度
1回目: 6月10日頃
2回目: 11月13日頃
- 2025年度
1回目: 7月9日頃
2回目: 12月10日頃

除草後の観察・記録

項目	2023年			2024年			2025年		
	7月中旬			6月上旬			7月上旬		
	1回目除草			1回目除草			1回目除草		
6月	上旬								
	中旬								
7月	上旬								
	中旬		1回目除草		●1箇月後			1回目除草	
8月	上旬								
	中旬		●1箇月後		●2箇月後			●1箇月後	
9月	上旬								
	中旬		●2箇月後		●3箇月後			●2箇月後	
10月	上旬								
	中旬		●3箇月後		●4箇月後			●3箇月後	
11月	上旬								
	中旬		●4箇月後		2回目除草開始			●4箇月後	
12月	上旬								
	中旬		2回目除草開始					2回目除草開始	
	上旬								
	中旬								

6月上旬に除草した場合、短期間に除草前の状態に戻ってしまうようです。梅雨の期間は、梅雨明け後よりも植物の生長が著しいためと考えています。効果的な除草の時期を考えるための観察と記録の継続が必要だと考えています。

1回目の除草 4箇月後の様子

7月中旬除草

6月上旬除草

7月上旬除草



(7) 堀川・新堀川で冬を越す水鳥たちのなぞ (参照: 6.8.2. 堀川・新堀川で冬を越す水鳥たちのなぞ p.130~141)

堀川・新堀川で冬を越すのはなぜ?
どのように冬を越しているの?

(まとめ) 市民による堀川・新堀川での採餌と休息の観察・記録

水鳥たちは 何を食べている? どこで休息している?

水面採餌種	・浮遊する植物の種子、植物片など ・川底・水際の水草・藻類など ・浮遊物・底泥中のもの	安全で風が避けられる水際の平場
潜水採餌種	川底と水際の動植物	安全で風が避けられる水面

(市民の気づき)

都市河川の水鳥(冬鳥)たちに
配慮した水環境の維持・創出

- さらなる水質の改善
- 安全で風が避けられる水際の平場と水面の維持・創出

(参考) 水面採餌種の様子



潜水採餌種の様子



堀川・新堀川で主に観察・記録された水鳥(冬鳥)たち

■ 水面採餌種 7種類



■ 潜水採餌種 3種類



(8) 堀川の主な生き物

(参照: 6.8.1. 堀川の主な生き物 p.129)
魚類31種、甲殻類8種、鳥類53種などが確認

色々な生き物が見られ、種によっては
成育・繁殖も確認されるようになりました。
→食物連鎖による自浄作用が回復



撮影: 事務局
2025年(令和7年)6月9日
場所: 堀川・黒川橋~志賀橋間

撮影: 朋和設備調査隊
2025年(令和7年)10月23日
場所: 堀川・北清水橋~黒川橋間

堀川は水質が少しずつ改善し、魚類31種、甲殻類8種、鳥類53種などが確認され、種によっては成育・繁殖する姿が確認されるなど、生態系が戻りつつあります。この生態系の回復は、堀川の自浄作用の回復を意味するものと考えています。今年は昨年に引き続いて、堀川の上流でアユが確認されました。堀川の水環境の改善が市民の目により明確に見えてきたように感じています。

(9) 空芯菜のハダニ被害と猛暑は関係がある? (その2) (参照: 6.9.2. 空芯菜による堀川浄化実験 p.146~148)

ハダニの被害

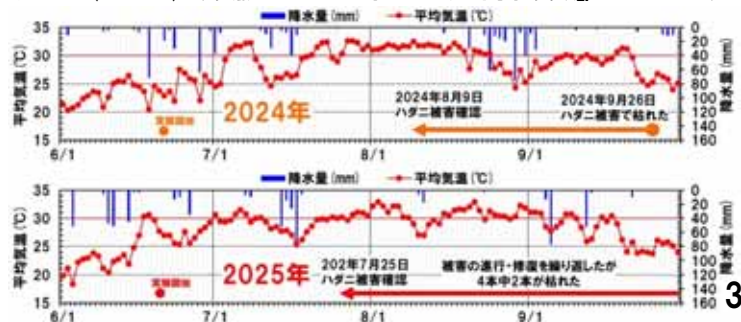
7月下旬から
8月上旬に顕在化

2025年 4本中2本が枯れた



9月になっても
30℃を超える日が
連続すると被害の修復
ができなくなる?

9月まで続く
猛暑が関係?



「名古屋の母なる川 堀川」の再生をめざす市民の願い

「名古屋の母なる川 堀川」の再生をめざして！

私たちは、市民(民学産)と行政がいっしょになって堀川の浄化に取り組んできました。

その結果、堀川の水の汚れの印象は、木曾川からの導水停止後(2010年(平成22年))に悪化しましたが、今は行政が実施している新たな水質改善施策により、総じて改善の傾向が確認されています。

今年は昨年に続き2年連続で上流区間(黒川橋～猿投橋間)でアユ(幼魚)の群れが確認され、モクスガニ(稚ガニ)が遡上する姿、大きなボラの息も確認されるなど、生態系の回復の確かな兆しも見えてきました。

一方で松重橋～朝日橋間の水の汚れの印象の改善がまだまだ遅れていることが確認され、有機物の流入の削減、川底の貧酸素化の改善の検討・実施・継続の必要性があらためて明らかになりました。さらに川幅が広がっている田幡橋～黒川橋間では、水の汚れの印象が急激に悪化する様子の報告があり、浮遊物が川底に沈降・堆積(底泥化)し、堆積した底泥が貧酸素化しやすい環境になっていることが確認されたことから、河道の形状を含めた改善の必要性が明らかになりました。そして、これらは行政により対策が進められています。

また、これまでの堀川一斉調査では、過去の調査との比較で“庄内川暫定導水による水域の希釈、酸素の供給、下流に押し流す効果”が確認され、“船の定期運航による水域・ヘドロの攪拌、酸素の供給、浮遊物質を沈降しにくくする効果”もあらためて確認され、舟運の実施と新たな水源の確保が水域・川底の環境の更なる改善に寄与する施策として期待が膨らみます。

「名古屋の母なる川 堀川」の再生をめざす市民の願い

私たちは更なる改善に期待をしています。

今後の対策の方向性

行政による水質改善施策の検討・実施・継続

- ・有機物の流入を削減
(三の丸地区における分流化などの合流改善)
- ・川底の貧酸素化の改善
(河川整備にあわせてヘドロ除去など)
- ・上流からの導水の水質改善と新たな水源の確保
- ・船の定期運航の実現、運航区間の拡大、運航頻度の増加
- ・川幅が広がった区間の改善
(田幡橋～黒川橋間など)

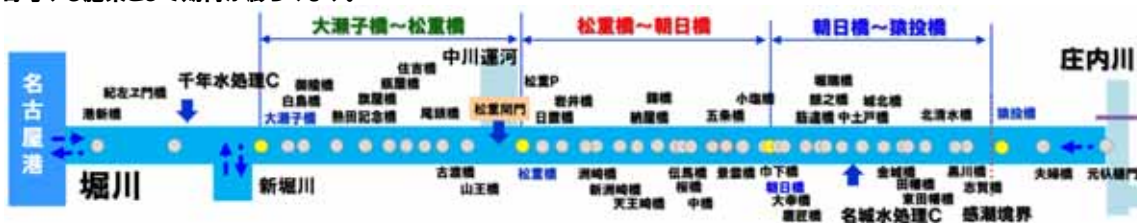
おもてなしの心で、再び「堀川へ」、「名古屋へ」、「愛知へ」、「日本へ」と思っていたら大会になることを願っています。



木曾川からの導水

愛知・名古屋2026アジア・アジアパラ競技大会

おもてなしの心



2007年(平成19年) 結成

「名古屋の母なる川 堀川」の再生をめざして！

私たちは、市民(民学産)と行政がいっしょになって堀川の浄化に取り組んできました。

今年は昨年に続き2年連続で上流区間(黒川橋～猿投橋間)でアユ(幼魚)の群れが確認され、モクスガニ(稚ガニ)が遡上する姿、大きなボラの息も確認されるなど、「生態系の回復」の兆しも見えてきました。

私たちはこれまでの市民の調査結果から、水質改善施策の実施直後にあらわれる改善効果(=直接的な改善効果)のほかに、施策が継続されたことで少し遅れてあらわれてくる効果があることに気がつきました。ここでは木曾川からの導水による改善のメカニズムを「改善の3つのスイッチ」と「改善のスパイラル」で表現した仮説をたててみました。

(仮説) 木曾川からの導水による市民の印象の改善スパイラル

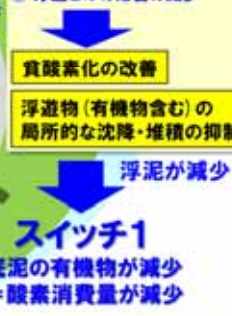
(出典) 第33回調査報告会 p.56修正版



水質改善施策の継続 + 木曾川からの導水

(導水の効果 = 希釈・押し流す)

- 1 希釈による有機物濃度の低下
- 2 水中への直接的な酸素の供給
- 3 流速の増加
- 4 水温の低下及び上昇の抑制
- 5 浮遊ごみの滞留の減少



市民の印象がさらに改善

- 水の色(白濁系、ヘドロ系)が改善
- におい(腐卵臭、ヘドロ臭)が改善
- 川底からのあわの発生が減少
- 浮遊ごみの滞留が減少

6.2. 堀川の変化

6.2.1. 水の汚れの印象と評価

■水の汚れを評価

水の汚れに対する印象を5段階で評価

- ①きたくない
- ②ややきたくない
- ③どちらともいえない
- ④ややきれい
- ⑤きれい

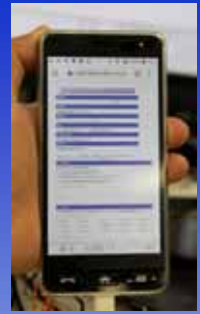
■水の汚れの印象を評価した

主となる項目を1つ選択

- ①色
- ②におい
- ③透明感
- ④ごみ
- ⑤泡
- ⑥生き物の様子
- ⑦その他

- ・水の汚れの印象は？
- ・水の透明感？
- ・水の色は？
- ・泡は？
- ・臭いは？
- ・ごみは？
- ・生き物たちは？

定点観測結果
入力ホーム QRコード



調査の結果は、スマートフォンなどからも入力が可能です。お散歩、お買い物、通勤、通学時などに見た堀川・新堀川の様子を、お気軽に報告してください。透視度やCODの測定値がなくても結構です。



カメラやスマートフォンなどで、堀川の様子を撮影して、事務局に送ってください。調査結果のとりまとめの貴重な情報になっています。調査をしている様子もぜひ送ってください。■メールアドレス 2010@horikawa100nin.jp

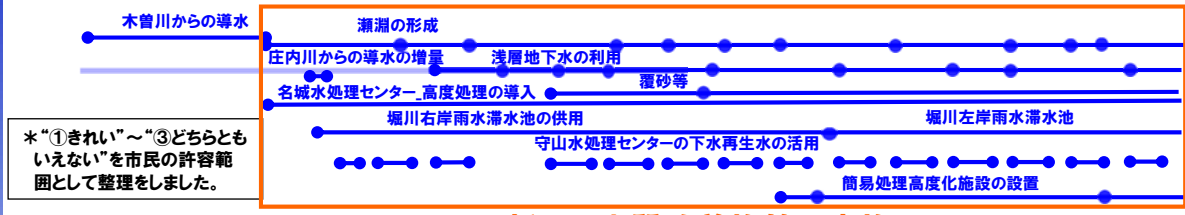


堀川の水の汚れの現状を市民の目線で評価をしています。

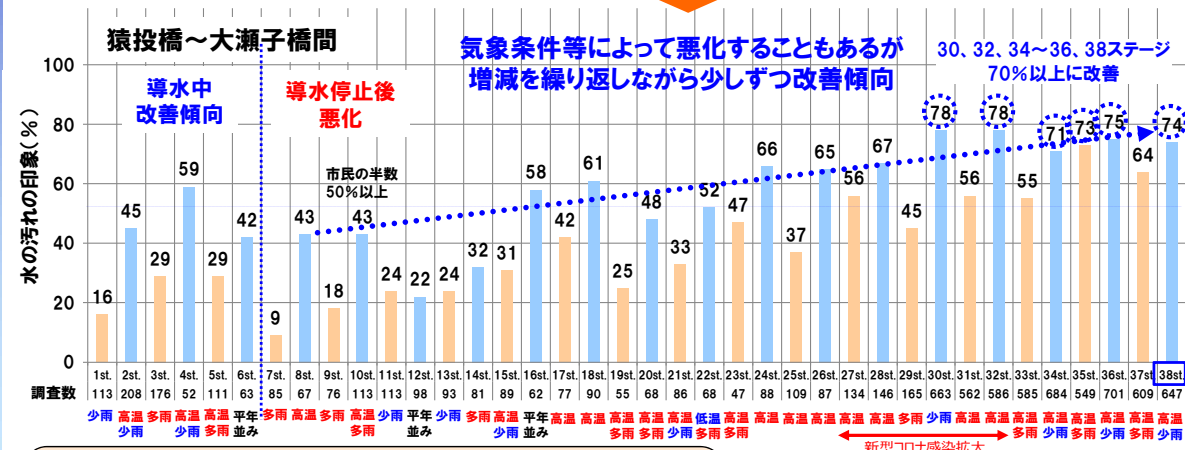
水の汚れの印象 “きれい”～“どちらともいえない”の割合

注)調査数が少ない大瀬子橋～港新橋区間は除く (猿投橋～大瀬子橋間_平均値)

1～6ステージ：木曾川からの導水あり
前日・当日の降雨なし
7～38ステージ：木曾川からの導水なし
前日・当日の降雨なし



新たな水質改善施策の実施



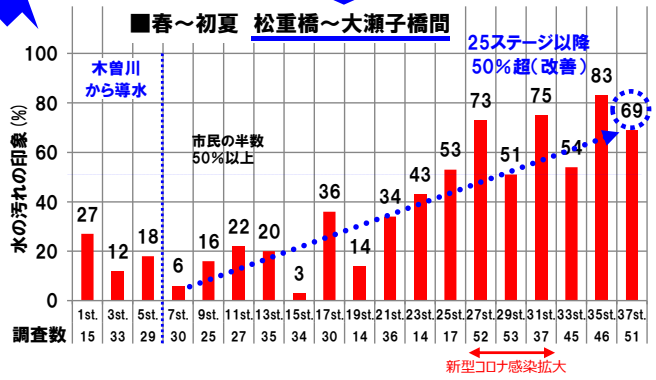
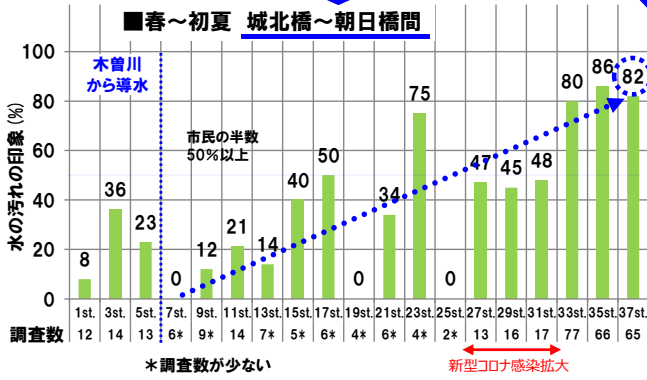
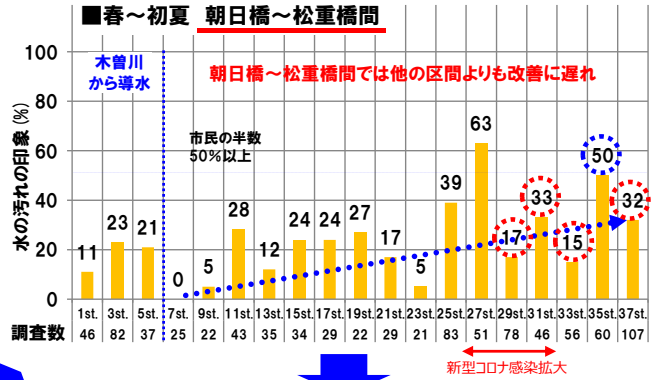
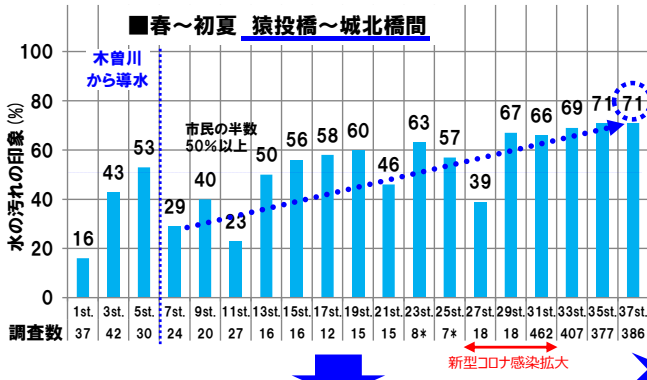
■猿投橋～大瀬子橋間の水の汚れの印象はどのように変化しましたか？
水の汚れの印象は、木曾川からの導水中に改善の傾向が見られました。しかし、導水停止後に悪化しました。その後は気象条件などによって悪化することもありますが、総じて少しずつ改善の傾向が見られています。34～36ステージ、38ステージの“きれい”～“どちらともいえない”の割合は70%以上でした。

“①きれい”～“③どちらともいえない”の割合を市民の許容範囲の指標として整理しました。“①きれい”～“③どちらともいえない”の参考評価値は、市民の半数の50%以上としました。

水の汚れの印象(区間平均値) ■春～初夏

“きれい”～“どちらともいえない”の割合

1～5ステージ：木曽川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
7～37ステージ：木曽川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



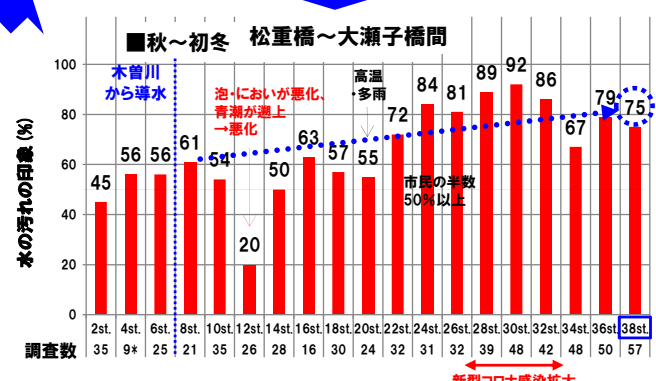
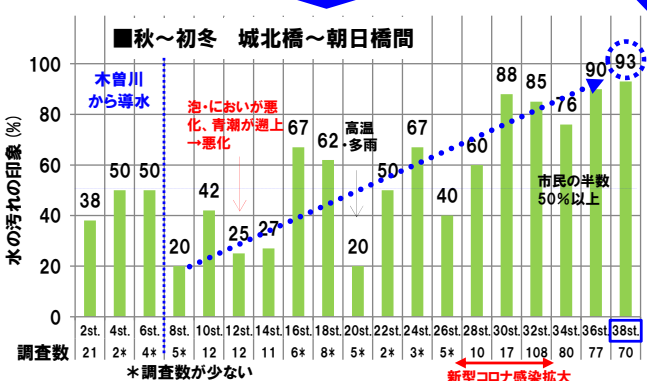
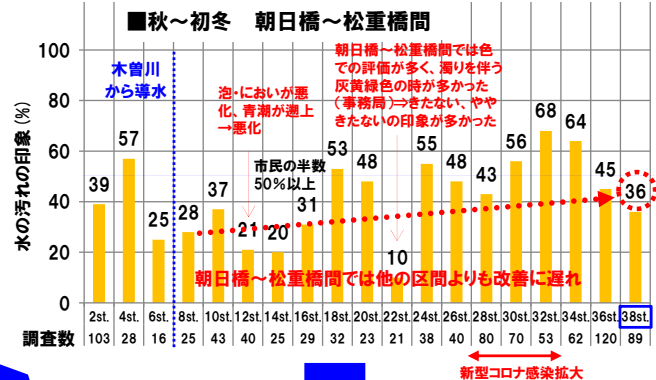
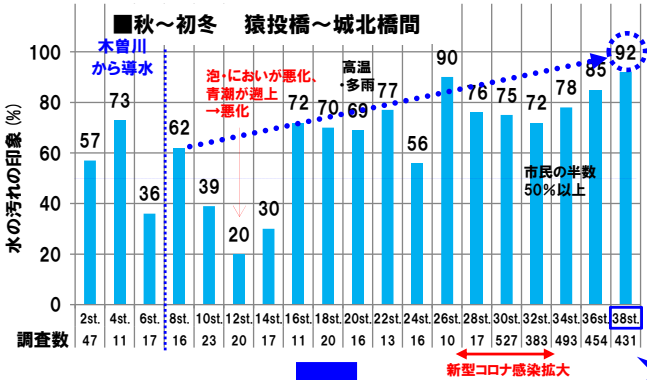
■ 区間毎(春～初夏)の水の汚れの印象はどのように変化したのか？
導水停止後の春～初夏の水の汚れの印象は、総じて増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向であることが分かります。しかし、朝日橋～松重橋間では他の区間よりも改善が遅れが見られます。



水の汚れの印象(区間平均値) ■秋～初冬

“きれい”～“どちらともいえない”の割合

第2～6ステージ：木曽川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
第8～38ステージ：木曽川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



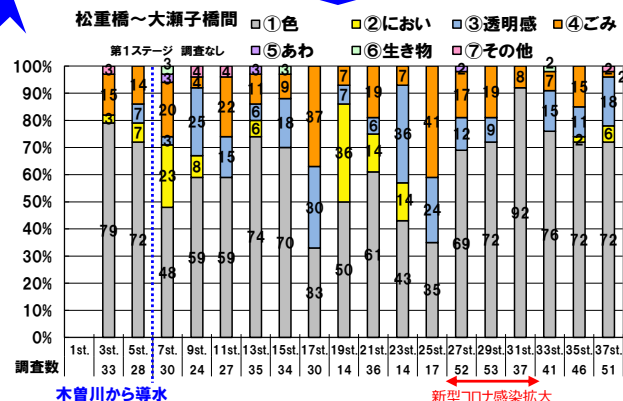
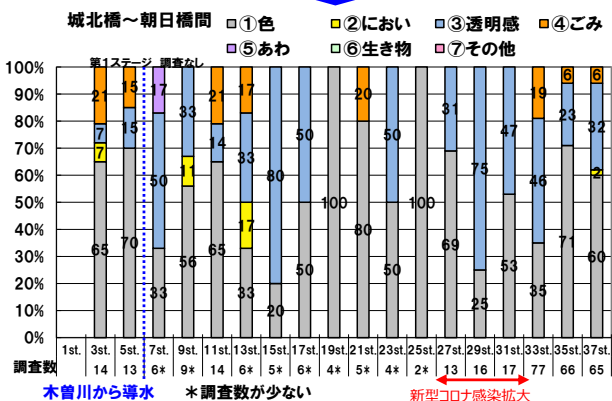
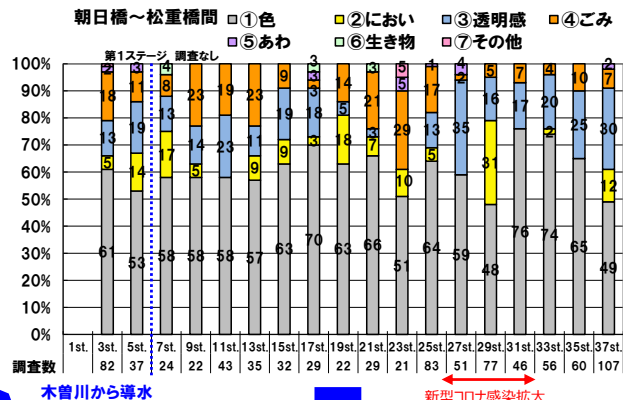
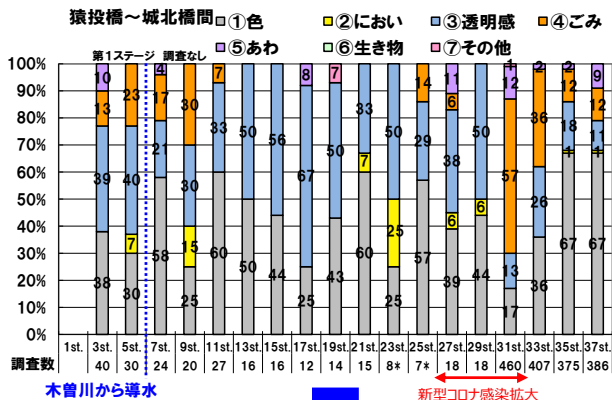
■ 区間毎(秋～初冬)の水の汚れの印象はどのように変化したのか？
導水停止後の秋～初冬の水の汚れの印象は、総じて増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向です。30ステージ以降、猿投橋～朝日橋間では、“きれい”～“どちらともいえない”の割合が70%以上になりました。特に38ステージは90%以上でした。しかし、朝日橋～松重橋間では他の区間よりも改善が遅れが見られます。



“①きれい”～“③どちらともいえない”の割合を市民の許容範囲の指標として整理をしました。“①きれい”～“③どちらともいえない”の参考評価値は、市民の半数の50%以上としました。

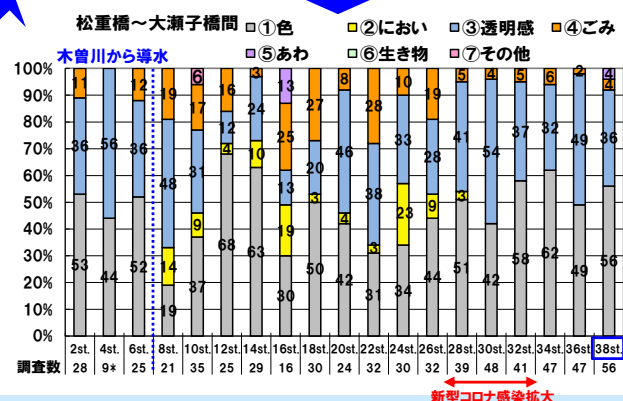
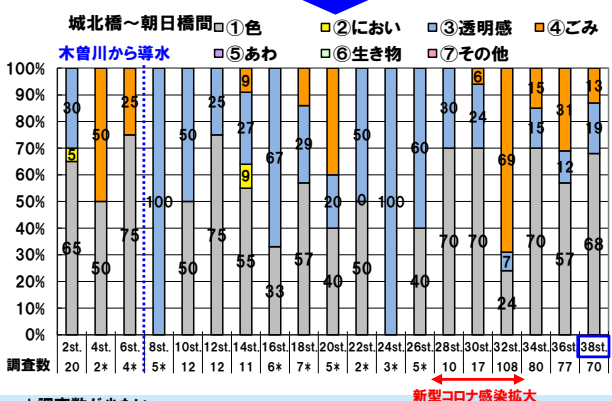
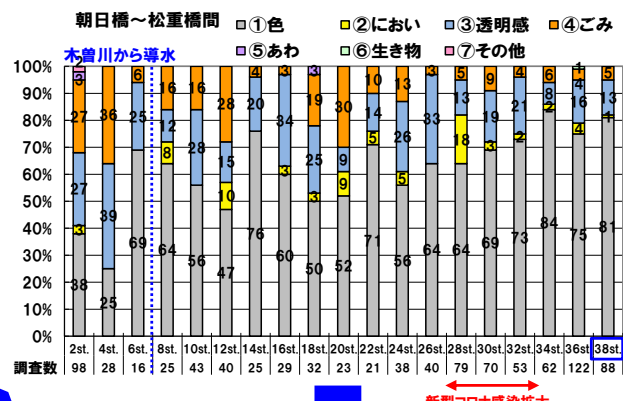
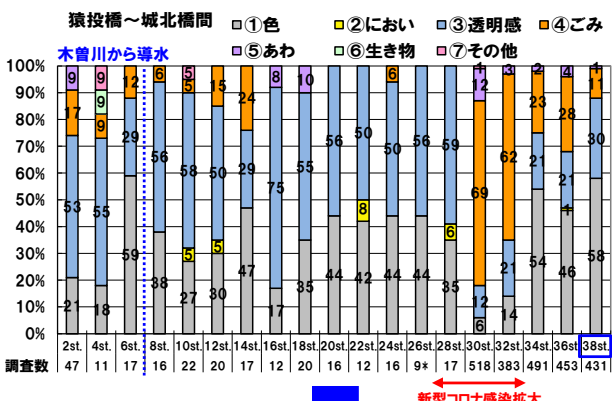
水の汚れの印象の評価 ■春～初夏

3～5ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
7～38ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



水の汚れの印象の評価 ■秋～初冬

2～6ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
8～36ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



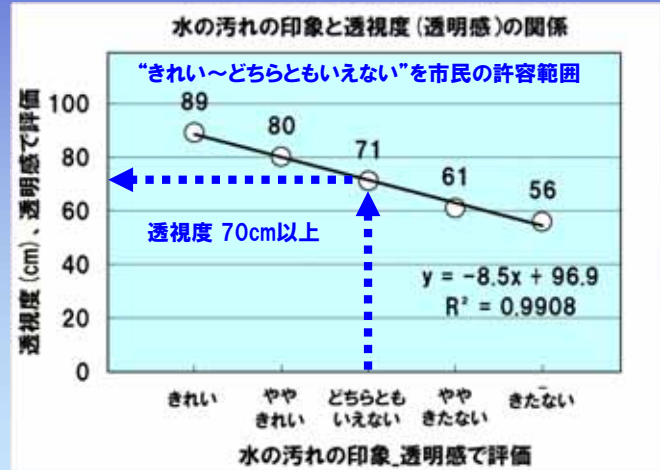
6.2.2. 透視度

透視度の測定



水の汚れの印象と透視度の平均値の関係

■使用データ 調査数:1143
2~38ステージ 堀川・全区間
降雨なし 期間外データ含む
汚れの印象の評価:透明感

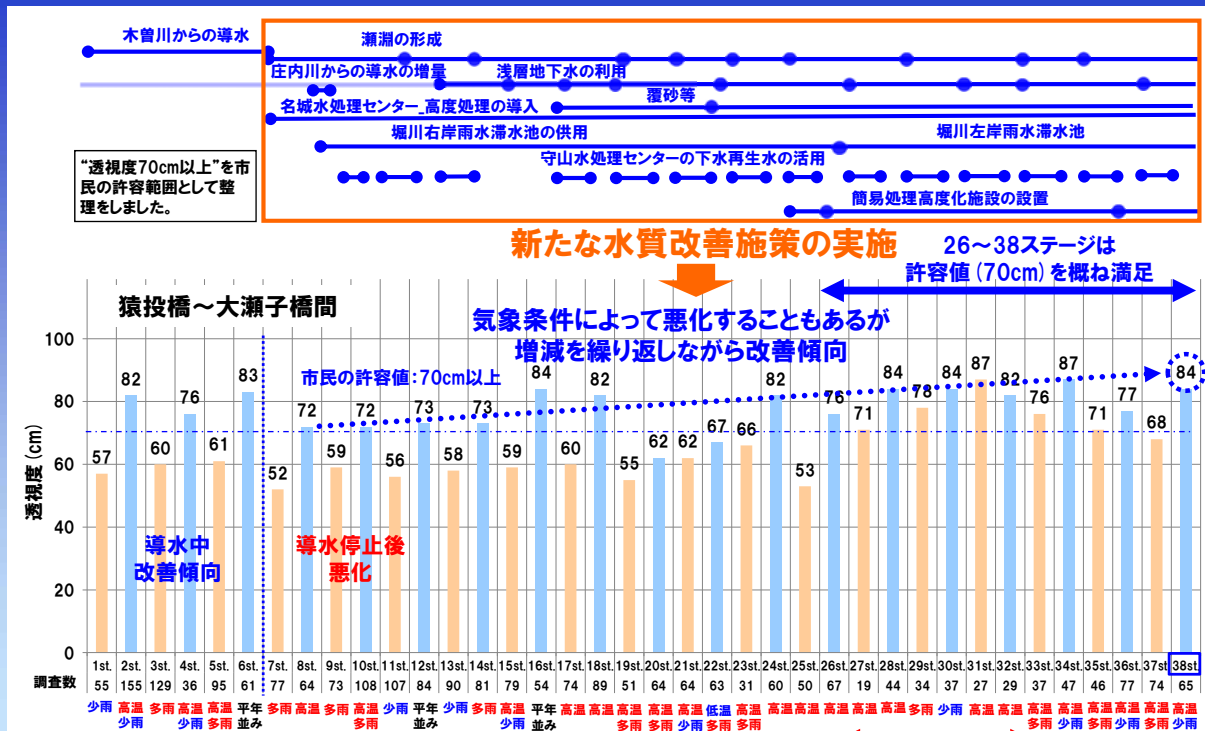


決定係数 R²:回帰式が実際のデータに当てはまっているかを判断する指標です。0から1の値で算出されます。1に近いほど回帰式が実際のデータに当てはまっていることを表しています。

43

透視度の変化 (猿投橋~大瀬子橋間_平均値)

1~6ステージ : 木曾川からの導水あり
前日・当日の降雨なし
7~38ステージ: 木曾川からの導水なし
前日・当日の降雨なし



■ 猿投橋~大瀬子橋間の透視度はどのように変化したのか?
透視度は、木曾川からの導水中に改善の傾向が見られました。しかし、導水停止後に悪化しました。特に導水停止後の春~初夏のステージは、25ステージまで市民の許容値の70cmを下回る60cm前後で推移をしていましたが、26~38ステージは市民の許容値(70cm)を概ね満足しました。

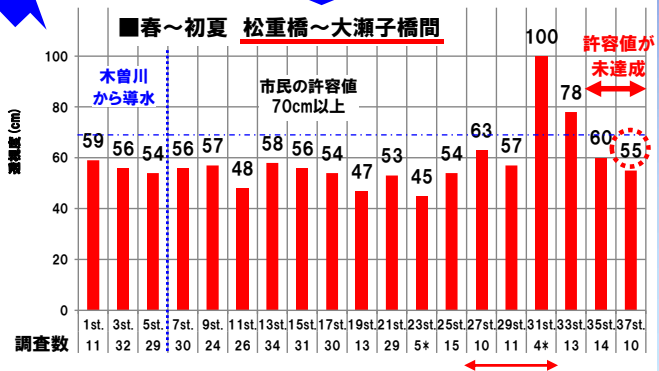
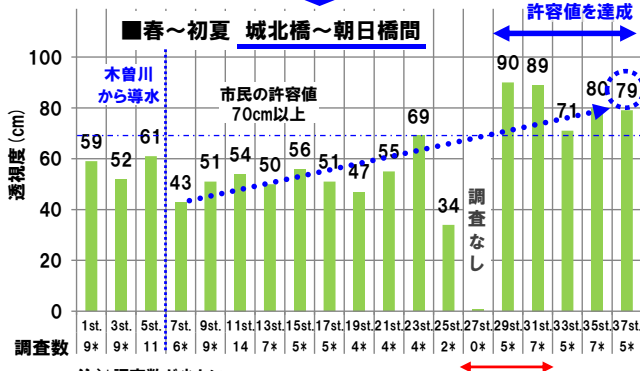
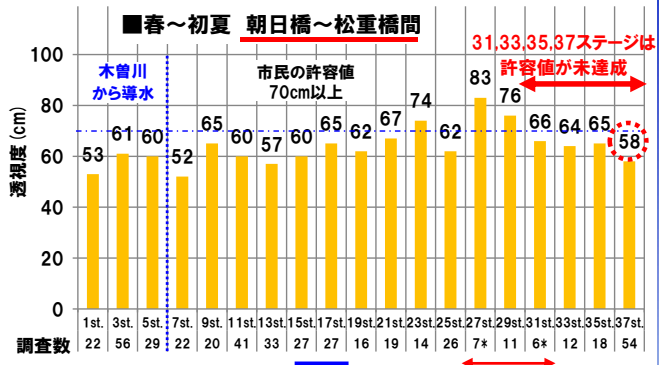
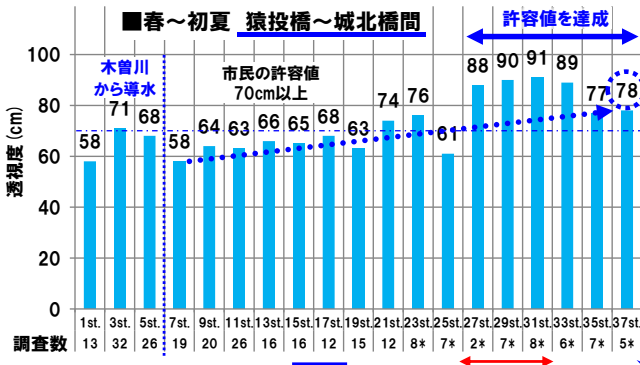


* 27stの城北橋~朝日橋間の調査がないため、27stの平均値は7st以降の春~初夏ステージの平均値を代入して算定した。

44

透視度の変化(区間平均値) ■春～初夏

1～5ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
7～37ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



注)*調査数が少ない

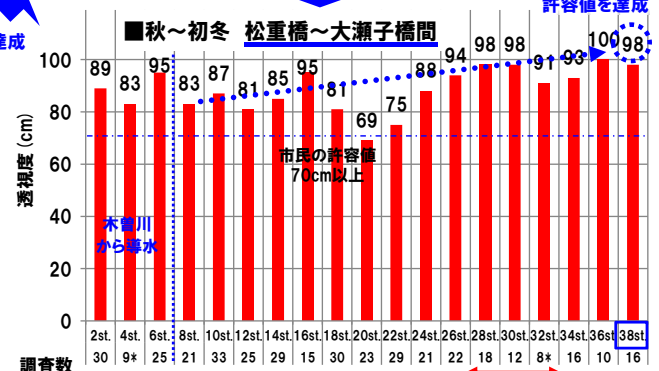
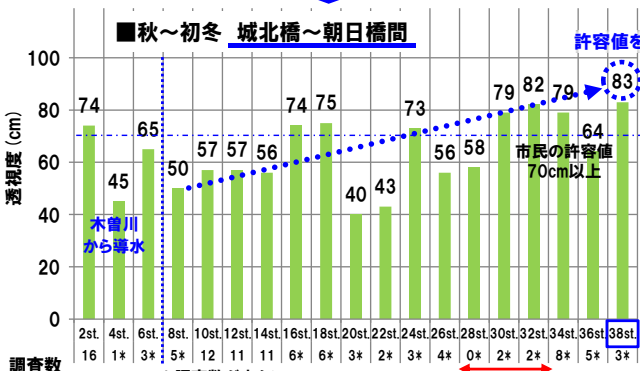
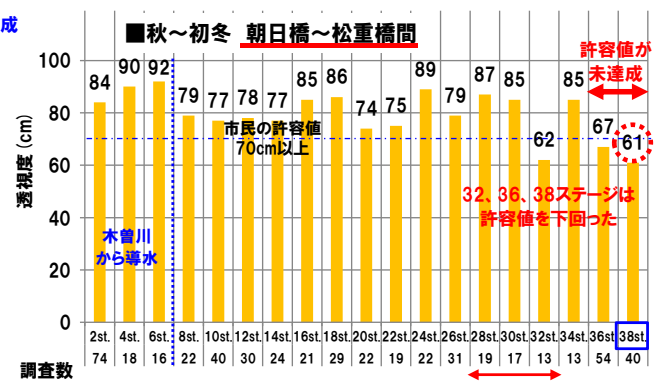
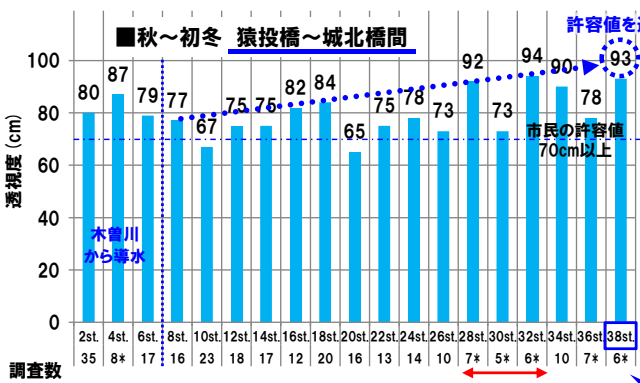
■ 区間毎(春～初夏)の透視度はどのように変化したのか？
導水停止後の春～初夏の透視度は、特に猿投橋～朝日橋間で増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向であり、許容値を達成しています。しかし、朝日橋～大瀬子橋間では改善が遅れが見られ、許容値が未達成の状況です。



“透視度70cm以上”を市民の許容範囲として整理をしました。

透視度の変化(区間平均値) ■秋～初冬

2～6ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
8～38ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



*調査数が少ない

■ 区間毎(秋～初冬)の透視度はどのように変化したのか？
導水停止後の秋～初冬の透視度は、猿投橋～朝日橋間、松重橋～大瀬子橋間で増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向であり、38ステージは許容値を達成しています。しかし、朝日橋～松重橋間は改善が遅れが見られ、許容値が未達成の状況です。



“透視度70cm以上”を市民の許容範囲として整理をしました。

6.2.3. COD

Chemical Oxygen Demand, 化学的酸素要求量。主に海域・湖沼における有機物等による水質汚濁の程度を示す項目。水中の有機物と反応(酸化)させた時に消費する酸素の量をいう。数値が高いほど汚濁の程度が高い。

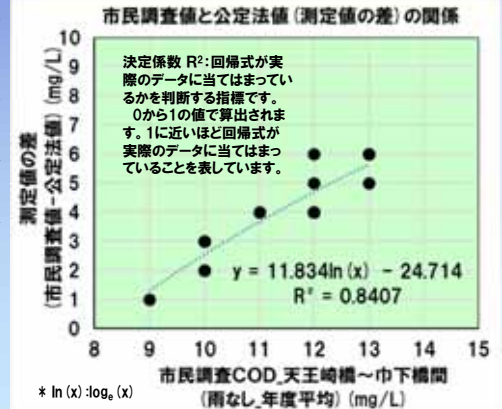
市民調査値(天王崎橋～巾下橋間)と公定法値(小塩橋)の関係



CODパケットテスト

年度	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
市民調査COD 天王崎橋～巾下橋間 (雨なし_年度平均) (データ数)	12 (114)	13 (121)	12 (74)	13 (72)	12 (72)	12 (83)	12 (64)	13 (75)	11 (67)	12 (44)	13 (51)	10 (46)	10 (69)	10 (28)	11 (26)	10 (32)	10 (27)	9 (138)
公定法値COD 小塩橋 (年度平均値)	8.1	7.4	5.6	8.2	8.3	8.0	8.0	7.5	7.5	6.7	7.5	7.2	8.1	7.6	7.4	7.0	7.5	7.9
測定値の差 (市民調査値 -公定法値)	4	6	6	5	4	4	4	6	4	5	6	3	2	2	4	3	3	1

(資料) 市民調査:各年度の天王崎橋～巾下橋間(小塩橋に近い地点)の調査結果の平均値(前日・当日の降雨なし)
公定法値(公共用水域水質調査):名古屋市環境局 堀川・小塩橋 年度平均値



■パケットテストの測定結果が公共用水域水質調査結果(公定法)よりも大きい値になった理由は?
パケットテストは、①比色紙(0.5,10,13,20,50,100mg/L)を用いて、色を肉眼で判断するため、詳細な測定結果が得られないこと、②水温による反応時間の管理が難しいため、誤差が広がりやすいことが理由としてあげられます。
一方、今回の比較の結果、有機的な汚れの変化の傾向を確認するためのツールとして、CODパケットテストの使用が有効であることがあらためて確認されました。

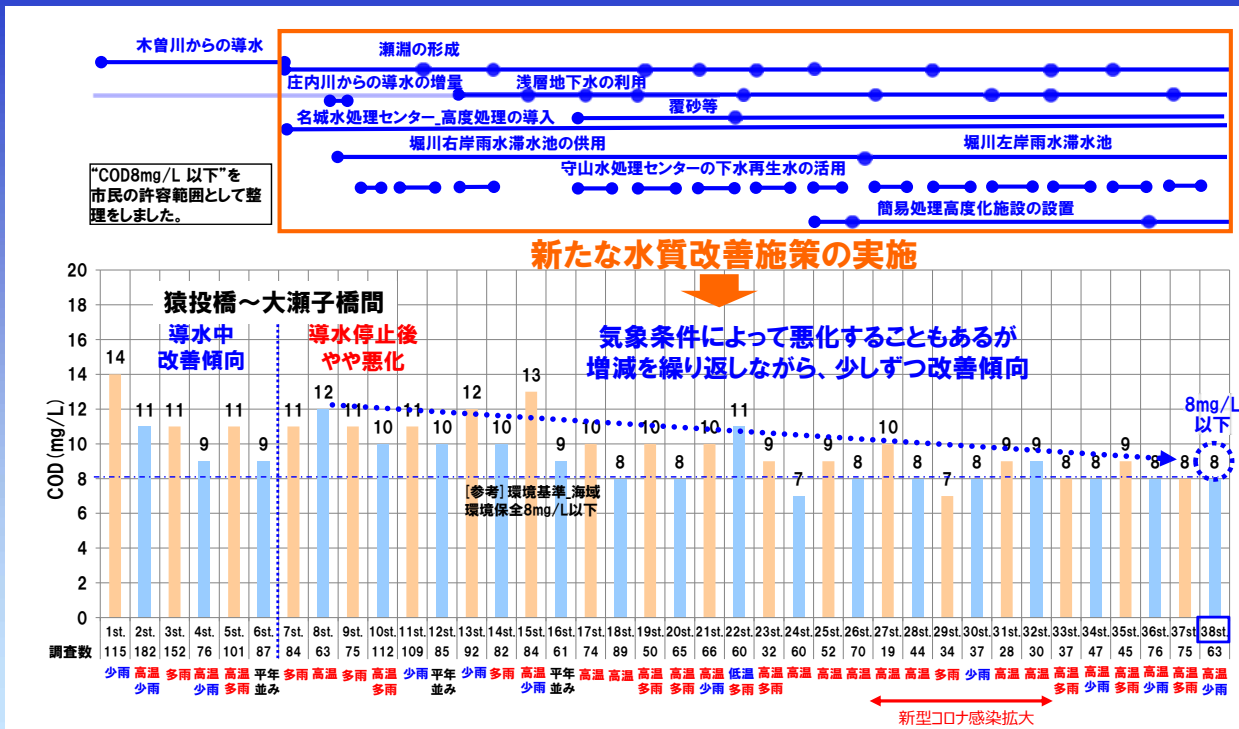


市民調査値と公定法値(測定値の差)の関係を整理した結果、市民調査値(パケットテスト)と公定法値(公共用水域水質調査)の測定値の差は、市民調査値が大きくなるに従って、差が大きくなる傾向が見られました。

CODの変化

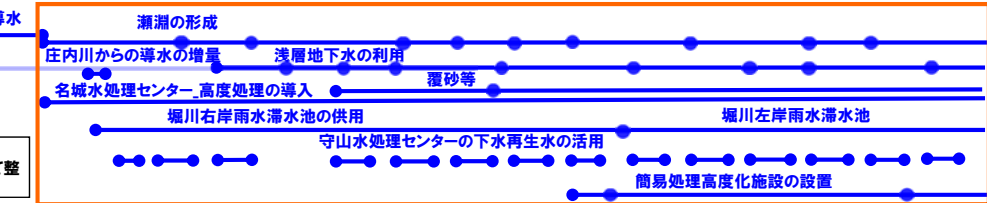
(猿投橋～大瀬子橋間_平均値)

1～6ステージ: 木曾川からの導水あり
前日・当日の降雨なし
7～38ステージ: 木曾川からの導水なし
前日・当日の降雨なし



新たな水質改善施策の実施

“COD8mg/L以下”を市民の許容範囲として整理をしました。



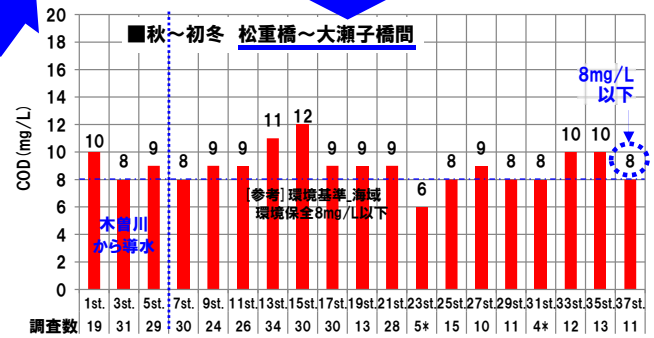
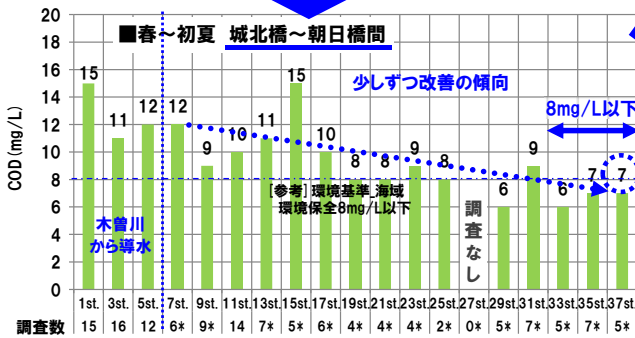
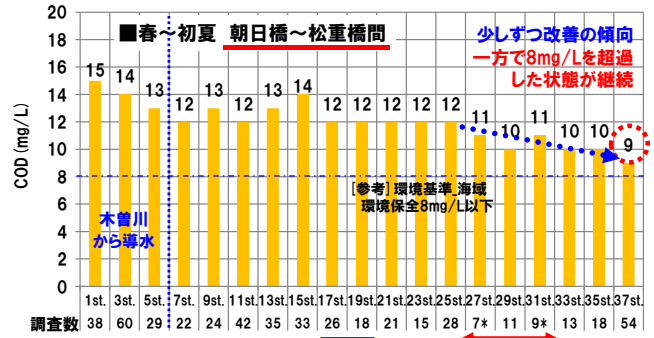
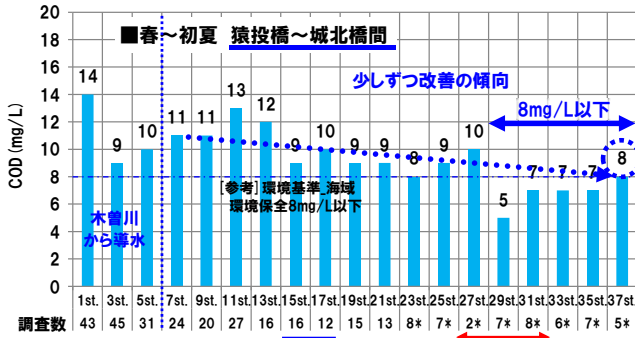
■猿投橋～大瀬子橋間のCODはどのように変化したのか?
導水中に改善の傾向が見られました。しかし、導水停止後にやや悪化しました。その後は気象条件などによって悪化することもありますが、少しずつ改善の傾向が見られます。



* 27stの城北橋～朝日橋間の調査がないため、27st、28stの平均値は7st以降の春～初夏ステージ、秋～初冬ステージのそれぞれの平均値を代入して算定した。

CODの変化(区間平均値) ■春～初夏

1～5ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
7～37ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



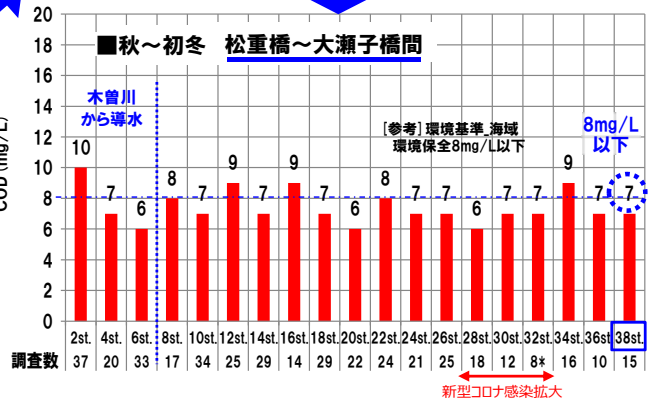
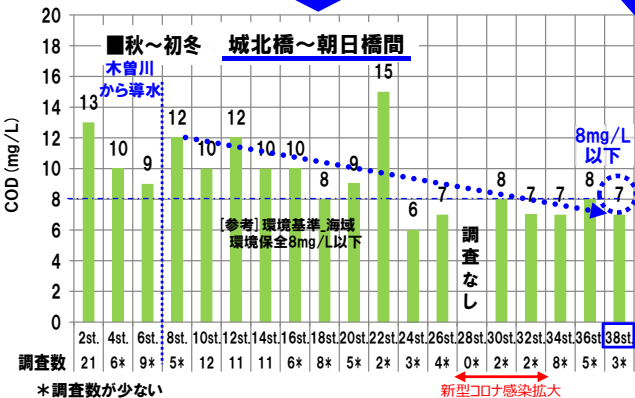
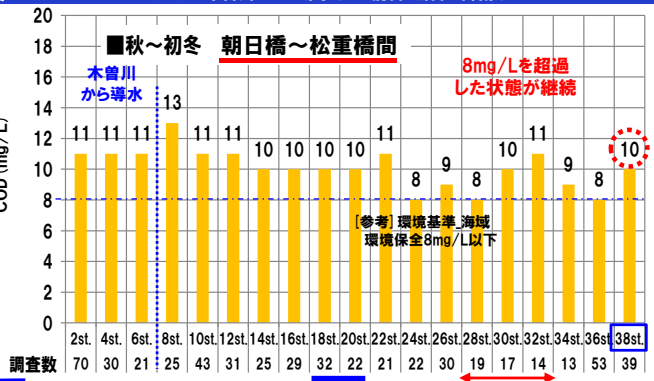
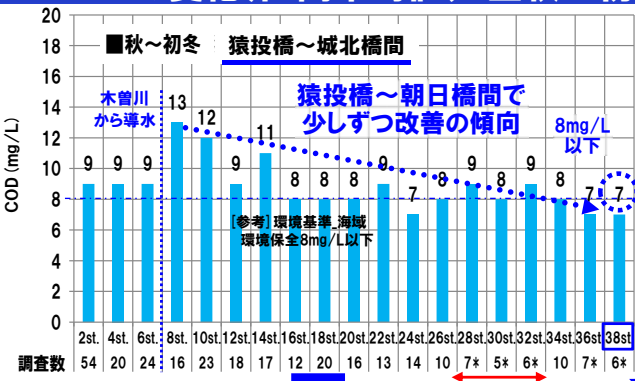
注)*調査数が少ない

■ 区間毎(春～初夏)のCODはどのように変化したのか?
導水停止後の春～初夏のCODは、特に狼投橋～松重橋間で増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向です。狼投橋～朝日橋間では8mg/L以下が継続しています。一方で朝日橋～松重橋間では8mg/Lを超過した状態が継続しています。



CODの変化(区間平均値) ■秋～初冬

2～6ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
8～38ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



*調査数が少ない

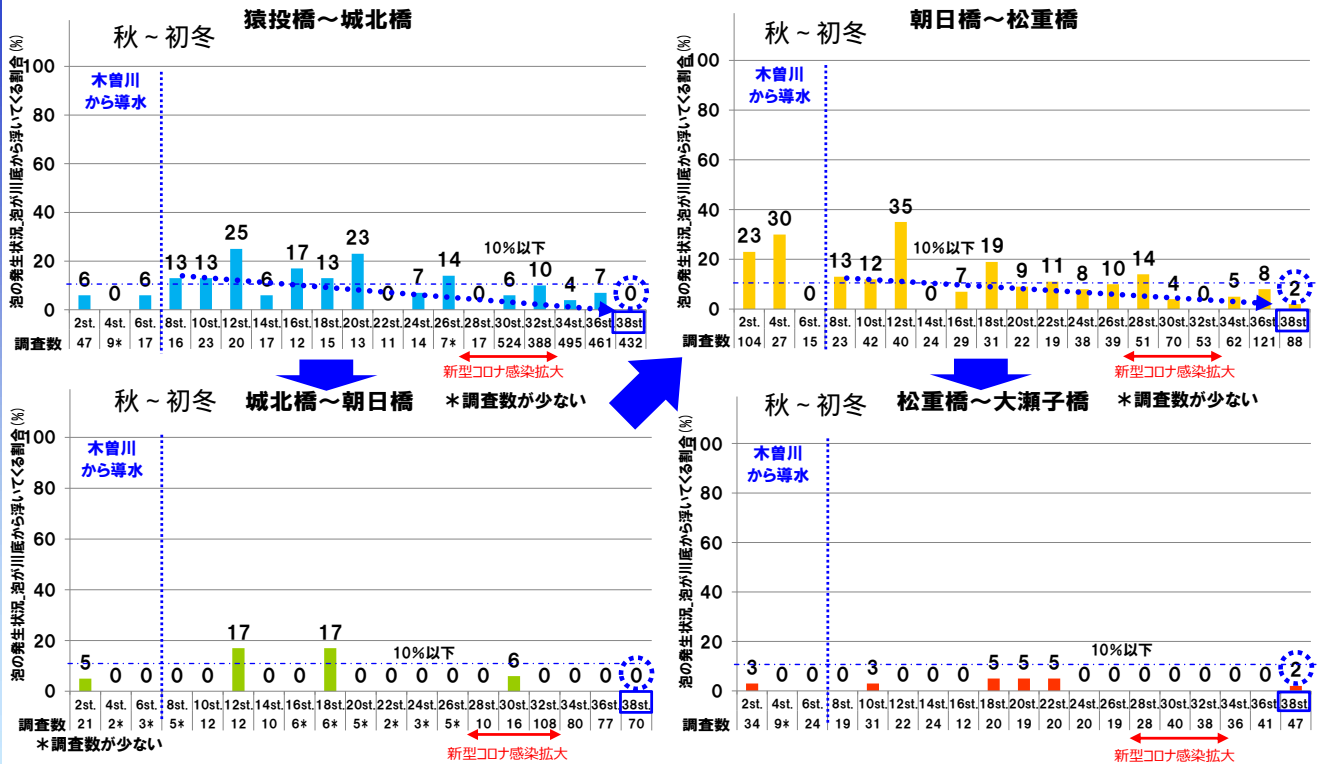
■ 区間毎(秋～初冬)のCODはどのように変化したのか?
導水停止後の秋～初冬のCODは、狼投橋～朝日橋間で増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向であり、38ステージは許容値を達成しています。しかし、朝日橋～松重橋間は改善に遅れが見られ、許容値が未達成の状況です。



川底からの泡の発生状況(区間平均値)

■秋～初冬

2～6ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
8～38ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



■ 区間毎(秋～初冬)の川底からの泡はどのように変化したのか?
導水停止後の秋～初冬の川底からの泡は、38ステージで猿投橋～朝日橋間が0%、朝日橋～大瀬子橋間が2%であり、すべて10%以下の状況でした。

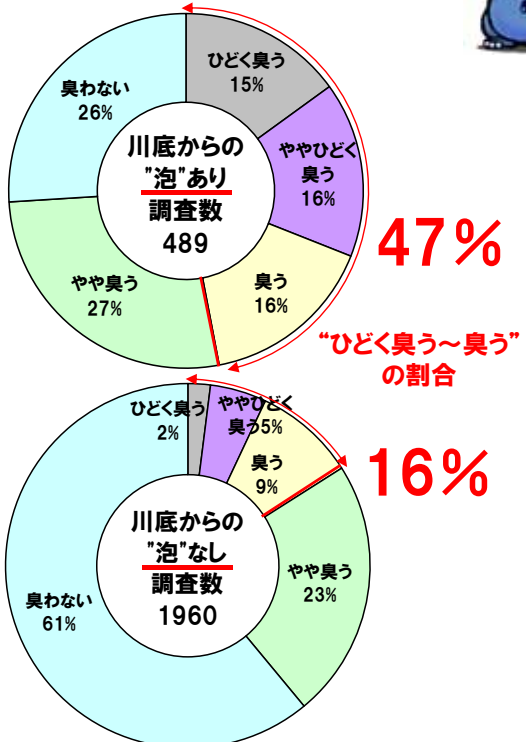


6.2.5. におい

“川底からの泡”が出ている時と出していない時の“におい”の発生状況

1～38ステージ 導水あり・なし 期間外含む全データ 前日・当日の降雨なし

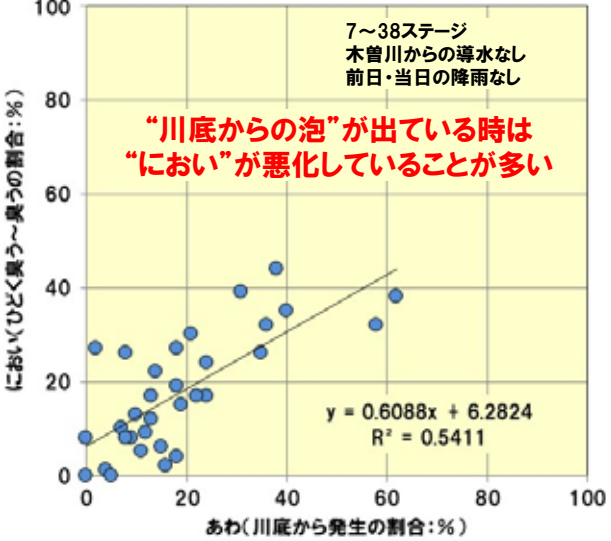
朝日橋～松重橋区間



“川底からの泡”がある時は、“ひどく臭う～臭う”の割合が47%を占めていました。一方、“川底からの泡”がない時は16%でした。“川底からの泡”が発生している時は、“におい”が悪化していることが多いようです。



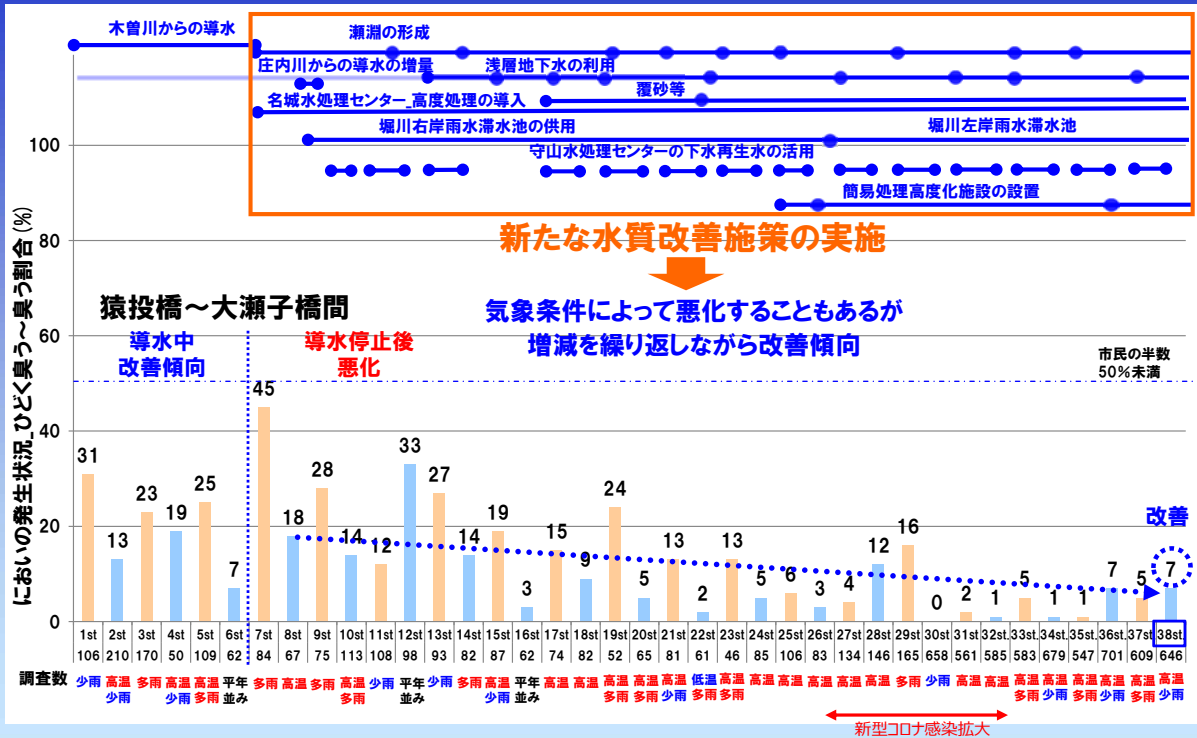
泡とにおいの関係 朝日橋～松重橋間



決定係数 R^2 : 回帰式が実際のデータに当てはまっているかを判断する指標です。0から1の値で算出されます。1に近いほど回帰式が実際のデータに当てはまっていることを表しています。

においの発生状況(“ひどく臭う～臭う”の割合) (猿投橋～大瀬子橋間_平均値)

1～6ステージ：木曾川からの導水あり
前日・当日の降雨なし
7～38ステージ：木曾川からの導水なし
前日・当日の降雨なし

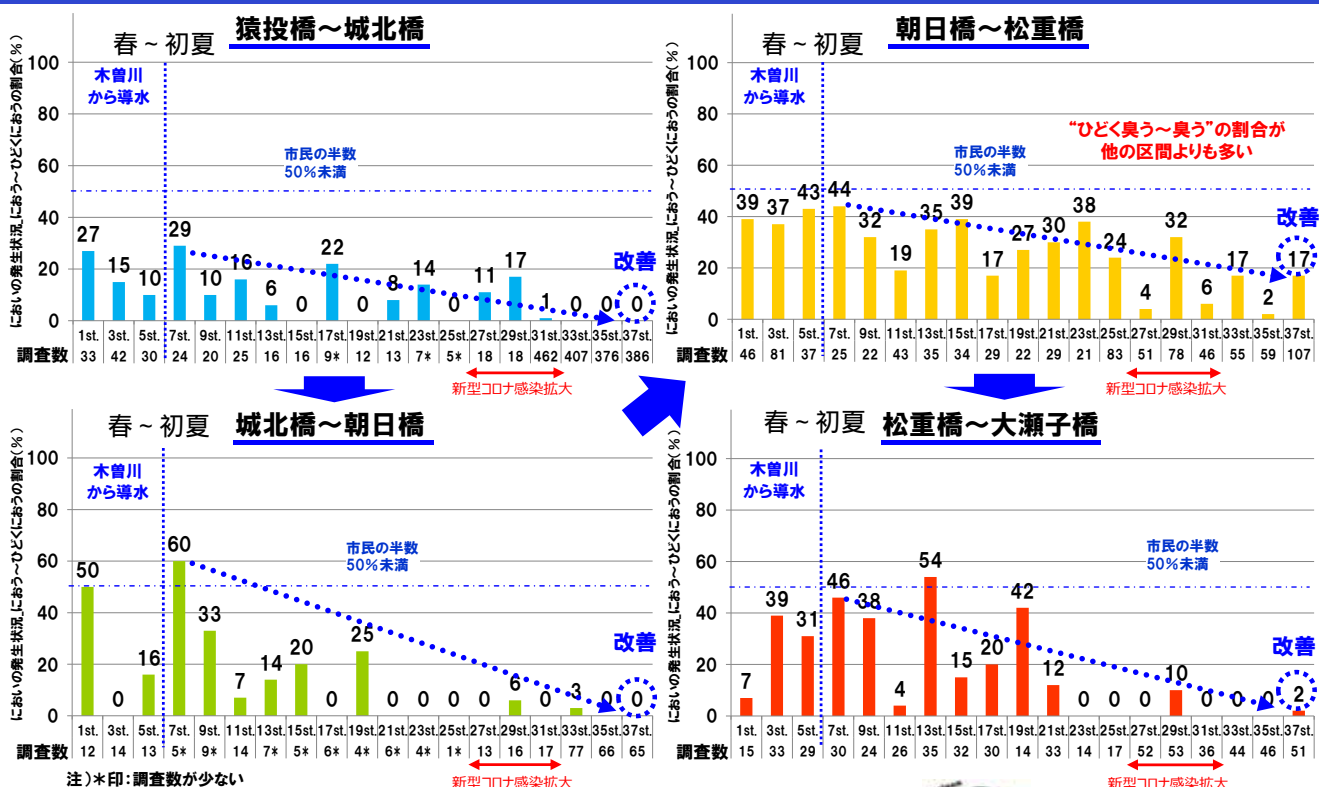


■ 猿投橋～大瀬子橋間においてはどのように変化したのか？
 においては木曾川からの導水中に改善の傾向が見られました。しかし、導水停止後に悪化しました。その後は気象条件などによって悪化することもありましたが、増減を繰り返しながら改善の傾向が見られます。38ステージは“ひどく臭う～臭う”の割合が7%(改善)でした。



においの発生状況(“ひどく臭う～臭う”の割合) ■春～初夏(区間平均値)

1～5ステージ：木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
7～37ステージ：木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



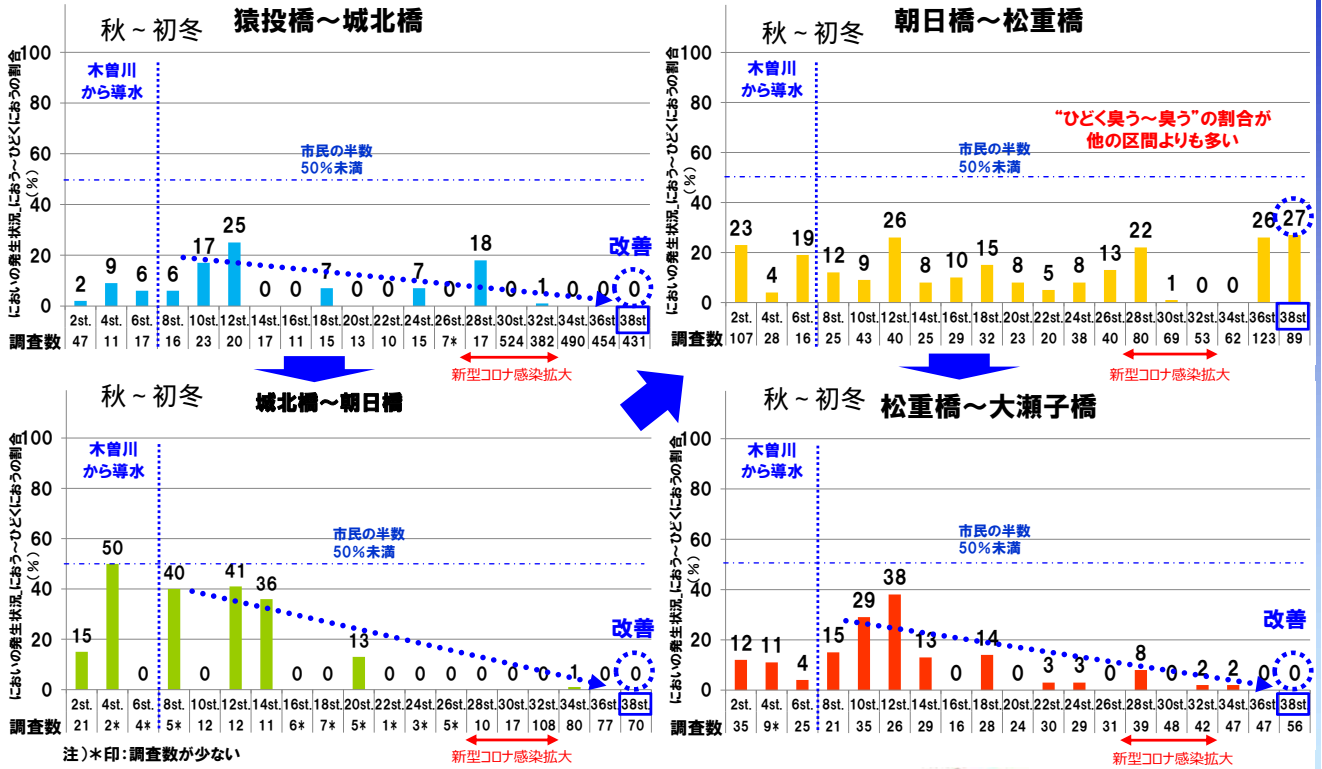
■ 区間毎(春～初夏)においては、総じて増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向であることが分かります。一方で朝日橋～松重橋間は市民の半数の50%を下回っていますが、他の区間よりもやや改善に遅れが見られます。



においの発生状況(“ひどく臭う～臭う”の割合)

■秋～初冬 (区間平均値)

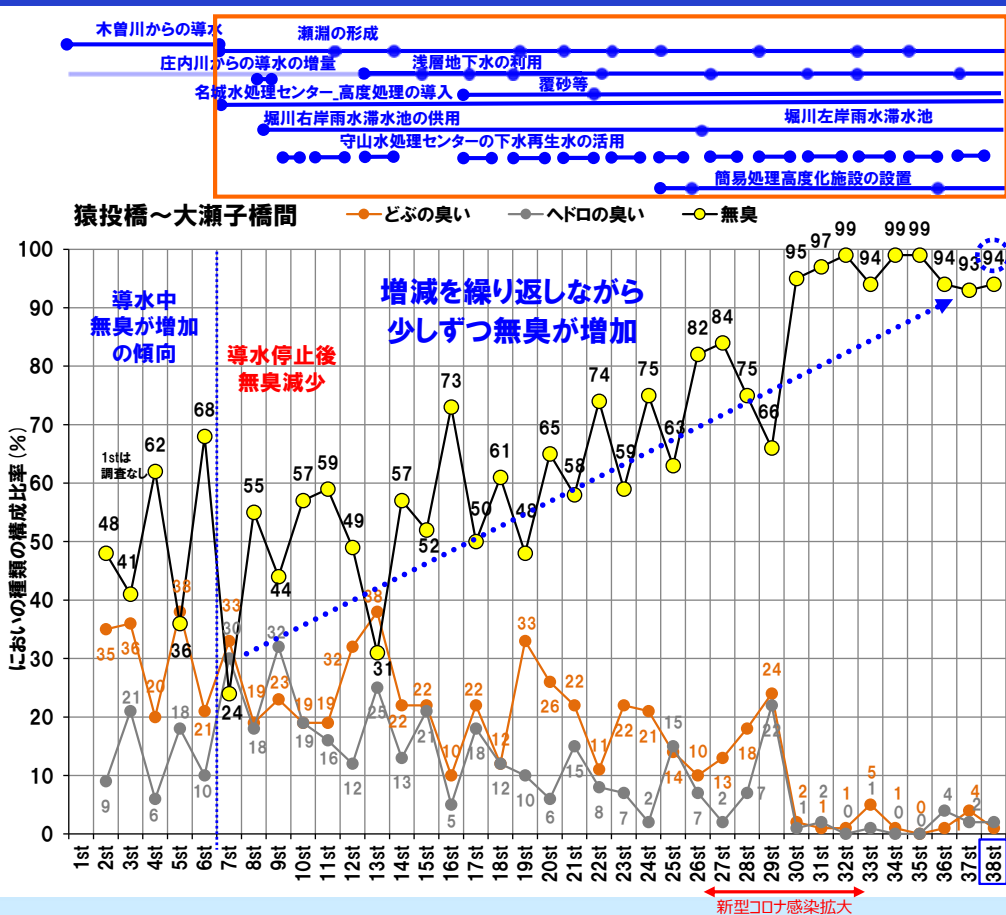
2～6ステージ : 木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
8～38ステージ : 木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



■ 区間毎(秋～初冬)においては、猿投橋～朝日橋間と松重橋～大瀬子橋間で増減を繰り返しながら少しずつ改善の傾向であり、38ステージは0%でした。一方で朝日橋～松重橋間は市民の半数の50%を下回っていますが、他の区間よりもやや改善に遅れが見られます。



どぶ臭・ヘドロ臭・無臭の構成比率の変化



1～6ステージ
木曾川からの導水あり
前日・当日の降雨なし
7～38ステージ
木曾川からの導水なし
前日・当日の降雨なし

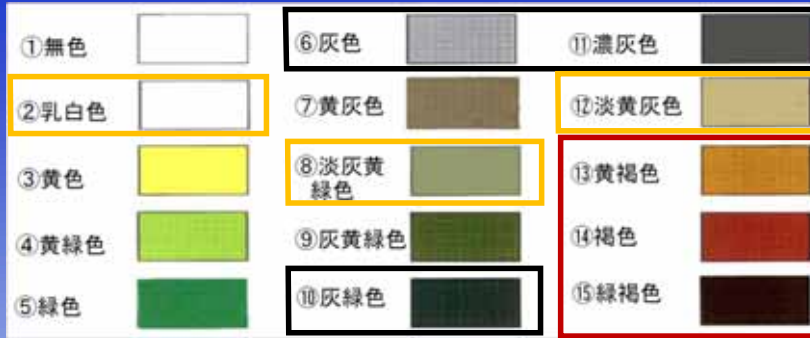
無臭増加

どぶ臭、ヘドロ臭が減少
無臭が増加 ⇒改善

■どぶ臭・ヘドロ臭・無臭の構成比率はどのように変化したのか？
木曾川からの導水停止後に猿投橋～大瀬子橋間で増減を繰り返しながら、少しずつどぶ臭・ヘドロ臭の構成比率が減少し、“無臭”の構成比率が増加(改善)しました。
無臭の構成比率の増加は新たな水質改善施策の実施による効果だと考えています。38ステージは無臭が94%(改善)でした。



6.2.6. 色



(凡例)

- 白濁系
 - ② 乳白色
 - ⑧ 淡灰黄緑色
 - ⑫ 淡黄灰色
- 赤潮系
 - ⑬ 黄褐色
 - ⑭ 褐色
 - ⑮ 緑褐色
- ヘドロ系
 - ⑥ 灰色
 - ⑩ 灰緑色
 - ⑪ 濃灰色

今までの定点観察で発生した色の状況をもとに色を白濁系、ヘドロ系、赤潮系の別に区分しました。



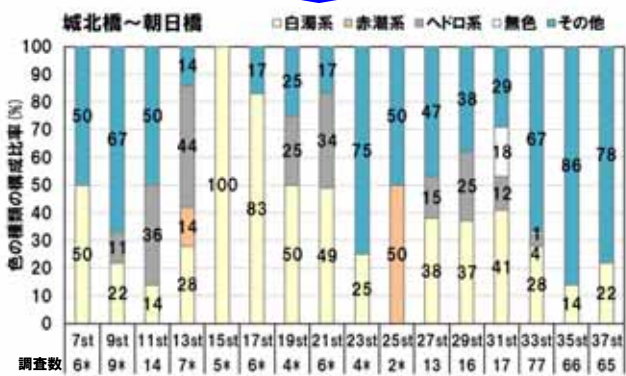
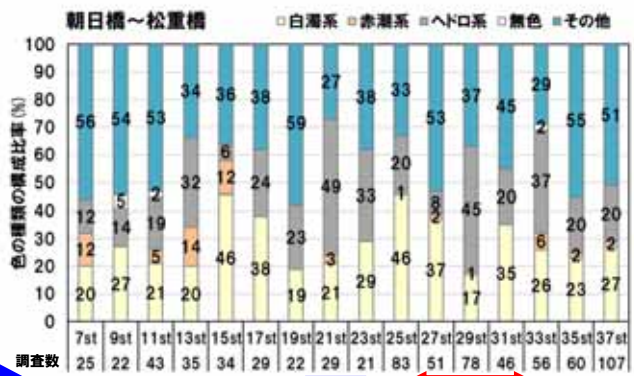
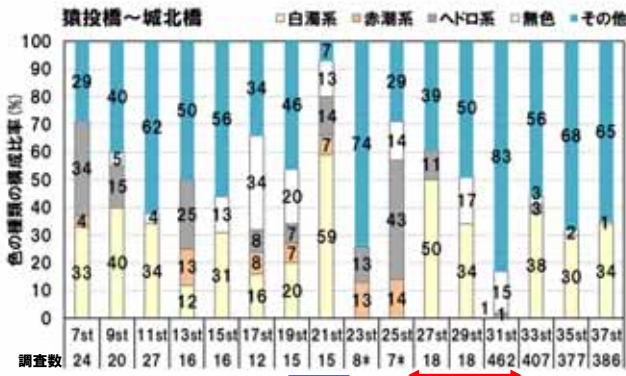
堀川の水の色の三原色



参考) 第15回 調査隊会議資料

色の種類の変化(区間平均値) ■春～初夏

7～37ステージ: 木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



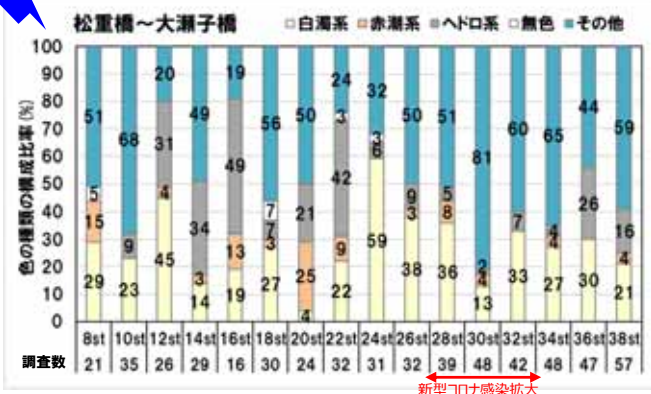
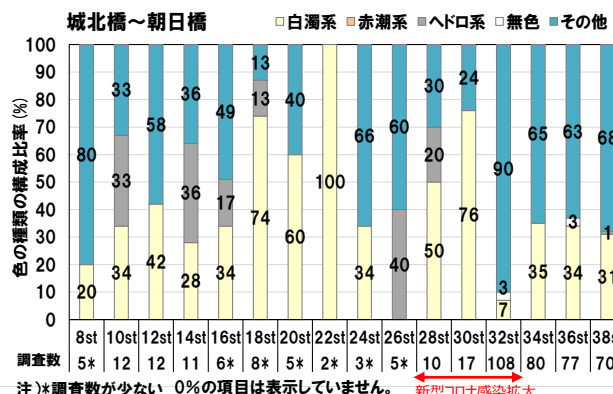
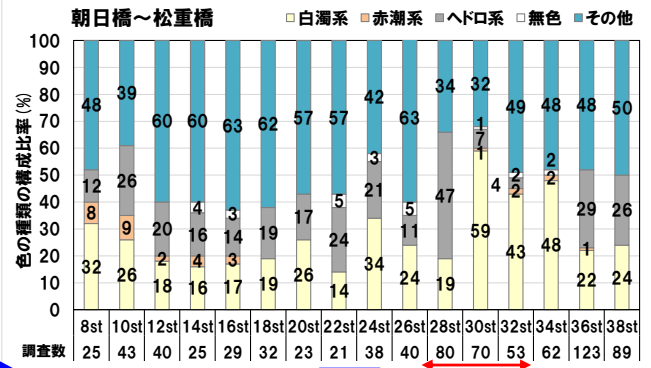
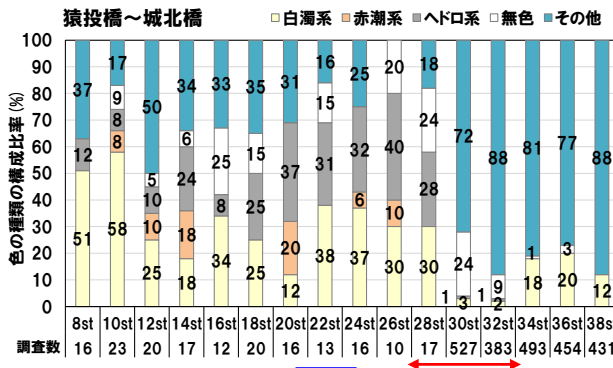
注)*調査数が少ない 0%の項目は表示していません。



- (凡例)
- 白濁系
 - ② 乳白色
 - ⑧ 淡灰黄緑色
 - ⑫ 淡黄灰色
 - 赤濁系
 - ⑬ 黄褐色
 - ⑭ 褐色
 - ⑮ 緑褐色
 - ヘドロ系
 - ⑥ 灰色
 - ⑩ 灰緑色
 - ⑪ 濃灰色

色の種類の変化(区間平均値) ■秋～初冬

8～38ステージ:木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし



注) *調査数が少ない 0%の項目は表示していません。

- (凡例)
- 白濁系
 - 赤潮系
 - ヘドロ系
 - 無色
 - その他
 - ②乳白色
 - ⑬黄褐色
 - ⑥灰色
 - ⑧淡灰黄緑色
 - ⑭褐色
 - ⑩灰緑色
 - ④淡黄灰色
 - ⑮緑褐色
 - ⑪濃灰色

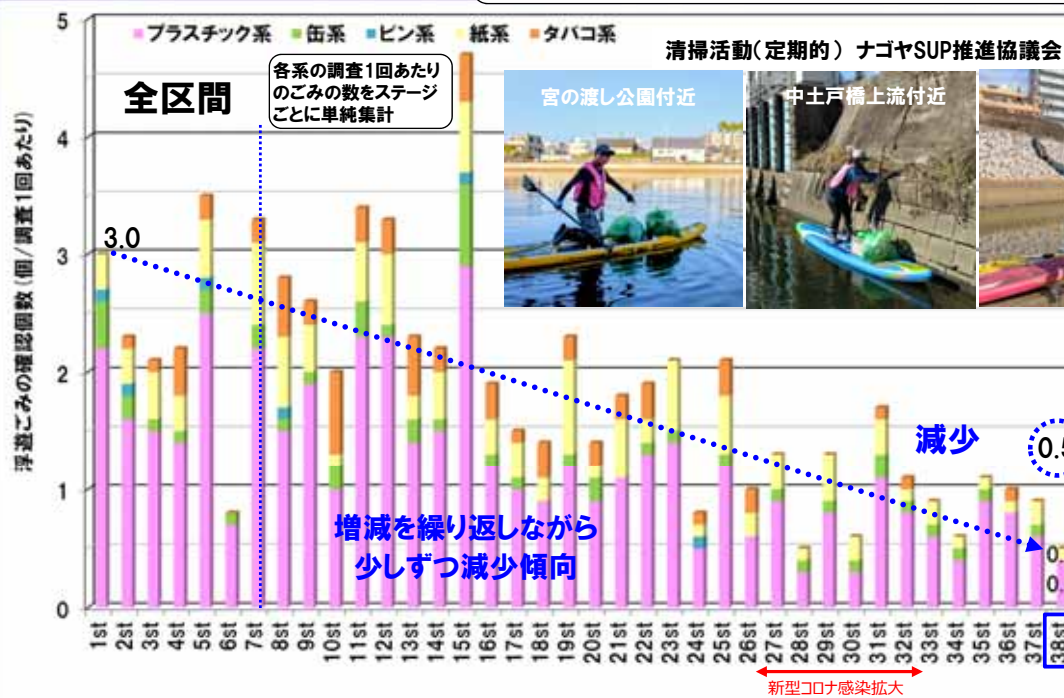


6.2.7. ごみ

浮遊物について
浮遊物(人工ごみ)の数の変化

1～6ステージ:木曾川からの導水あり 前日・当日の降雨なし
7～38ステージ:木曾川からの導水なし 前日・当日の降雨なし

■人工ごみ?
プラスチック系(レジ袋、ビニール袋、カップめん容器、発泡スチロールトレイ、ペットボトル、ごみ入りレジ袋など)、缶系、ビン系、タバコ系(包装、吸殻)



清掃活動(定期的) ナゴヤSUP推進協議会



公益社団法人清港会
清掃船 きよかわ



注) 調査1回あたりのごみの数
= 種別に確認した人工ごみの数 / 調査回数
* 人工ごみの数は、調査で確認されたごみの数です。“多数(=***)”と報告されたものについては、人工ごみの報告値の最大値相当の10を代入して計算しました。



■浮遊物(人工ごみ)は?
38ステージの浮遊ごみの数は調査1回あたり0.5個でした。浮遊物(人工ごみ)は1ステージと比較すると減少(改善)しました。特にプラスチック系が調査1回あたり0.4個に減少(改善)しました。市民の清掃活動、清掃船きよかわ(清港会)、ごみキャッチャー(城北橋)による陸上及び水面の人工ごみの回収による効果だと考えています。

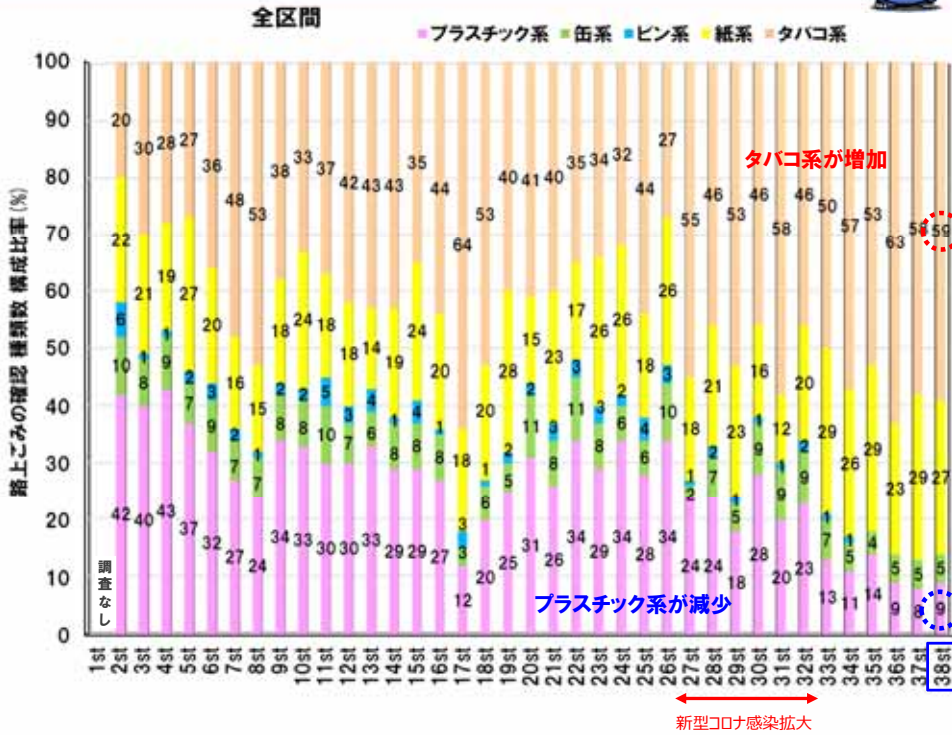
路上ごみについて 路上ごみ(人工ごみ)の確認種類数の変化 (2~38ステージ:全区間)

■人工ごみ? :プラスチック系(レジ袋、ビニール袋、カップめん容器、発泡スチロールトレイ、ペットボトル、ごみ入りレジ袋など)、缶系、ビン系、紙系、タバコ系(包装、吸殻)

■路上ごみ(人工ごみ)は?
プラスチック系のごみの構成比率が減少し、タバコ系のごみの構成比率が増加しています。

2~6ステージ:木曾川からの導水あり
前日・当日の降雨なし
7~38ステージ:木曾川からの導水なし
前日・当日の降雨なし

清掃活動(定期的)
堀川一斉清掃



名古屋造形大学
×地域(黒川ドリーム会)
×北区役所
『黒川ポイ捨て防止ポスター』

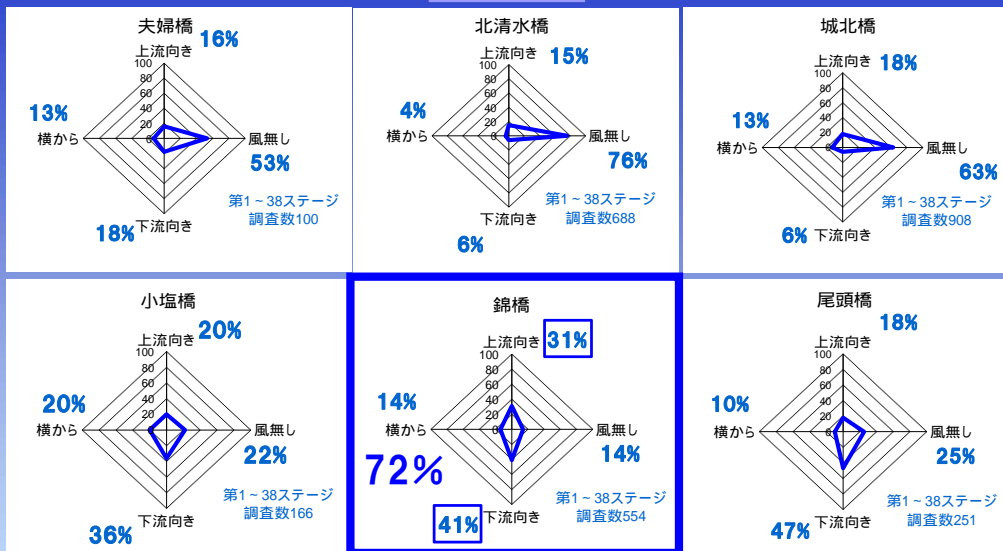


6.2.8. 風

風の向き

1~38ステージ 全データ
特に中心市街地では
堀川に沿って吹く風が多い

横からの風



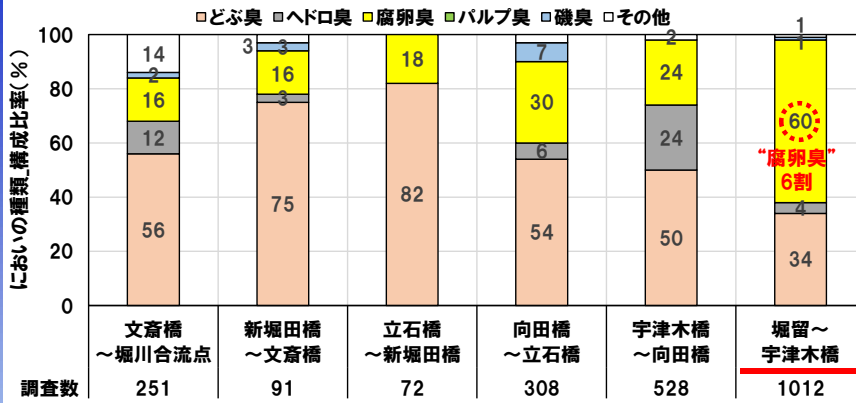
■風の向きは?
1ステージから38ステージまでの全部のデータを使って、整理をしました。
名古屋の中心市街地の錦橋では72%が堀川に沿って風が吹いていることがわかりました。



新堀川 においの種類について

■使用データ 降雨あり・なし
期間外データ含む全データで整理 (38ステージ終了まで)

上流の宇津木橋～堀留間で“腐卵臭”が多く発生



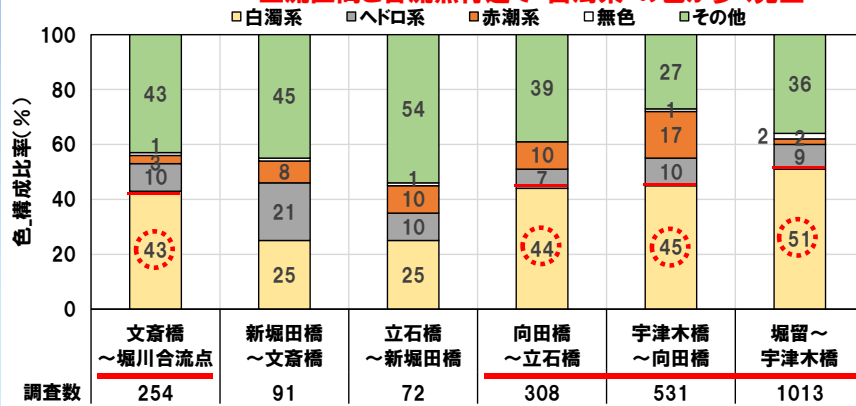
■ においの種類は？
上流の宇津木橋～堀留間では、“腐卵臭”が6割を占めています。この区間は他の区間よりも硫化物が多く生成されやすい環境になっていると考えられています。



- (凡例)
- 白濁系
 - ② 乳白色
 - ⑧ 淡灰黄緑色
 - ⑫ 淡黄灰色
 - 赤潮系
 - ⑬ 黄褐色
 - ⑭ 褐色
 - ⑮ 緑褐色
 - ヘドロ系
 - ⑥ 灰色
 - ⑩ 灰緑色
 - ⑪ 濃灰色

新堀川 色について

上流区間と合流点付近で“白濁系”の色が多く発生



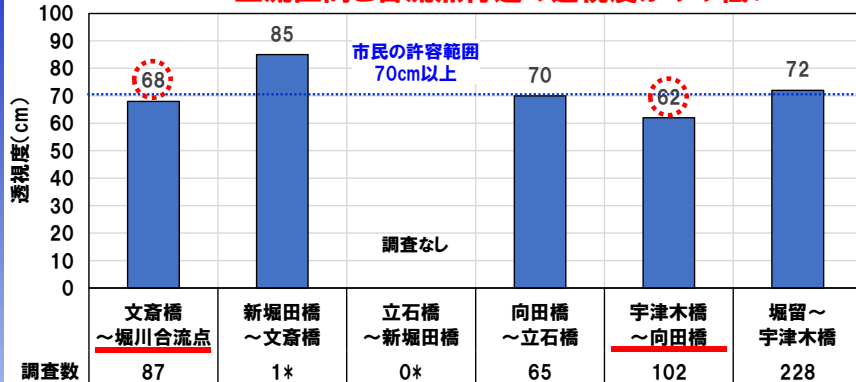
■ 色の状況は？
特に上流区間と合流点付近で“白濁系”の色が多く発生しており、その割合は4割以上を占めています。
水域及び底泥中で生成された硫化物が硫黄コロイドとなり白濁した水が移動・拡散していると考えられています。



新堀川 透視度について

■使用データ 降雨あり・なし
期間外データ含む全データで整理 (38ステージ終了まで)

上流区間と合流点付近の透視度がやや低い

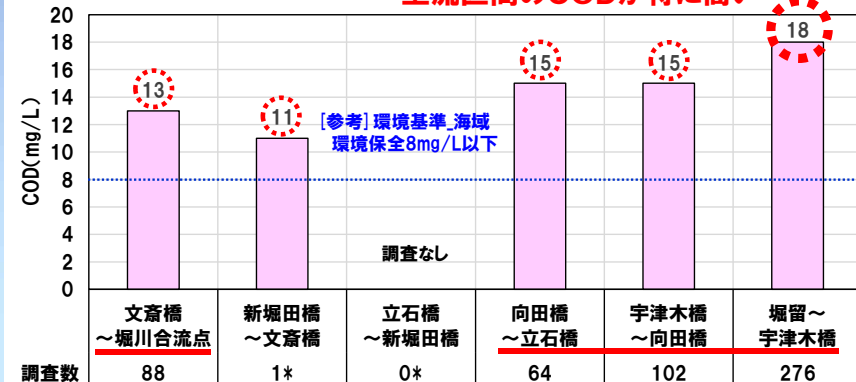


■ 透視度はどの程度か？
上流の向田橋～宇津木橋間と合流点付近の堀川合流点～文斎橋間の透視度がやや低いようです。
水の中に含まれている硫黄コロイドなどの濁りの成分が多くなる環境を有していると考えられています。



新堀川 CODについて

上流区間のCODが特に高い



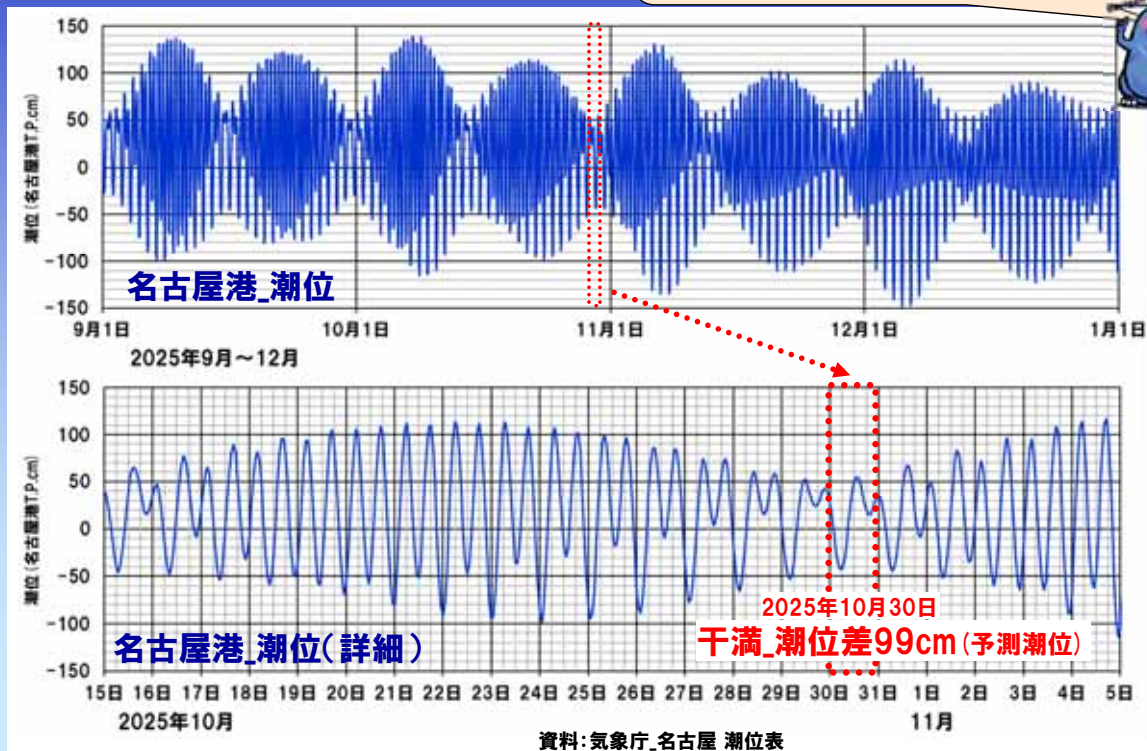
■ CODはどの程度か？
調査値がある全区間で8mg/Lを超えています。
下流区間よりも上流区間のCODが高いようです。
最上流の宇津木橋～堀留間は最も高い18mg/Lでした。
有機物の分解が水中と底泥の硫酸化を進め、硫酸化の環境を好む硫酸還元菌が有機物を分解する時に硫酸イオンを還元して、硫化物を生成していると考えられています。



6.4. 第22回 堀川一斉調査 小潮 2025年10月30日

■ 秋～初冬
市民の視点と感覚で水位の変化が
小さい時の堀川の様子を調べる

今回(第22回)は、秋～初冬時の潮位の変化が少ない小潮時(庄内川暫定導水、堀川クルーズあり)に調査を実施しました。今回の結果と第21回の春～初夏時(庄内川暫定導水、堀川クルーズあり)の結果を比較することで、春～初夏と秋～初冬の水位の変化が小さい時の違いを市民の視点と感覚で数値化をしてみました。



69

第21回・第22回 堀川一斉調査 実施時の状況

項目	第21回 春～初夏 小潮_月齢23.7 2025年(令和7年)4月22日	第22回 秋～初冬 小潮_月齢8.6 2025年(令和7年)10月30日
庄内川暫定導水	あり: 0.3m ³ /s	あり: 0.3m ³ /s
堀川クルーズ (船の定期運航)	あり: ○	あり: ○
	運航区間 納屋橋～朝日橋 五条橋～朝日橋	納屋橋～朝日橋 五条橋～朝日橋
	運航期間 3月22日～6月1日_土・日・祝	10月4日～12月7日_土・日・祝
	運航日数 (往復運航) 納屋橋～朝日橋 11週_31日_1日3～11便 五条橋～朝日橋 11週_31日_1日2～9便	納屋橋～朝日橋 10週_25日_1日8～13便 五条橋～朝日橋 10週_25日_1日4～6便
潮位 (T.P.cm) 気象庁:名古屋港観測値	最高	42
	最低	-62
	潮位差	104
気温 (°C) 気象庁:名古屋地方気象台	日平均	19.4
	日最高	24.0
	日最低	16.7
		9.3

今回(第22回)は、秋～初冬時の潮位の変化が少ない小潮時(庄内川暫定導水、堀川クルーズあり)に調査を実施しました。



70

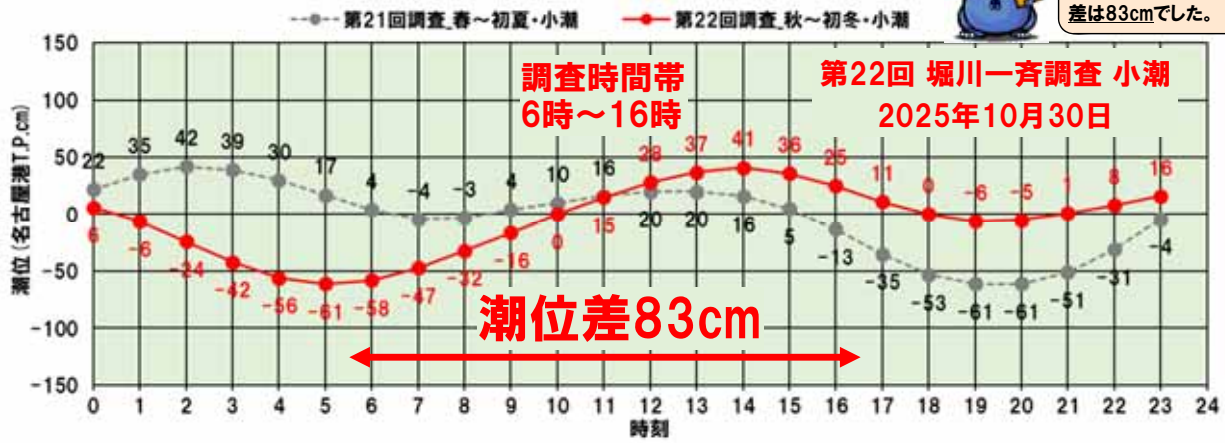


観測潮位

名古屋港 観測潮位 資料:気象庁HP

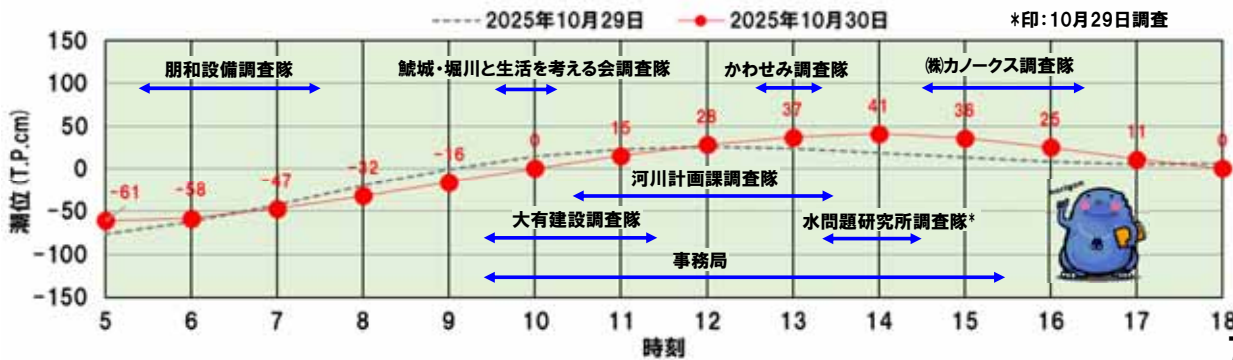


今回の調査時間帯
(6時~16時)の潮位
差は83cmでした。



調査隊活動状況

名古屋港 観測潮位 資料:気象庁HP

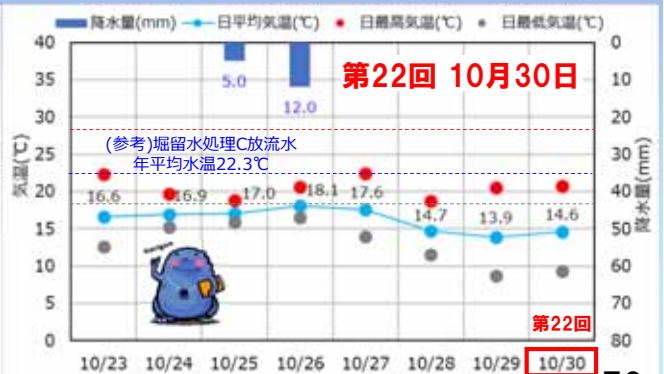
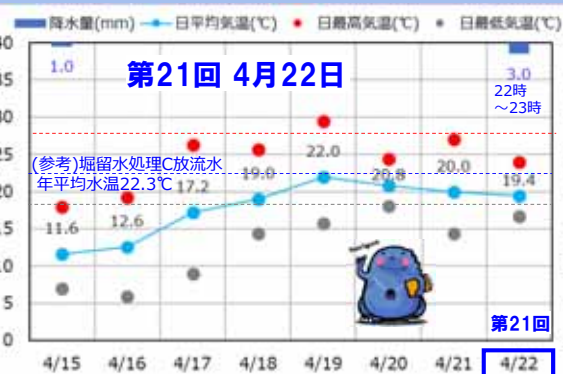


2025年の気象(月別)

資料:気象庁HP 名古屋地方気象台



項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量(mm)	14.0	16.5	96.5	110.5	192.0	266.5	195.5	28.0	159.0	132.5	34.0	61.0
日平均気温(°C)	5.6	4.6	10.4	15.7	19.7	24.9	29.4	30.7	27.5	20.1	12.8	8.2
日最高気温(°C)	10.5	9.7	15.7	21.7	24.6	29.5	34.5	36.6	32.4	24.0	17.8	12.8
日最低気温(°C)	1.9	0.7	6.0	10.7	15.6	21.3	25.8	27.1	24.0	17.3	8.4	4.1



(まとめ) 堀川一斉調査結果 潮位の変化が少ない期間の
“春～初夏”と“秋～初冬”の比較

潮位の変化が少ない期間 → “春～初夏”と“秋～初冬”の比較
堀川 水の汚れの印象はどちらも良好
新堀川 水の汚れの印象はどちらも不良

潮位の変化が少ない期間の堀川は“春～初夏”と“秋～初冬”のどちらも水の汚れの印象が良好でした。一方、新堀川はどちらも不良でした。市民による一斉調査で堀川の水の汚れの改善と新堀川の改善の遅れが改めて確認され、さらに今後の一斉調査で着目すべき環境の変化も改めて明らかになりました。



■ 水の汚れの印象

“きれい～どちらともいえない”の割合

■ 水の色の印象

“快適～どちらともいえない”の割合

堀川
朝日橋
上流

“春～初夏”と“秋～初冬”は
ともに9割超
⇒印象は良好 **良好**

・水の汚れは色と関係あり
“春～初夏”と“秋～初冬”
はともに9割超
⇒印象は良好 **良好**

今後の一斉調査で着目すべき
環境の変化(継続実施)

気温が高い時に、やや白濁が
生じやすくなる環境

堀川
朝日橋
下流

“春～初夏”と“秋～初冬”は
ともに7割超
⇒印象は良好 **良好**

・水の汚れは色と関係あり
“春～初夏”と“秋～初冬”は
ともに概ね8割程度
⇒印象は良好 **良好**

主に川底のヘドロの存在と、
それが巻き上がりやすい環境

新堀川
(全区間)

“春～初夏”と“秋～初冬”は
ともに1割程度
⇒印象は不良 **不良**

・水の汚れは色と関係あり
“春～初夏”と“秋～初冬”は
ともに2割未満
⇒印象は不良 **不良**

主に硫化物の生成と、それが
コロイド化した白濁水が滞留し
やすい環境



鯉城・堀川と生活を考える会調査隊



名古屋市河川計画課調査隊



かわせみ調査隊

今後も一斉調査による
市民の視点と感覚での
観察と分析をすることで、
堀川と新堀川の異なる
汚れのメカニズムの実態
の解明が必要です。



73

堀川一斉調査結果の比較 ～潮位の変化が少ない期間の“春～初夏”と“秋～初冬”の比較～

項目		第21回 春～初夏 小潮 2025年4月22日	第22回 秋～初冬 小潮 2025年10月30日	主な結果
庄内川暫定導水 0.3m ³ /s		あり:○	あり:○	
堀川クルーズ(船の定期運航)		あり:○	あり:○	
水の汚れ の印象	“きれい～ どちらとも いえない” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 92%	92%	ともに50%以上(市民の半数)であり、90%を超えていた。(良好)
		堀川 朝日橋下流 78%	74%	ともに50%以上(市民の半数)であり、70%を超えていた。(良好)
		新堀川(全区間) 13%	7%	ともに50%未満(市民の半数)であり、春～初夏は13%、秋～初冬は7%であった。(不良)
色	印象 “快適～どちら ともいえない” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 92%	100%	ともに50%以上(市民の半数)であり、ともに90%を超えていた。(良好)
		堀川 朝日橋下流 87%	79%	ともに50%以上(市民の半数)であり、ともに概ね80%であった。(良好)
		新堀川(全区間) 19%	7%	ともに50%未満(市民の半数)であり、春～初夏は19%、秋～初冬は7%であった。(不良)
	“白濁系” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 33%	0%	春～初夏の割合は33%、秋～初冬は0%であった。
		堀川 朝日橋下流 9%	0%	春～初夏の割合は9%、秋～初冬は0%であった。
		新堀川(全区間) 81%	80%	ともに80%以上であった。(不良)
	“ヘドロ系” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 0%	15%	春～初夏の割合は0%、秋～初冬は15%であった。
		堀川 朝日橋下流 13%	13%	春～初夏、秋～初冬の割合はともに13%であった。
		新堀川(全区間) 6%	0%	春～初夏の割合は6%、秋～初冬は0%であった。
におい	印象 “におわない～ ややにおう” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 100%	100%	ともに100%であった。(良好)
		堀川 朝日橋下流 100%	91%	ともに50%以上(市民の半数)であり、春～初夏の割合は100%、秋～初冬は91%であった。(良好)
		新堀川(全区間) 62%	73%	ともに50%以上(市民の半数)であり、春～初夏の割合は62%、秋～初冬は73%であった。(良好)
	“腐卵臭” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 -	0%*	調査数が少ない。秋～初冬は0%であった。
		堀川 朝日橋下流 -	4%*	調査数が少ない。秋～初冬は4%であった。
		新堀川(全区間) 29%*	27%*	調査数が少ない。春～初夏の割合は29%、秋～初冬は27%であった。(腐卵臭あり)
	“ヘドロ臭” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 -	0%*	調査数が少ない。秋～初冬は0%であった。
		堀川 朝日橋下流 -	0%*	調査数が少ない。秋～初冬は0%であった。
		新堀川(全区間) 0%*	0%*	調査数が少ない。ともに0%であった。
泡	“上流からの泡” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 25%	0%	春～初夏の割合は25%であり、秋～初冬は0%であった。(上流からの泡あり)
		堀川 朝日橋下流 0%	4%	春～初夏の割合は25%であり、秋～初冬の割合は4%であった。
		新堀川(全区間) 0%	0%	ともに0%である。
	“川底からの泡” の割合(%)	堀川 朝日橋上流 8%	0%	春～初夏の割合は8%であり、秋～初冬は0%であった。
		堀川 朝日橋下流 0%	0%	ともに0%である。
		新堀川(全区間) 19%	0%	春～初夏の割合は19%であり、秋～初冬は0%であった。(川底からの泡あり)

*調査数が少ない

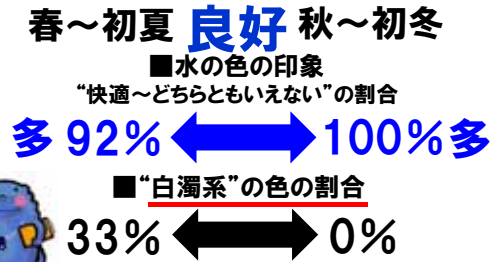
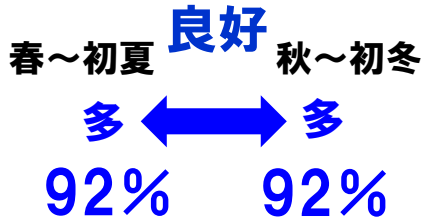
74

堀川一斉調査結果の比較 ~潮位の変化が少ない期間の“春~初夏”と“秋~初冬”の比較~
(まとめ) **水の汚れの印象** **水の色の印象**

“きれい~どちらともいえない”の割合

“快適~どちらともいえない”の割合

堀川
朝日橋
上流



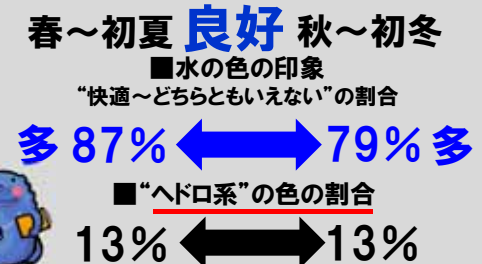
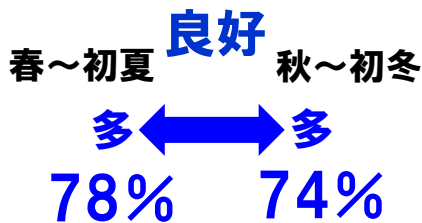
堀川の朝日橋上流の水の汚れの印象は、“きれい~どちらともいえない”の割合が春~初夏と秋~初冬ともに9割を超えています。(印象は良好)

堀川の朝日橋上流の水の汚れの印象は、水の色と関係があり、水の色印象は、“快適~どちらともいえない”の割合が春~初夏と秋~初冬ともに9割を超えています。(印象は良好) なお、白濁系の色が春~初夏に見られたのは、調査当日の気温が秋~初冬よりもやや高く、やや白濁が生じやすい環境になっていたと考えられています。

堀川
朝日橋
下流

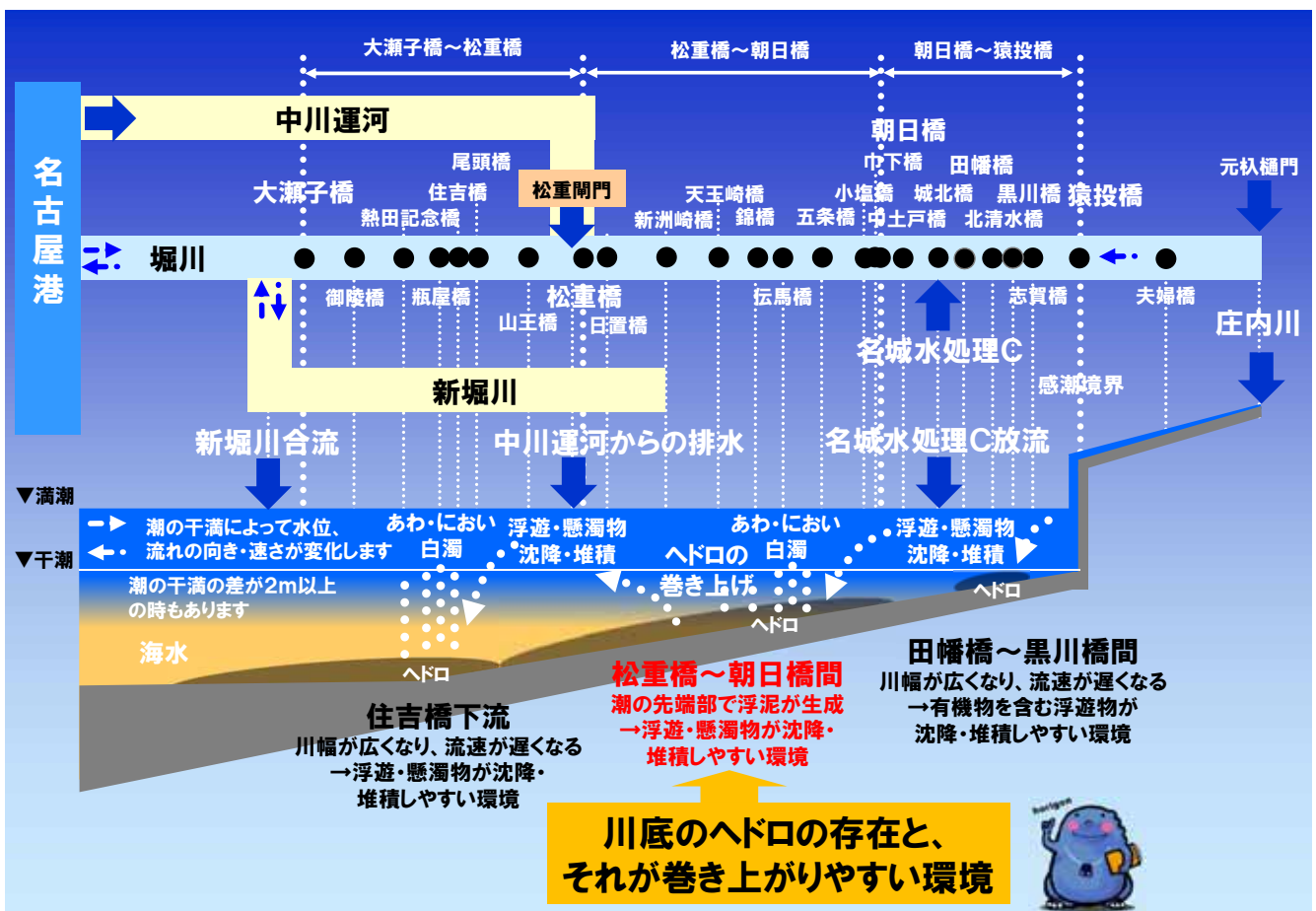
“きれい~どちらともいえない”の割合

“快適~どちらともいえない”の割合



堀川の朝日橋下流の水の汚れの印象は、“きれい~どちらともいえない”の割合が春~初夏と秋~初冬ともに7割を超えています。(印象は良好)

堀川の朝日橋下流の水の汚れの印象は、水の色と関係があり、水の色印象は、“快適~どちらともいえない”の割合が春~初夏と秋~初冬ともに概ね8割程度です。(印象は良好) なお、ヘドロ系の色が見られたのは、川底のヘドロの存在と、それが巻き上がりやすい環境になっていたと考えられています。



(参考資料) 堀川の水の汚れのイメージ図(概略)



堀川一斉調査結果の比較 ～潮位の変化が少ない期間の“春～初夏”と“秋～初冬”の比較～

水の汚れの印象

“きれい～どちらともいえない”の割合

水の色の印象

“快適～どちらともいえない”の割合

新堀川
(全区間)

春～初夏 **不良** 秋～初冬
少 ←→ 少
13% **7%**

春～初夏 **不良** 秋～初冬
■水の色の印象
“快適～どちらともいえない”の割合
少 **19%** ←→ **7%** 少
■“白濁系”の色の割合
多 **81%** ←→ **80%** 多



新堀川の水の汚れの印象は、“きれい～どちらともいえない”の割合が春～初夏と秋と初冬ともに1割程度です。(印象は不良)



新堀川の水の汚れの印象は、水の色と関係があり、水の色印象は、“快適～どちらともいえない”の割合が春～初夏と秋～初冬ともに2割を下回っています。(印象は不良) 白濁系の色が見られたのは主に硫化物の生成とそれがコロイド化した白濁水が滞留しやすい環境になっていたと考えています。



第21回 堀川一斉調査
撮影日: 2025年4月22日

堀川 朝日橋上流
金城橋付近



第21回 堀川一斉調査
撮影日: 2025年4月22日

堀川 朝日橋下流
桜橋付近

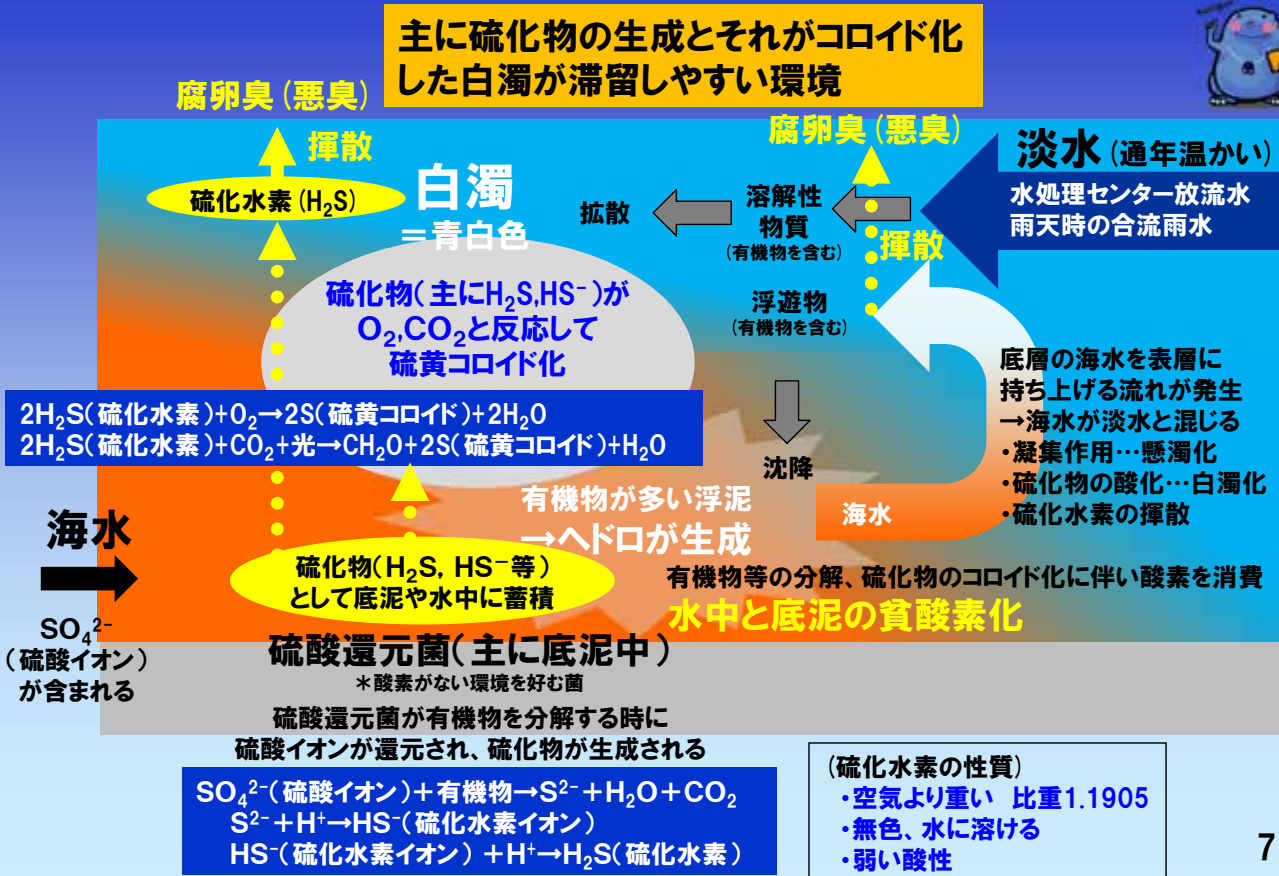


第22回 堀川一斉調査(前日)
撮影日: 2025年10月29日

新堀川
記念橋付近

(参考資料) 新堀川の水の汚れのイメージ図(概略)

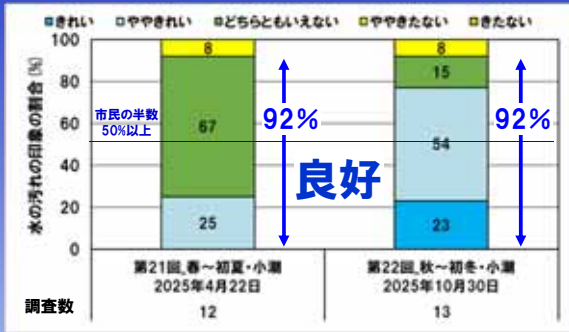
(仮説) 新堀川上流域における汚れのメカニズム 出典:第29回調査隊会議 市民報告 p.121(一部加工)



堀川一斉調査結果の比較 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

水の汚れの印象の比較 “きれい～どちらともいえない”の割合

堀川・朝日橋上流



春～初夏=秋～初冬

良好

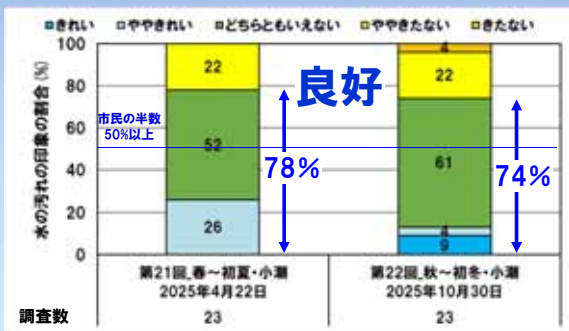
水の汚れの印象の比較

(“きれい～どちらともいえない”の割合)



- 堀川・朝日橋上流
 - ・“春～初夏”と“秋～初冬”は同値の92%であり、水の汚れの印象は良好であった(50%以上=良い)
- 堀川・朝日橋下流
 - ・“春～初夏”は78%、“秋～初冬”は74%であり、水の汚れの印象は良好であった(50%以上=良い)
- 新堀川(全区間)
 - ・“春～初夏”は13%、“秋～初冬”は7%であり、水の汚れの印象は不良であった(50%未満=悪い)

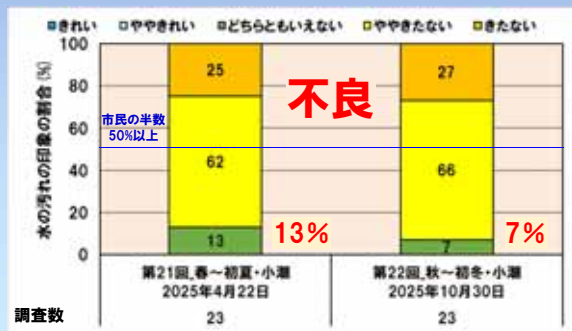
堀川・朝日橋下流



春～初夏≒秋～初冬

良好

新堀川(全区間)



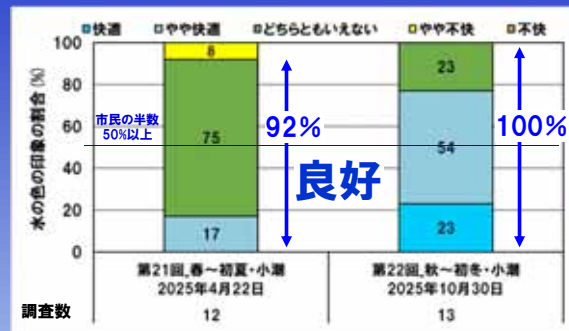
春～初夏≒秋～初冬

不良

堀川一斉調査結果の比較 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

水の色の印象の比較 “快適～どちらともいえない”の割合

堀川・朝日橋上流



春～初夏≒秋～初冬

良好

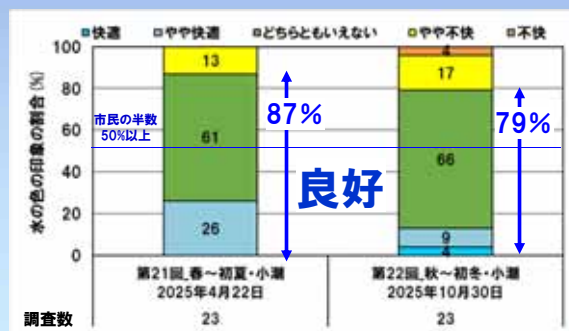
水の色の印象の比較

(“快適～どちらともいえない”の割合)



- 堀川・朝日橋上流
 - ・“春～初夏”は92%、“秋～初冬”は100%であり、水の色の印象は良好であった(50%以上=良い)
- 堀川・朝日橋下流
 - ・“春～初夏”は87%、“秋～初冬”は79%であり、水の色の印象は良好であった(50%以上=良い)
- 新堀川(全区間)
 - ・“春～初夏”は19%、“秋～初冬”は7%であり、水の色の印象は不良であった(50%未満=悪い)
 - ・“春～初夏”よりも“秋～初冬”の水の色の印象がやや不良(-12%)であった

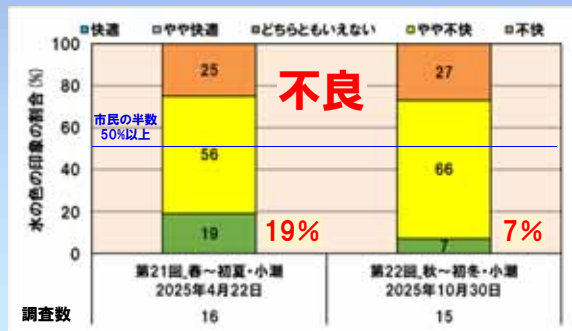
堀川・朝日橋下流



春～初夏≒秋～初冬

良好

新堀川(全区間)



春～初夏>秋～初冬(-12%)

不良

堀川一斉調査結果の比較 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

水の色の比較

- 白濁系
- 赤潮系
- ヘドロ系
- ② 乳白色
- ⑬ 黄褐色
- ⑥ 灰色
- ⑧ 淡灰黄緑色
- ⑭ 褐色
- ⑩ 灰緑色
- ⑫ 淡黄灰色
- ⑮ 緑褐色
- ⑪ 濃灰色

堀川・朝日橋上流



春～初夏→白濁系
秋～初冬→ヘドロ系

堀川・朝日橋下流



春～初夏→白濁系、赤潮系、ヘドロ系
秋～初冬→ヘドロ系

水の色の比較

- 堀川・朝日橋上流
 - ・“春～初夏”は33%が白濁系であり、“秋～初冬”は15%がヘドロ系であった
- 堀川・朝日橋下流
 - ・“春～初夏”は白濁系が9%、赤潮系が17%、ヘドロ系が13%であり、“秋～初冬”は白濁系、赤潮系がなく、ヘドロ系の13%だけであった
- 新堀川(全区間)
 - ・新堀川は白濁系の割合が多く、“春～初夏”は81%、“秋～初冬”が80%であり、ともに白濁系の色が8割以上を占めており不良であった

新堀川(全区間)



“春～初夏”、“秋～初冬”ともに
白濁系の色が8割以上

堀川一斉調査結果の比較 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

においの印象の比較

“におわない～ややにおう”の割合

堀川・朝日橋上流



堀川・朝日橋下流

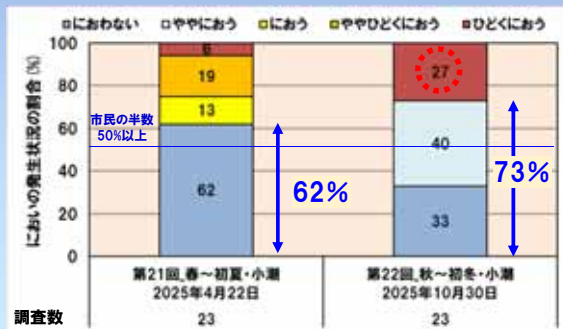


においの印象の比較

(“におわない～ややにおう”の割合)

- 堀川・朝日橋上流
 - ・“春～初夏”と“秋～初冬”はともに100%であり、においの印象は良好であった(50%以上=良い)
 - ・“春～初夏”はすべて“におわない”であった
- 堀川・朝日橋下流
 - ・“春～初夏”は100%、“秋～初冬”は91%であり、においの印象は良好であった(50%以上=良い)
 - ・“春～初夏”はすべて“におわない”であった
- 新堀川(全区間)
 - ・“春～初夏”は62%、“秋～初冬”は73%であり、においの印象は良好であった(50%以上=良い)
 - ・“秋～初冬”は“春～初夏”よりも“ひどくにおう”の割合が多く、27%であった

新堀川(全区間)



堀川一斉調査結果の比較 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

におい_においの種類

堀川・朝日橋上流



においの種類の比較

- 堀川・朝日橋上流
 - ・“春～初夏”と“秋～初冬”はほぼ“無臭”であり、ともに“腐卵臭”、“磯臭”、“ヘドロ臭”、“パルプ臭”、“どぶ臭”は感じられなかった
- 堀川・朝日橋下流
 - ・“春～初夏”と“秋～初冬”はほぼ“無臭”であるが、“腐卵臭”が4%と“どぶ臭”が4%の割合で感じられた
- 新堀川 (全区間)
 - ・“腐卵臭”が“春～初夏”に29%、“秋～初冬”に27%の割合で感じられた
 - ・“秋～初冬”に“どぶ臭”が40%の頻度で感じられた

堀川・朝日橋下流



新堀川 (全区間)



堀川一斉調査結果の比較 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

泡の比較

堀川・朝日橋上流



泡の比較

- 堀川・朝日橋上流
 - ・“春～初夏”に“上流からの泡”が25%、“川底からの泡”が8%の割合で確認された
- 堀川・朝日橋下流
 - ・“秋～初冬”に“上流からの泡”が4%の割合で確認された
- 新堀川 (全区間)
 - ・“春～初夏”に“川底からの泡”が19%の割合で確認された



堀川・朝日橋下流



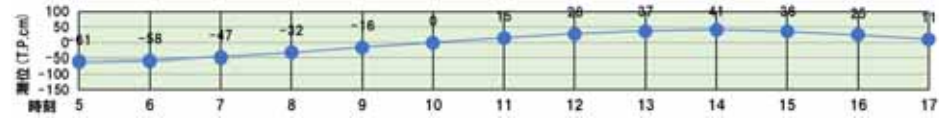
新堀川 (全区間)



第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

流れの向き

2025年10月30日



■ ↓下げ潮 ■ -流れなし ■ ↑上げ潮

地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋			↓	下流向き									
		志賀橋			↓	下流向き									
		黒川橋			-	下流向き									
		北清水橋			-	下流向き									
		東田橋			-	下流向き									
		田橋			-	下流向き									
	城北橋～朝日橋	金城橋													
		城北橋										*↓			
		中土戸橋						↓							
		大幸橋													
		朝日橋										↓			
		小塩橋													
	朝日橋～納屋橋	景雲橋													
		五条橋												*↓	↓
		中橋													
		桜橋													
		鐘橋													
		天王崎橋													
納屋橋～松重橋	新洲崎橋														
	日置橋														
	松重橋														
	古渡橋														
	尾頭橋														
	瓶屋橋														
松重橋～大瀬子橋	旗屋橋														
	熱田記念橋														
	御陵橋														
	白鳥橋														
	大瀬子橋														
	舞鶴橋														
新堀川	堀留～宇津木橋	鶏橋													
		記念橋													
		宇津木橋													
	宇津木橋～向田橋	富士見橋													
		大井橋													
		向田橋													
	向田橋～立石橋	東雲橋													
		法螺貝橋													
		立石橋													
	立石橋～文斉橋	新堀田橋													
		新聞橋													
		浮島橋													
文斉橋～合流点	内田橋														
	内田橋														

注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値

堀川の流れの向きは下流向きと停滞でした。新堀川はすべて下流向きの流れでした。上流向きの流れは記録されませんでした。



第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

水の汚れの印象

2025年10月30日



1: ■ きれい 2: ■ ややきれい 3: ■ どちらともいえない 4: ■ ややきたない 5: ■ きたない

地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋			1↓									
		志賀橋			2↓									
		黒川橋			2-									
		北清水橋			2-									
		東田橋			1-									
		田橋			2-									
	城北橋～朝日橋	金城橋			2-									
		城北橋			2↓							*1↓		
		中土戸橋			2-									
		大幸橋												
		朝日橋												
		小塩橋												
	朝日橋～納屋橋	景雲橋												
		五条橋												
		中橋												
		桜橋												
		鐘橋												
		天王崎橋												
納屋橋～松重橋	新洲崎橋													
	日置橋													
	松重橋													
	古渡橋													
	尾頭橋													
	瓶屋橋													
松重橋～大瀬子橋	旗屋橋													
	熱田記念橋													
	御陵橋													
	白鳥橋													
	大瀬子橋													
	舞鶴橋													
新堀川	堀留～宇津木橋	鶏橋												
		記念橋												
		宇津木橋												
	宇津木橋～向田橋	富士見橋												
		大井橋												
		向田橋												
	向田橋～立石橋	東雲橋												
		法螺貝橋												
		立石橋												
	立石橋～文斉橋	新堀田橋												
		新聞橋												
		浮島橋												
文斉橋～合流点	内田橋													
	内田橋													

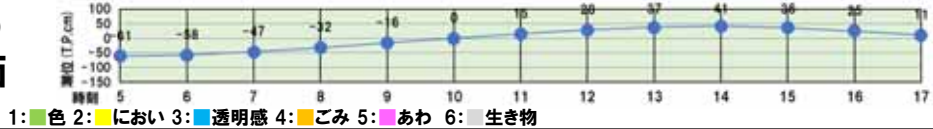
注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値



第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

水の汚れの印象の評価

2025年10月30日



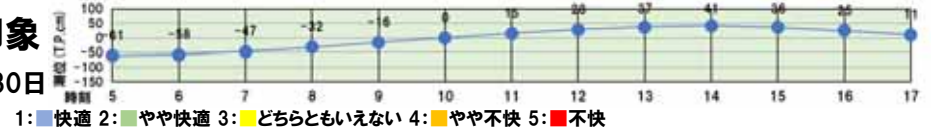
地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋			3↓									
		志賀橋			3↓									
		黒川橋			3-									
		北清水橋			3-									
		東田橋		1-										
	城北橋～朝日橋	田橋		3-										
		金城橋		3-										
		城北橋		3↓								*3↓		
		中土戸橋		3-				1↓						
		大幸橋									1↓			
	朝日橋～納屋橋	朝日橋							3-					
		小塩橋							3-					
		景雲橋												
		五条橋						1-	3-				*1↓	1↓
		中橋							1↓					
	納屋橋～松重橋	桜橋						1↓	1↓					
		鐘橋									1↓			
		天王崎橋										1↓		
		新洲崎橋								1↓				
		日置橋										1↓		
松重橋～大瀬子橋	松重橋									1↓				
	古渡橋										1↓			
	尾頭橋										1↓			
	瓶屋橋						1↓				1-			
	旗屋橋							1↓						
新堀川	堀留～宇津木橋	熱田記念橋												
		御陵橋												
		白鳥橋						1↓						
		大瀬子橋										*1↓	1↓	
		舞鶴橋						*1↓						
	宇津木橋～向田橋	鶏橋							*1↓					
		記念橋							*2↓					
		宇津木橋							*2↓					
		富士見橋							*1↓					
		大井橋							*1↓					
	向田橋～立石橋	向田橋							*1↓					
		東雲橋							*1↓					
		法螺貝橋							1↓					
		立石橋									*1↓			
		新堀田橋									*1↓			
立石橋～文斉橋	新開橋									*1↓				
	浮島橋									*1↓				
	内田橋									*1↓				
	文斉橋										*1↓			
	合流点											1↓		

注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値

第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

水の色の印象

2025年10月30日



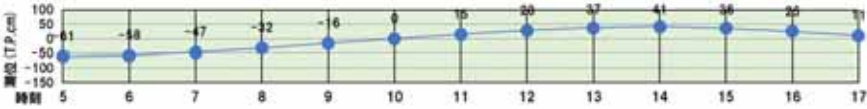
地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋			1↓									
		志賀橋			1↓									
		黒川橋			1-									
		北清水橋			2-									
		東田橋		2-										
	城北橋～朝日橋	田橋		2-										
		金城橋		2-										
		城北橋		2↓								*2↓		
		中土戸橋		2-				3↓						
		大幸橋									3↓			
	朝日橋～納屋橋	朝日橋							3-					
		小塩橋							4-					
		景雲橋												
		五条橋						4-	3-				*4↓	5↓
		中橋							3↓					
	納屋橋～松重橋	桜橋							3↓					
		鐘橋										4↓		
		天王崎橋									2↓			
		新洲崎橋								3↓				
		日置橋										3↓		
松重橋～大瀬子橋	松重橋									3↓				
	古渡橋										3↓			
	尾頭橋										3↓			
	瓶屋橋						2↓				3-			
	旗屋橋							3↓						
新堀川	堀留～宇津木橋	熱田記念橋												
		御陵橋												
		白鳥橋						1↓						
		大瀬子橋										*3↓	3↓	
		舞鶴橋						*5↓						
	宇津木橋～向田橋	鶏橋							*5↓					
		記念橋							*5↓					
		宇津木橋							*5↓					
		富士見橋							*4↓					
		大井橋							*4↓					
	向田橋～立石橋	向田橋							*4↓					
		東雲橋							*4↓					
		法螺貝橋							4↓					
		立石橋									*4↓			
		新堀田橋									*4↓			
立石橋～文斉橋	新開橋									*4↓				
	浮島橋									*4↓				
	内田橋									*4↓				
	文斉橋										*3↓			
	合流点										*4↓	4↓		

注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値

第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

水の色の種類

2025年10月30日



5: 緑色 6: 灰色 7: 黄灰色 8: 淡灰黄緑色 9: 灰黄緑色 10: 灰緑色 12: 淡黄灰色 15: 緑褐色

地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋		5↓										
		志賀橋			5↓									
		黒川橋			5-									
		北清水橋			5-									
		東田橋		5-										
	城北橋～朝日橋	田橋		5-										
		金城橋		5-										
		城北橋		5↓								*10↓		
		中土戸橋		5-				9↓						
		大幸橋									10↓			
	朝日橋～納屋橋	朝日橋							8-					
		小塩橋							8-					
		景雲橋											*10↓	9↓
		五条橋					9-	9-						
		中橋							9↓					
納屋橋～松重橋	桜橋							9↓						
	鐘橋									10↓				
	天王崎橋									9↓				
	新洲崎橋								9↓					
	日置橋										9↓			
松重橋～大瀬子橋	松重橋									9↓				
	古渡橋										9↓			
	尾頭橋										9↓			
	瓶屋橋						10↓				9↓			
	旗屋橋							9↓						
	熱田記念橋										9-			
	御陵橋													
	白鳥橋						9↓							
大瀬子橋									*9↓		9↓			
新堀川	堀留～宇津木橋	舞鶴橋						*8↓						
		鶏橋							*8↓					
		記念橋							*8↓					
		宇津木橋							*12↓					
		富士見橋							*12↓					
	宇津木橋～向田橋	大井橋							*8↓					
		向田橋							*8↓					
		東雲橋							*8↓					
	向田橋～立石橋	法螺貝橋							7↓					
		立石橋									*15↓			
	立石橋～文育橋	新堀田橋									*8↓			
		新開橋									*8↓			
	文育橋～合流点	浮島橋										*9↓		
		内田橋									*8↓		8↓	

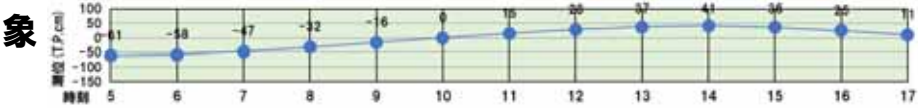
注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値



第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

においの印象
の評価

2025年10月30日



1: におわない 2: ややにおう 3: におう 4: ややひどくにおう 5: ひどくにおう

地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋		1↓										
		志賀橋			1↓									
		黒川橋			1-									
		北清水橋			1-									
		東田橋		1-										
	城北橋～朝日橋	田橋		1-										
		金城橋		1-										
		城北橋		1↓								*2↓		
		中土戸橋						1↓						
		大幸橋									1↓			
	朝日橋～納屋橋	朝日橋							1-					
		小塩橋							1-					
		景雲橋											*3↓	
		五条橋					2-		1-				3↓	
		中橋							1↓					
納屋橋～松重橋	桜橋						1↓	1↓						
	鐘橋									1↓				
	天王崎橋									1↓				
	新洲崎橋								1↓					
	日置橋										1↓			
松重橋～大瀬子橋	松重橋									1↓				
	古渡橋										1↓			
	尾頭橋										1↓			
	瓶屋橋						1↓				1-			
	旗屋橋							1↓						
	熱田記念橋										1-			
	御陵橋													
	白鳥橋						1↓							
大瀬子橋									*1↓		1↓			
新堀川	堀留～宇津木橋	舞鶴橋						*5↓						
		鶏橋							*5↓					
		記念橋							*5↓					
		宇津木橋							*5↓					
		富士見橋							*2↓					
	宇津木橋～向田橋	大井橋							*1↓					
		向田橋							*1↓					
		東雲橋							*2↓					
	向田橋～立石橋	法螺貝橋							2↓					
		立石橋								*2↓				
	立石橋～文育橋	新堀田橋								*2↓				
		新開橋								*1↓				
	文育橋～合流点	浮島橋									*1↓			
		内田橋									*1↓		2↓	

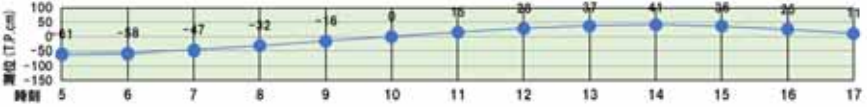
注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値



第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

においの種類

2025年10月30日



1: 無臭 2: へド口臭 3: 腐卵臭 4: どぶ臭 5: 磯臭 6: その他

地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋			1↓									
		志賀橋			1↓									
		黒川橋			1-									
		北清水橋			1-									
		東田橋		1-										
		因幡橋		1-										
	城北橋～朝日橋	金城橋		1-										
		城北橋		1↓								*6↓		
		中土戸橋		1-				1↓						
		大幸橋									1↓			
	朝日橋～納屋橋	朝日橋							1-					
		小塩橋							1-					
		景雲橋												
		五条橋						4-	1-				*3↓	6↓
		中橋							1↓					
	納屋橋～松重橋	桜橋									1↓			
		鐘橋						1↓	1↓					
		天王崎橋									1↓			
		洲崎橋								1↓				
		日置橋										1↓		
松重橋～大瀬子橋	松重橋									1↓				
	古瀬橋										1↓			
	尾頭橋										1↓			
	瓶屋橋						1↓				1-			
	旗屋橋							1↓						
	熱田記念橋							1↓			1-			
	御陵橋							1↓						
新堀川	白鳥橋						1↓							
	大瀬子橋											1↓		
	舞鶴橋						*3↓							
	鶏橋							*3↓						
	記念橋							*3↓						
	宇津木橋							*3↓						
	宇津木橋～向田橋	富士見橋							*4↓					
		大井橋							*1↓					
		向田橋							*1↓					
	向田橋～立石橋	東雲橋							*4↓					
法螺貝橋								4↓						
立石橋～文育橋	立石橋								*4↓					
	新堀田橋								*4↓					
文育橋～合流点	新開橋								*1↓					
	浮島橋									1↓				
内田橋									*1↓					

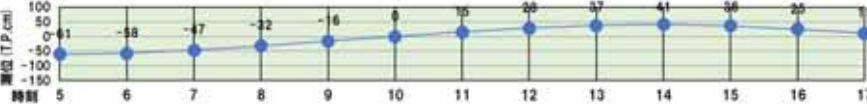
注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値



第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

透視度

2025年10月30日



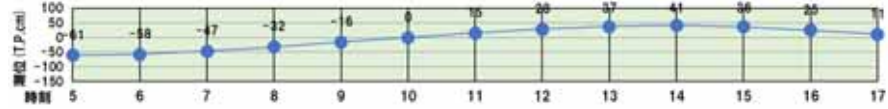
地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
堀川	猿投橋～城北橋	猿投橋			↓									
		志賀橋			↓									
		黒川橋			-									
		北清水橋			-									
		東田橋		-										
		因幡橋		-										
	城北橋～朝日橋	金城橋		↓								*100↓		
		城北橋		-										
		中土戸橋						↓						
		大幸橋									81↓			
	朝日橋～納屋橋	朝日橋												
		小塩橋												
		景雲橋											*45↓	30↓
		五条橋						73-	-					
		中橋							↓					
	納屋橋～松重橋	桜橋									78↓			
		鐘橋						93↓	↓					
		天王崎橋									100↓			
		新洲崎橋								↓				
		日置橋										↓		
松重橋～大瀬子橋	松重橋									100↓				
	古瀬橋										↓			
	尾頭橋										↓			
	瓶屋橋										-			
	旗屋橋						100↓							
	熱田記念橋							100↓						
	御陵橋							100↓						
新堀川	白鳥橋						100↓							
	大瀬子橋											↓		
	舞鶴橋						*↓							
	鶏橋							*↓						
	記念橋							*↓						
	宇津木橋							*↓						
	宇津木橋～向田橋	富士見橋							*↓					
		大井橋							*↓					
		向田橋							*↓					
	向田橋～立石橋	東雲橋							*↓					
法螺貝橋								78↓						
立石橋～文育橋	立石橋									*↓				
	新堀田橋									*↓				
文育橋～合流点	新開橋									*↓				
	浮島橋										*↓			
内田橋												↓		

注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値

第22回 堀川一斉調査結果 ～水位変化が小さい時の堀川・新堀川の様子～

COD

2025年10月30日



地点名		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時		
堀川	猿投橋～城北橋			↓												
	城北橋～朝日橋						↓			6↓						
	朝日橋～納屋橋						12-	-				*10↓	6↓			
	納屋橋～松重橋									↓						
	松重橋～大瀬子橋						6↓		4↓							
	新堀川	堀留～宇津木橋						*↓								
		宇津木橋～向田橋							*↓							
		向田橋～立石橋							*↓							
		立石橋～文育橋									*↓					
		文育橋～合流点										*↓				

注)矢印は観測時の流れの向きを示す。*印は10月29日調査値

6.5. 堀川と新堀川の潮回りによるちがい(その2)

3月～8月(春・夏)と9月～2月(秋・冬)の別に潮回りによるちがいを整理してみました。

使用データ
2020年度(令和2年度)*
～2024年度(令和6年度)
前日・当日・降雨なし データ数:13,157件
*新堀川の定点観測が本格実施



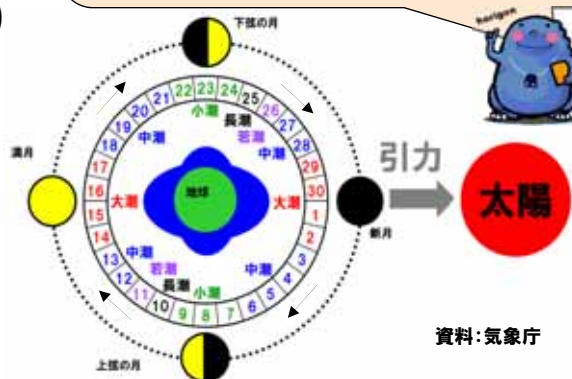
堀川・新堀川には、名古屋港の潮位の変化の影響を受けている区間があります。その区間は感潮区間とされています。
堀川の感潮区間は猿投橋までです。新堀川は全川が感潮区間です。堀川・新堀川の感潮区間では、名古屋港の潮位の変化(干潮と満潮の差)が大潮の時に最も大きくなり、その差は最大で2mを超える時があります。
この潮位の変化が堀川・新堀川の水の汚れの印象に関係していることが少しずつ分かってきました。ここでは、気象条件が異なる3月～8月(春・夏)と9月～2月(秋・冬)の別に潮回りによるちがいを整理してみました。

潮回り(小潮、長潮・若潮・中潮、大潮)

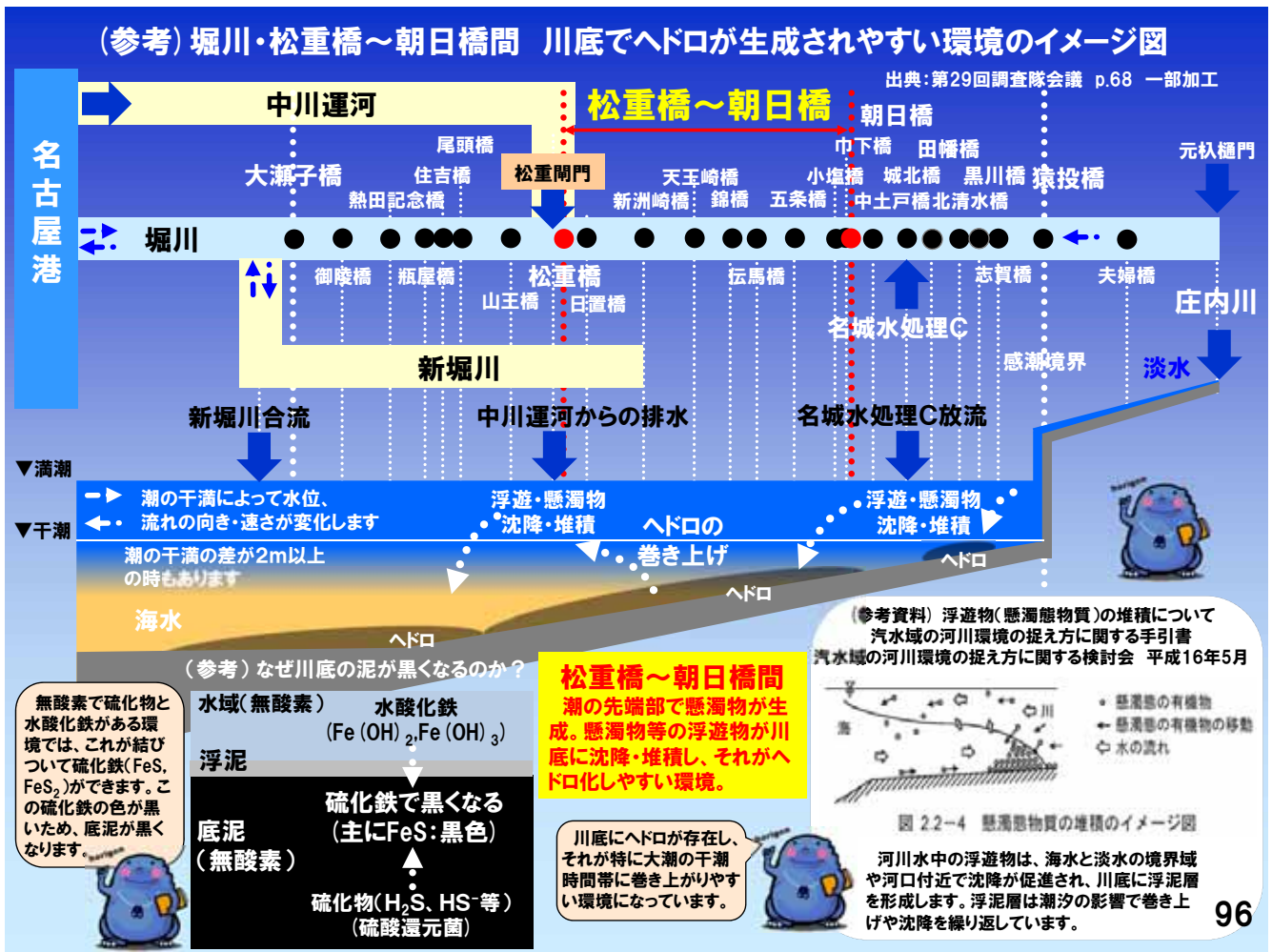
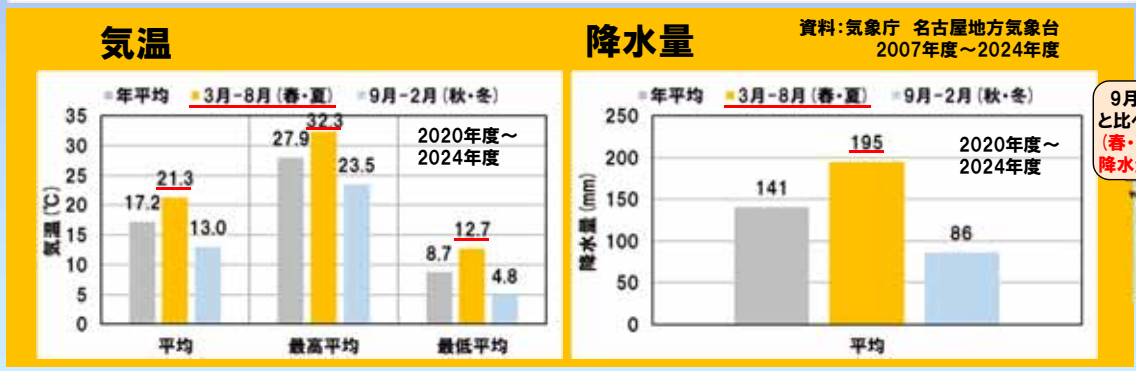
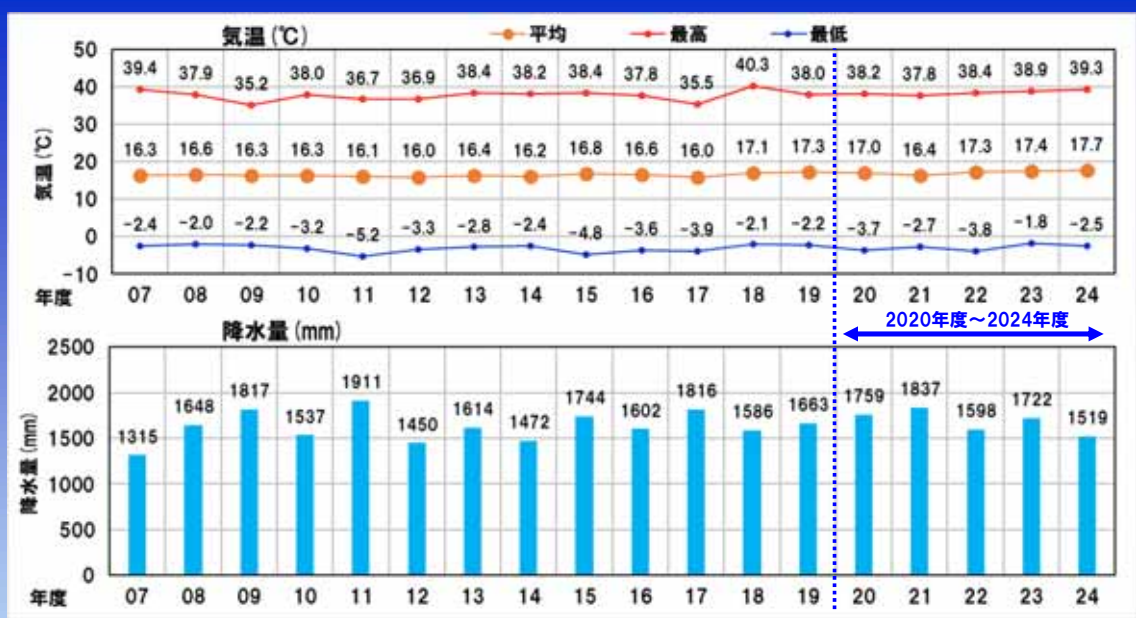
小潮<長潮<若潮<中潮<大潮

潮位の変化

小さい ← → 大きい



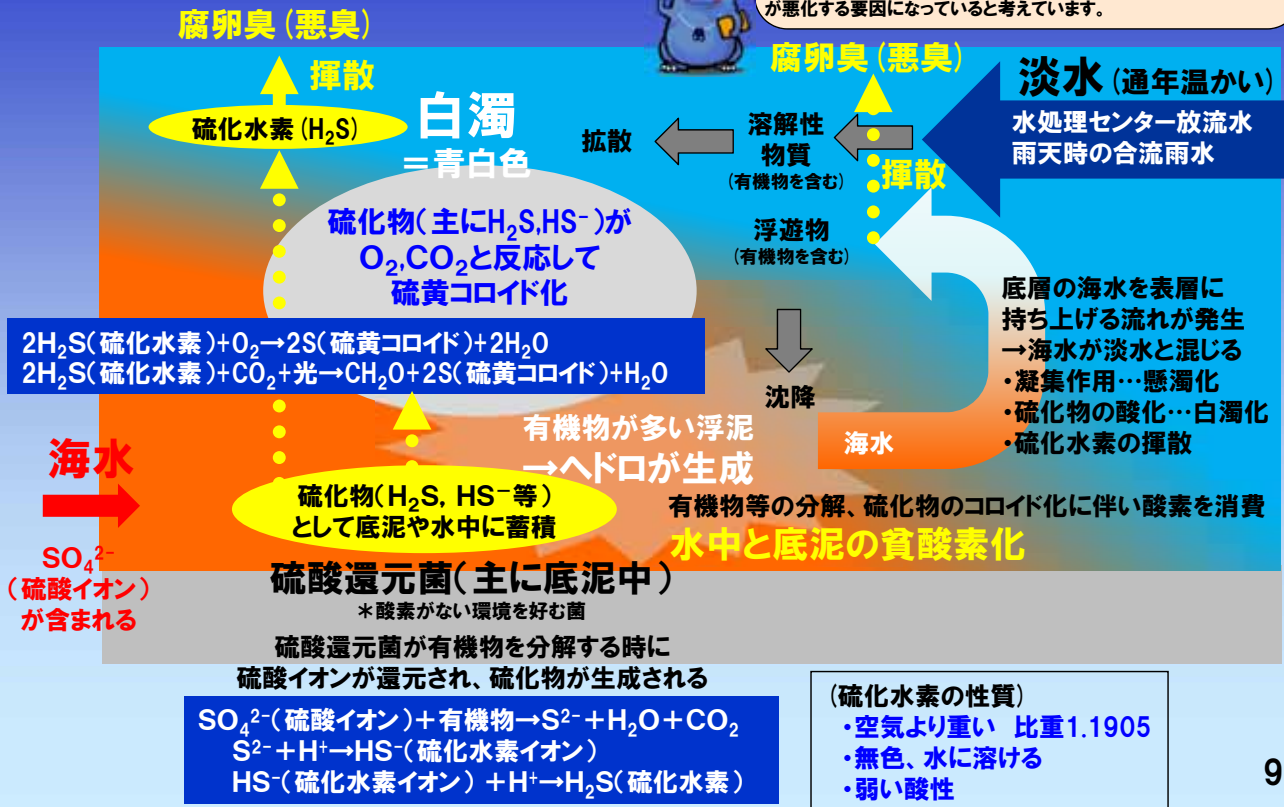
資料:気象庁



(参考) 新堀川・堀留～宇津木橋間
硫化物が生成しやすい環境のイメージ図(概略)

出典:第29回調査隊会議 市民報告 p.121(一部加工)

新堀川は上流端まで川底が深いので、水が入れ換わりにくく、特に底層の水は常時停滞しやすいと考えています。このため、上流の区間は、主な水源となっている水処理センターからの放流水(年間を通して温かい)と雨天時に流出する合流雨水等に由来する浮遊物(有機物を含む)が、川底に沈降・堆積しやすい環境になっており、水中と底質中の貧酸素化が進んでいると考えられます。ここでは硫化物がたくさん生成され、白濁や悪臭(腐卵臭)などが発生し、水の汚れの印象が悪化する要因になっていると考えています。



(まとめ) 堀川 潮回り(小潮、中潮等、大潮)によるちがい

注)“長潮・若潮・中潮”は“中潮等”とする

悪 ← → 良

項目	大瀬子橋～松重橋			松重橋～朝日橋			朝日橋～猿投橋				
	年間	3月～8月 春・夏	9月～2月 秋・冬	年間	3月～8月 春・夏	9月～2月 秋・冬	年間	3月～8月 春・夏	9月～2月 秋・冬		
水の汚れの印象	きれい～どちらともいえないの割合(%)	小潮	82	77	86	52	61	46	75	65	82
		中潮等	76	70	84	34	21	43	72	66	77
		大潮	75	67	84	32	20	41	69	67	71
色	印象 快適～どちらともいえないの割合(%)	小潮	85	80	89	56	62	51	82	72	89
		中潮等	83	79	87	39	28	47	84	74	91
		大潮	75	66	85	38	22	51	86	78	92
色	ヘドロ系の割合(%)	小潮	7	1	11	25	13	34	2	2	1
		中潮等	6	2	10	36	33	37	1	1	1
		大潮	7	10	5	33	42	25	1	2	0
色	白濁系の割合(%)	小潮	37	36	39	25	19	29	14	20	11
		中潮等	42	51	33	27	34	22	13	19	9
		大潮	29	27	31	26	17	33	10	16	6
泡	川底からの泡の割合(%)	小潮	2	3	0	8	11	5	8	14	4
		中潮等	1	1	0	8	13	5	8	15	4
		大潮	8	15	0	20	34	9	8	13	4
におい	におわないの割合(%)	小潮	95	97	93	79	84	76	97	96	98
		中潮等	95	95	95	59	55	62	98	98	99
		大潮	88	83	94	66	54	74	98	97	99
透視度 (cm)		小潮	82	67	87	69	75	67	82	81	83
		中潮等	87	82	93	65	59	68	83	85	81
		大潮	73	63	85	64	59	69	85	86	85
COD (mg/L)		小潮	8	10	6	9	10	9	6	6	7
		中潮等	9	10	7	9	10	9	8	8	8
		大潮	8	8	8	10	10	10	7	7	8

堀川 潮位の変化が大きい時に川底のヘドロが攪拌されて印象が悪化

- 小潮時よりも大潮・中潮等の時に“水の汚れの印象”が良くない。特に松重橋～朝日橋間の“水の汚れの印象”の改善が遅れている。
- “水の色”の印象と“におい”が良くない時(主に大潮・中潮等の時)は、“ヘドロ系の色”の割合が多く、“透視度”が良くない。潮位の変化が大きい時に川底のヘドロが攪拌されて印象が悪化していると考えられる。

(まとめ) 松重橋～朝日橋間

特に3月～8月(春・夏)の大潮・中潮等の時に川底のヘドロが攪拌されて印象が悪化

9月～2月(秋・冬)よりも3月～8月(春・夏)は、気温が高く・降水量が多いため、水域に有機物が多く流入して、川底でヘドロが生成されやすい環境になりやすく、特に大潮・中潮等に川底のヘドロが攪拌されやすくなるためと考えています。

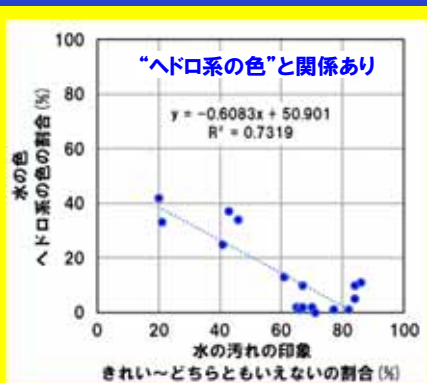
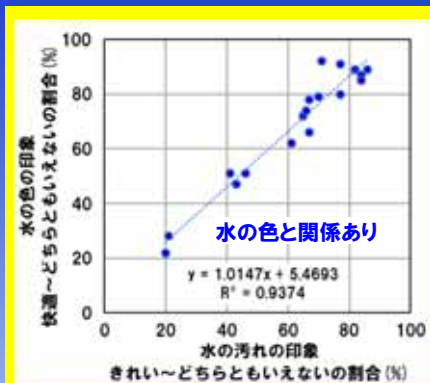


99

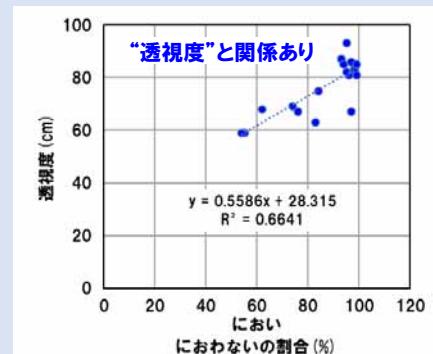
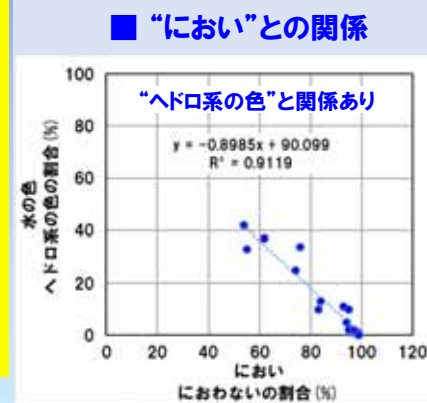
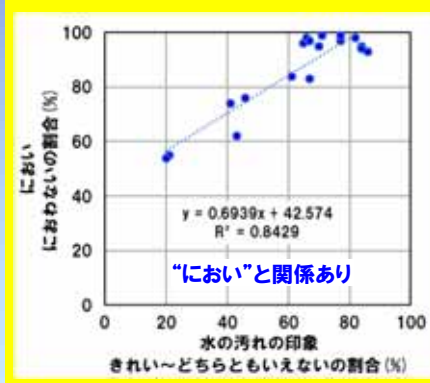
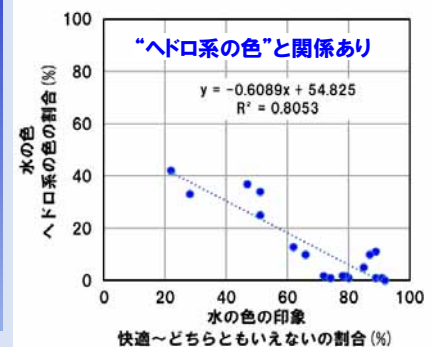
(参考) 堀川 水の汚れの印象と川底のヘドロとの関係

■ “水の汚れの印象”との関係

(使用データ) 区間(大瀬子橋～松重橋、松重橋～朝日橋、朝日橋～猿投橋)・期間(3月～8月、9月～2月)・潮位(大潮・中潮等・小潮)別の計算結果



■ “水の色”との関係



“水の汚れの印象”は、“ヘドロ系の色”と“におい”が関係していることが分かりました。

“水の色”の印象と“におい”が良くない時は、“ヘドロ系の色”の割合が多く、“透視度”が良くありません。潮位の変化が大きい時の“水の汚れの印象”の悪化は、川底のヘドロが攪拌されることが関係していると考えています。

(まとめ) 新堀川 潮回り(小潮、中潮等、大潮)によるちがい

注)“長潮・若潮・中潮”は“中潮等”とする

*印:データ数が少ない

悪 ← → 良

項目	内田橋～立石橋			立石橋～宇津木橋			宇津木橋～舞鶴橋				
	年間	3月～8月 春・夏	9月～2月 秋・冬	年間	3月～8月 春・夏	9月～2月 秋・冬	年間	3月～8月 春・夏	9月～2月 秋・冬		
水の汚れの印象	きれい～どちらともいえないの割合(%)	小潮	53	49	58	33	27	41	37	25	52
		中潮等	40	25	52	21	15	28	32	23	43
		大潮	37	29	49	23	10	44	23	17	30
色	印象 快適～どちらともいえないの割合(%)	小潮	61	60	61	47	43	52	48	43	55
		中潮等	54	48	60	24	19	29	40	39	41
		大潮	54	46	66	25	14	46	26	18	36
色	ヘドロ系の割合(%)	小潮	8	9	6	6	3	11	4	2	7
		中潮等	10	0	17	3	2	4	3	2	4
		大潮	10	3	21	6	6	7	5	5	5
色	白濁系の割合(%)	小潮	33	34	30	40	52	22	59	64	52
		中潮等	42	50	37	55	56	54	57	64	49
		大潮	37	49	18	57	68	36	65	68	62
泡	川底からの泡の割合(%)	小潮	8	13	0	6	11	0	47	76	10
		中潮等	4	5	4	2	4	0	45	60	27
		大潮	21	29	8	6	10	0	50	73	23
におい	におわないの割合(%)	小潮	85	81	91	60	57	65	33	29	39
		中潮等	80	65	92	56	47	67	28	30	25
		大潮	57	56	59	54	52	56	27	26	29
透視度(cm)		小潮	81	67	94	73	68	75	73	58	90
		中潮等	96	-	96	67	53	77	74	79*	68*
		大潮	75	69	89	84	79	89	82	90*	75*
COD(mg/L)		小潮	12	12	11	15	15	14	17	17	16
		中潮等	11	-	11	14	14	13	18	18*	18*
		大潮	12	12	13	14	16	13	16	15*	18*

新堀川 潮位の変化が大きい時に底泥中の硫化物が水域に解放されて印象が悪化

- 小潮・中潮等の時よりも大潮時に“水の汚れの印象”が良くない。全区間で“水の汚れの印象”の改善が遅れており、特に立石橋～舞鶴橋間が良くない。
- このうち、宇津木橋～舞鶴橋間は“白濁系の色”、“川底からの泡”の割合が多く、“におわない”の割合が少ないことから、底泥中の硫化物が水域及び大気に解放・揮散されて印象が悪化していると考えられる。

(まとめ) 宇津木橋～舞鶴橋間

特に3月～8月(春・夏)の大潮時に底泥中の硫化物が水域に解放されて印象が悪化

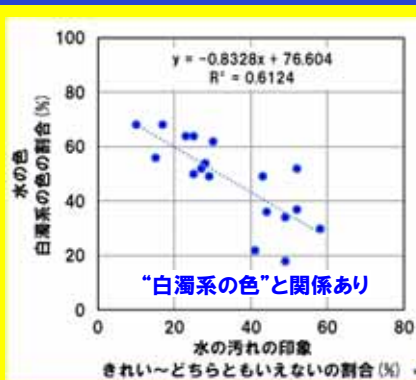
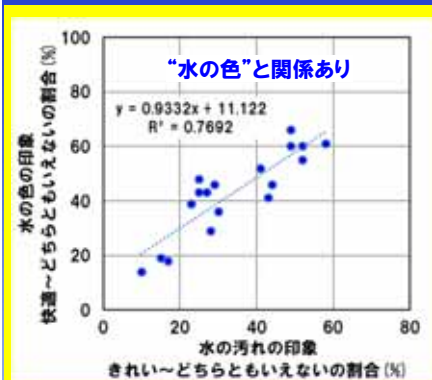
9月～2月(秋・冬)よりも3月～8月(春・夏)は、気温が高く降水量が多いため、水域に有機物が多く流入して、底泥中で硫化物が生成されやすい環境になりやすく、特に大潮時に水域に解放されやすくなるためと考えています。



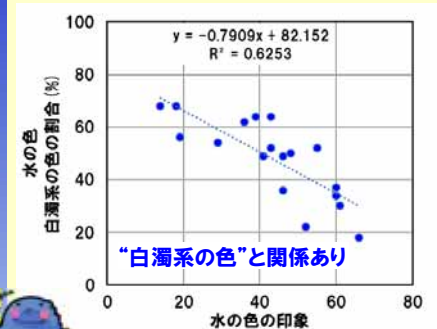
(参考) 新堀川 水の汚れの印象と川底の硫化物との関係

(使用データ) 区間(内田橋～立石橋、立石橋～宇津木橋、宇津木橋～舞鶴橋)・期間(3月～8月、9月～2月)・潮位(大潮・中潮等・小潮)別の計算結果

■ “水の汚れの印象”との関係

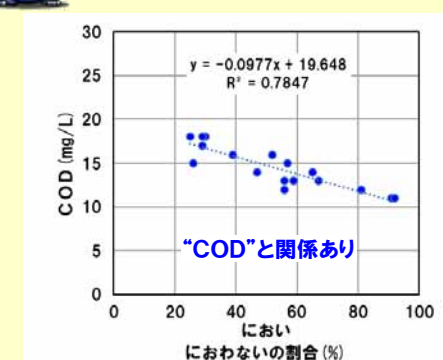
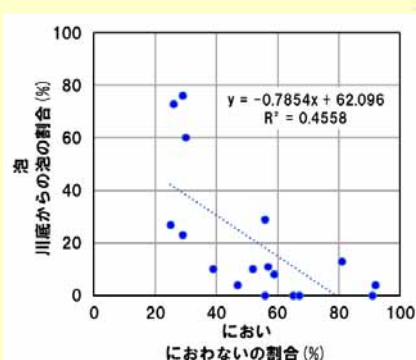
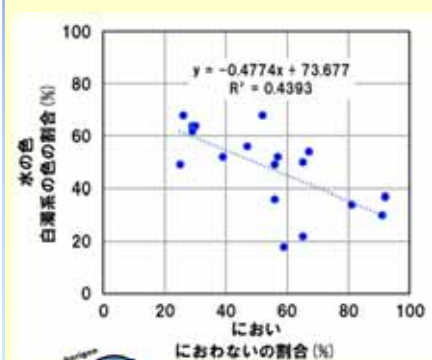


■ “水の色”との関係



■ “におい”との関係

“水の汚れの印象”は、“白濁系の色”と関係していることが分かりました。



“におい”が良くない時は、“白濁系の色”と“川底からの泡”の割合が多くなる傾向が見られ、“COD”が良くありません。潮位の変化が大きい時の“水の汚れの印象”の悪化は、底泥中の硫化物が水域に解放されることが関係していると考えています。

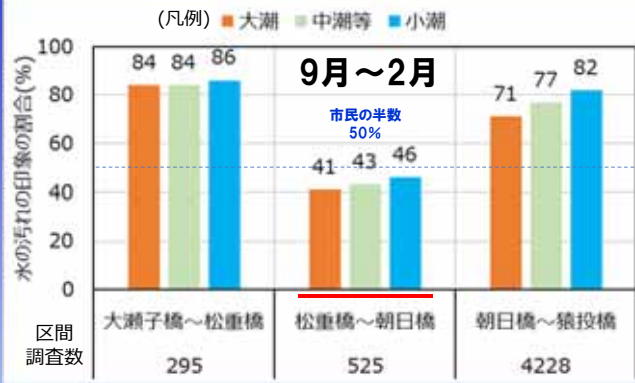
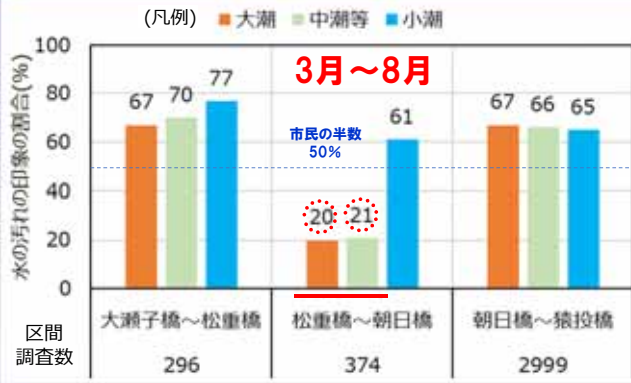
堀川

使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし

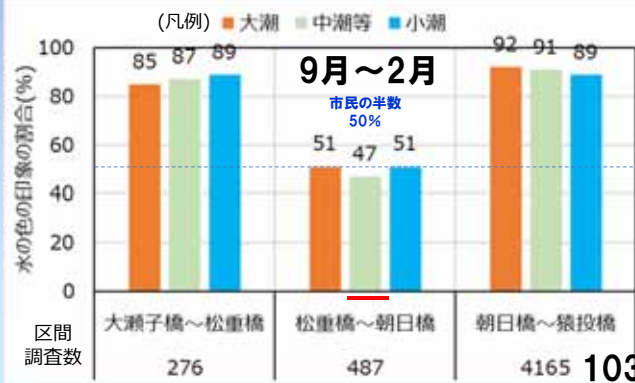
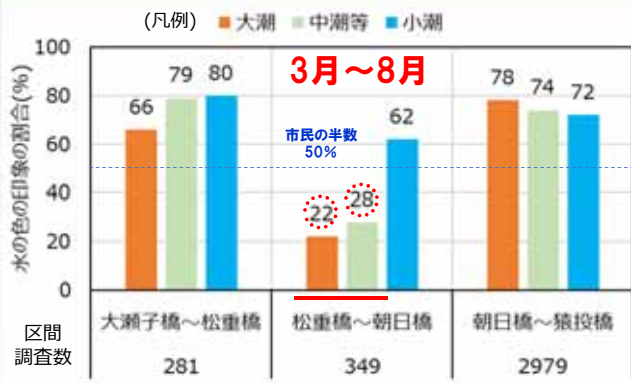
“水の汚れの印象”と“水の色”は、松重橋～朝日橋間の改善が遅れています。特に3月～8月(春・夏)の大潮・中潮等の改善が遅れています。



■ 水の汚れの印象 “きれい～どちらともいえない”の割合



■ 水の色 “快適～どちらともいえない”の割合



堀川

使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし

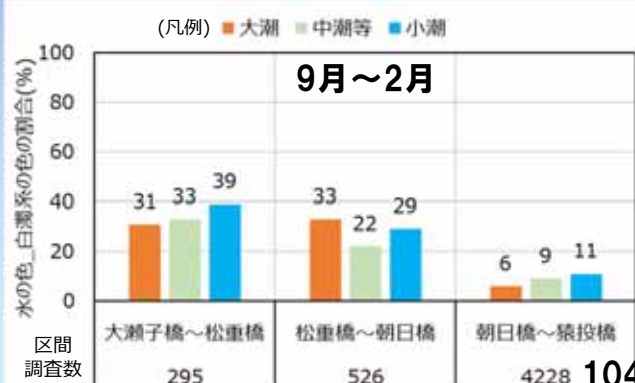
“ヘドロ系の色”は、松重橋～朝日橋間で多く、特に3月～8月(春・夏)の大潮の時に最も多く見られています。



■ 水の色 “ヘドロ系の色”の割合



■ 水の色 “白濁系の色”の割合



堀川

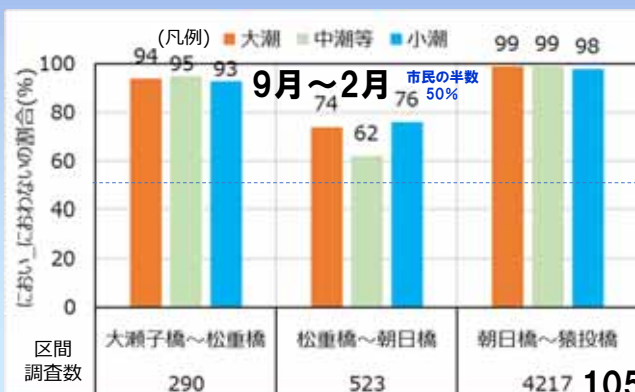
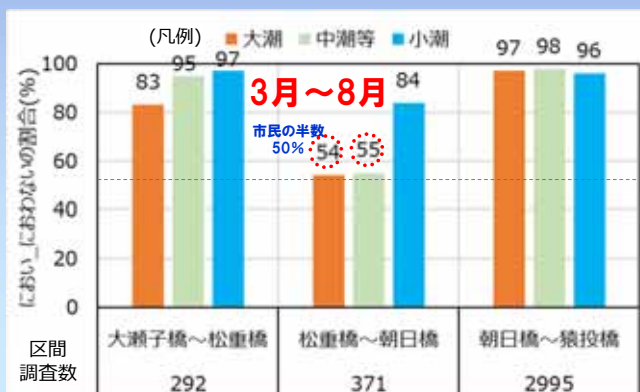
使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日・降雨なし

泡“川底からの泡”の割合

“川底からの泡”は、松重橋～朝日橋間の3月～8月(春・夏)の大潮の時に多く見られています。“におい”は、“におわない”の割合の目標にしている市民の半数を超えています。松重橋～朝日橋間の改善が遅れており、特に3月～8月(春・夏)の大潮・中潮等の改善が遅れています。



におい“におわない”の割合

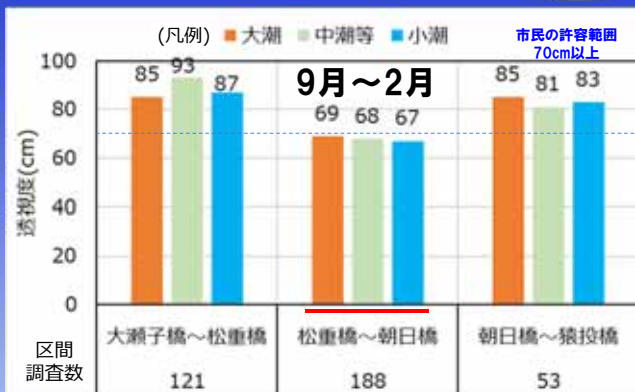
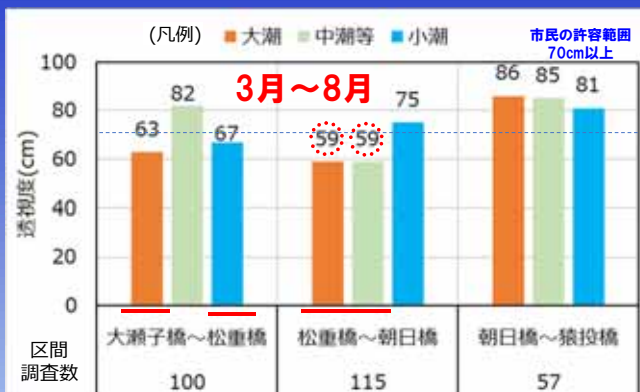


堀川

使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日・降雨なし

透視度

“透視度”と“COD”は、3月～8月(春・夏)の大瀬子橋～朝日橋間、9月～2月(秋・冬)の松重橋～朝日橋間の改善が遅れています。特に透視度は3月～8月(春・夏)の大潮・中潮等の改善が遅れています。



COD



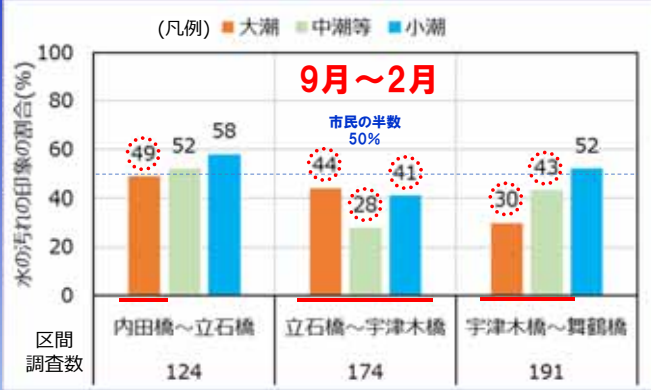
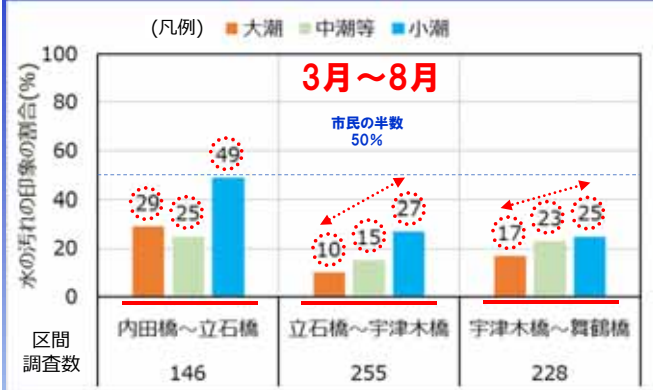
新堀川

使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし

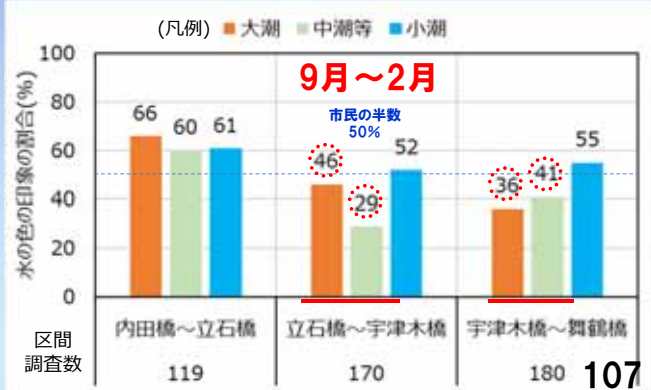
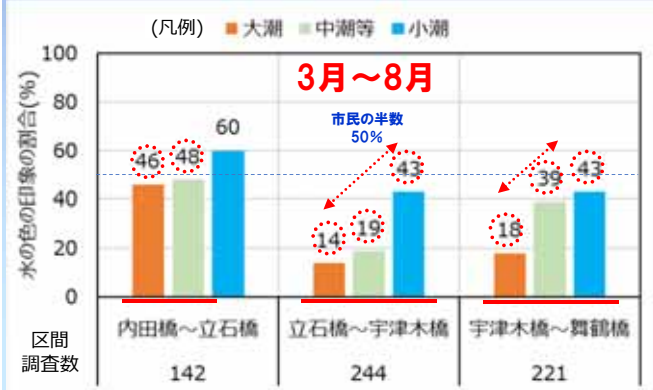
“水の汚れの印象”と“水の色”は、立石橋～舞鶴橋間の改善が遅れており、特に3月～8月(春・夏)の潮位の変化が大きい時ほど改善が遅れています。



■ 水の汚れの印象 “きれい～どちらともいえない”の割合



■ 水の色”の印象 “快適～どちらともいえない”の割合



新堀川

使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし

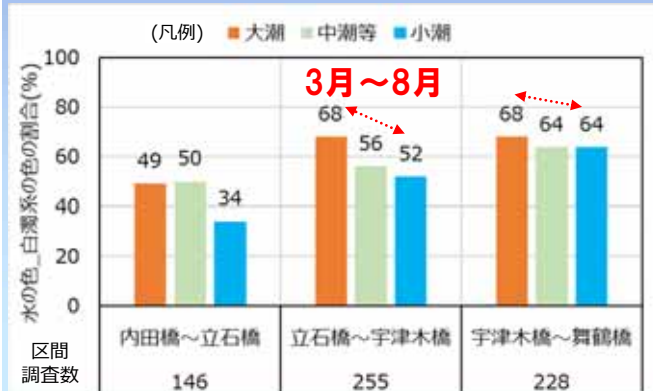
“水の色”は、特に立石橋～舞鶴橋間で“白濁系の色”が多く、特に3月～8月(春・夏)の潮位の変化が大きい時に多く見られています。



■ 水の色 “へドロ系の色”の割合



■ 水の色 “白濁系の色”の割合



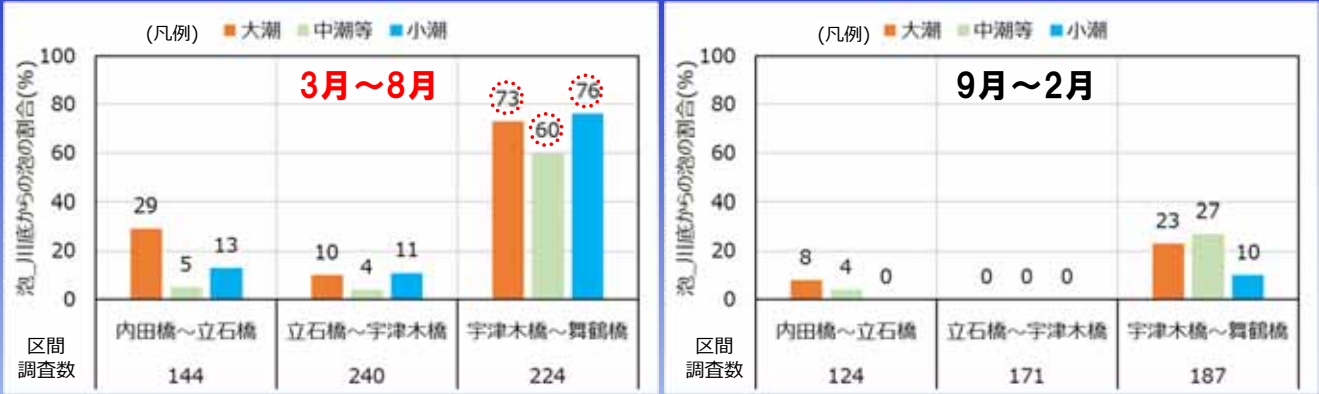
新堀川

使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし

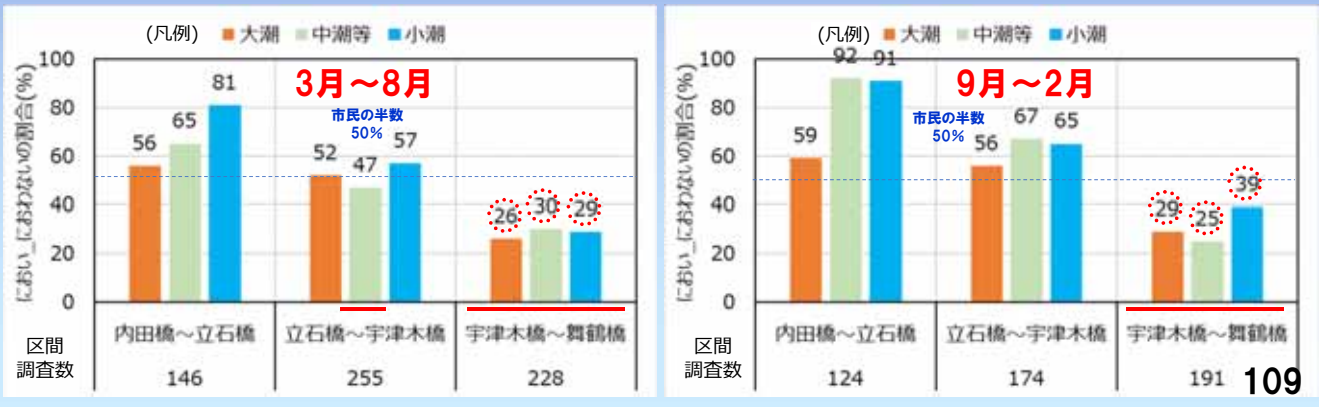
“川底からの泡”は、宇津木橋～舞鶴橋間の3月～8月(春・夏)で多く見られています。“におい”は、“におわない”の割合が宇津木橋～舞鶴橋間で目標としている市民の半数を下回っており、改善が遅れています。



泡“川底からの泡”の割合



におい“におわない”の割合



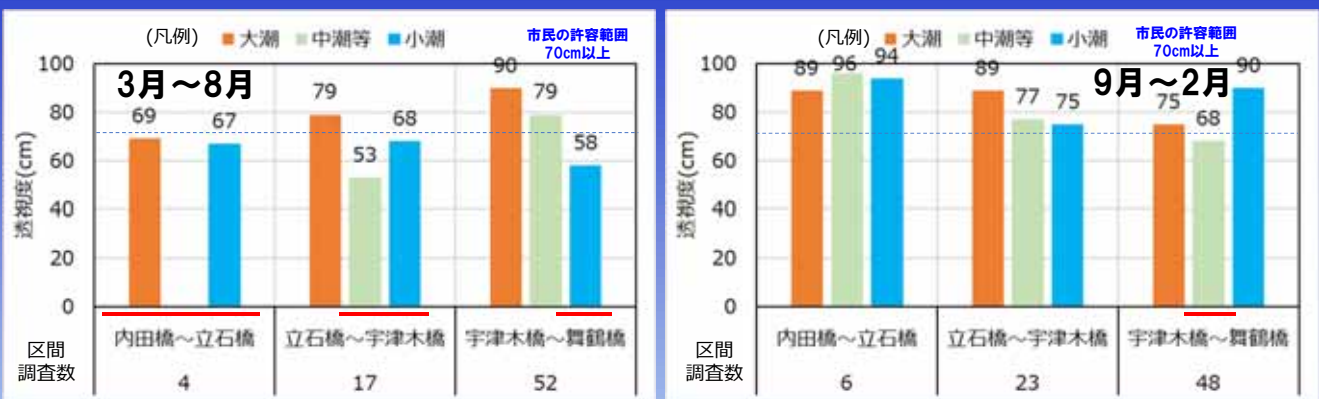
新堀川

使用データ
2020年度(令和2年度)～2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし

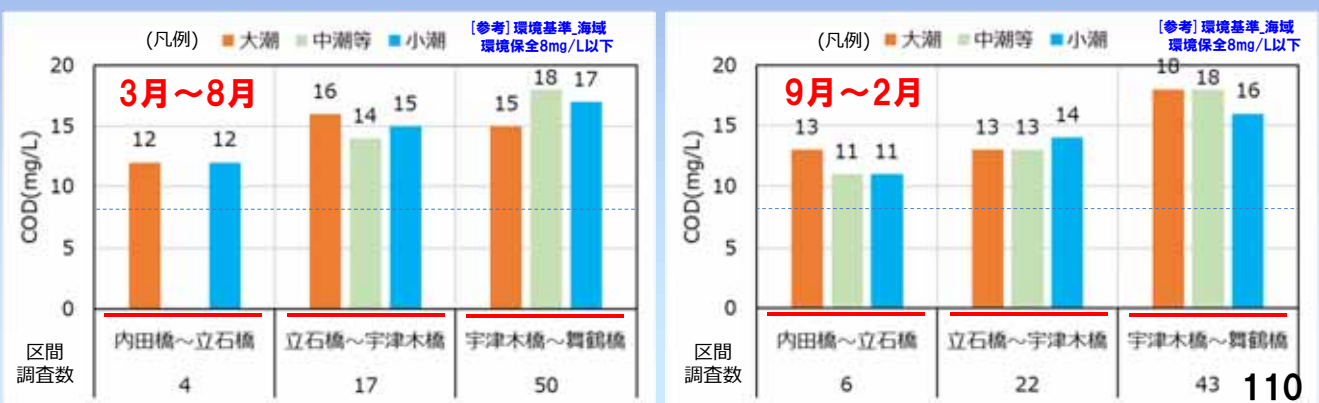
“透視度”は概ね市民の許容の範囲です。“COD”は目標としている8mg/L以下(環境基準の海域_環境保全)をすべて上回っています。特に宇津木橋～舞鶴橋間の改善が遅れています。



透視度



COD



6.6. 堀川と新堀川の潮位によるちがい

使用データ：2020年度(令和2年度)*~2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし データ数：13,157件
*新堀川の定点観測が本格実施

堀川と新堀川の潮位による水の汚れのちがいを整理してみました。



潮位の変化は、地球と太陽と月の間の引力によって生じています。
潮の干満は、1日のうちに概ね2回生じています。これは地球が自転しているからです。潮位は地球と太陽と月の位置の関係で変化する引力の変化で生じています。



(まとめ)

堀川 松重橋～朝日橋間

特に潮位が低下した時に、川底のヘドロが攪拌されて印象が悪化

松重橋～朝日橋間は、他の区間よりも“ヘドロ系の水の色”の割合が多く、特に潮位が低い時に水の色が印象が悪いため、水の汚れの印象が悪いたことが分かりました。
潮位が低下した時に川底のヘドロが攪拌されやすい環境になるためだと考えています。



新堀川 宇津木橋～舞鶴橋間

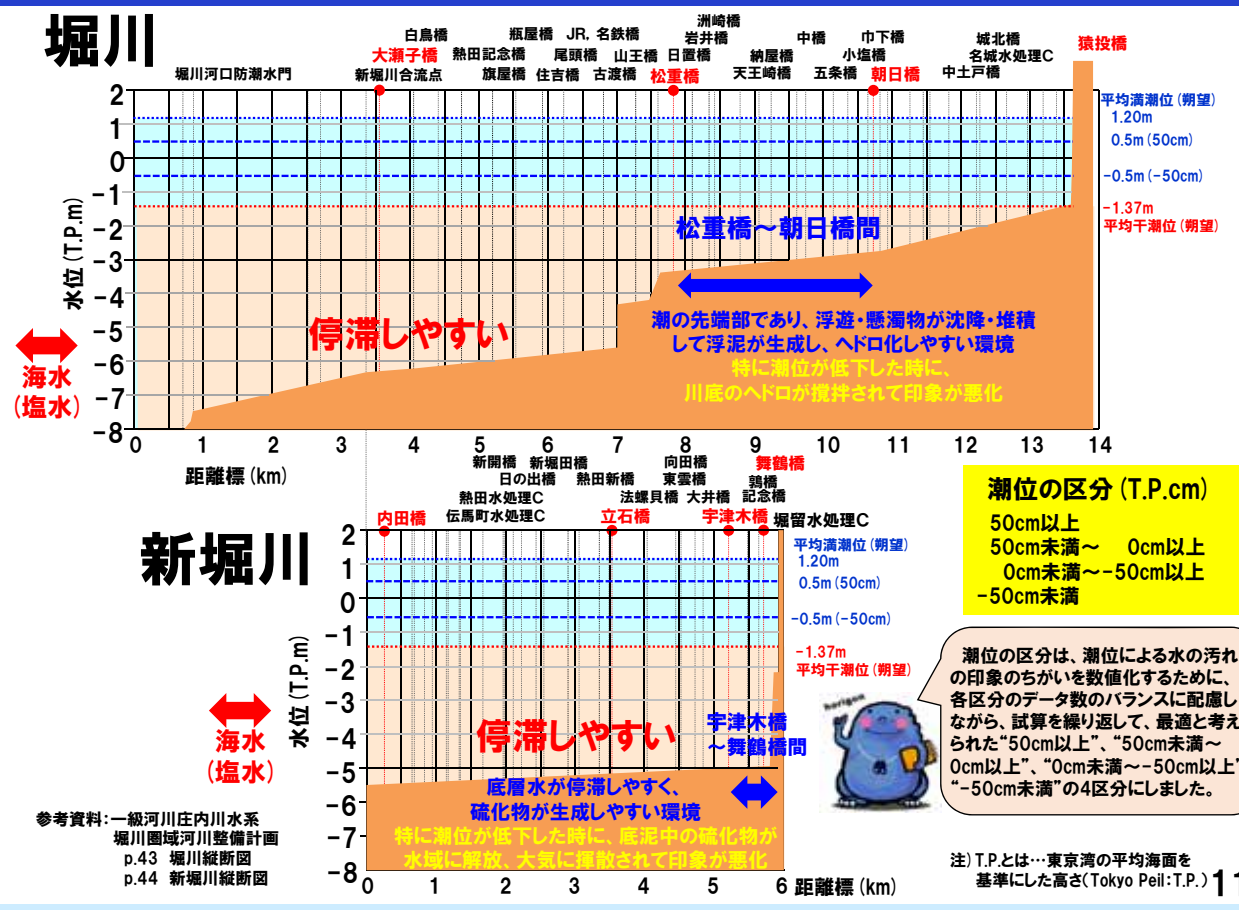
特に潮位が低下した時に、底泥中の硫化物が水域に解放、大気に揮散されて印象が悪化

宇津木橋～舞鶴橋間は他の区間よりも“川底からの泡”、“白濁系の水の色”の割合が多く、“におわない”の割合が少なく、特に潮位が低い時にその傾向が顕著に表れており、水の汚れの印象が悪いたことが分かりました。
潮位の低下とそれに伴う川底の水圧の低下により、底泥中の硫化物が水域に解放、大気に揮散されやすい環境になるためだと考えています。



(参考資料) 堀川・新堀川の形状と潮位の区分について

資料：第24回 調査隊会議 市民報告 p.99 一部加工



堀川と新堀川の潮位によるちがい

堀川と新堀川の潮位による水の汚れのちがいを整理してみました。

使用データ：2020年度(令和2年度)*~2024年度(令和6年度)
前日・当日_降雨なし データ数：13,157件
*新堀川の定点観測が本格実施



(まとめ) 堀川・新堀川_潮位との関係

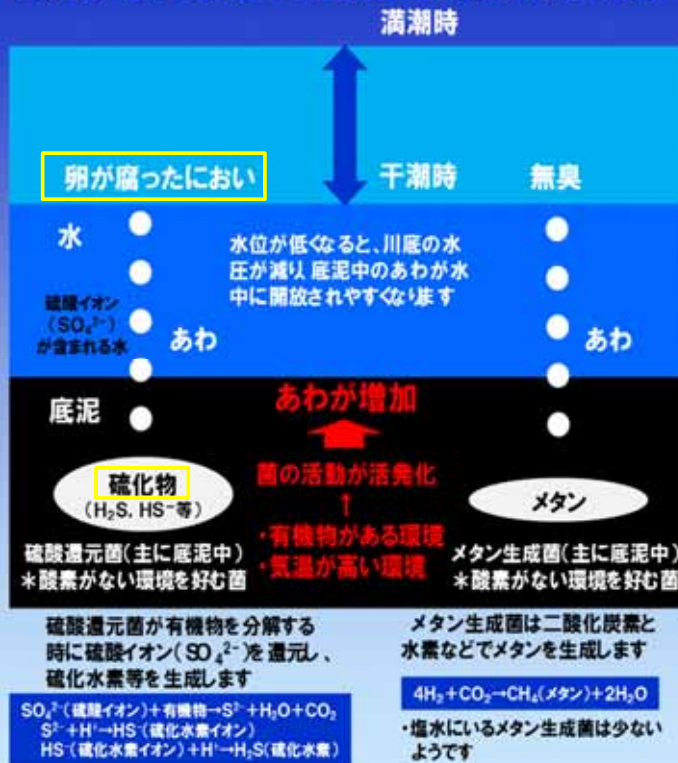
悪 ← → 良

項目	潮位の区分 T.P.cm	堀川			新堀川		
		大瀬子橋~松重橋	松重橋~朝日橋	朝日橋~猿投橋	内田橋~立石橋	立石橋~宇津木橋	宇津木橋~舞鶴橋
水の汚れの印象	きれいでどちらともいえないの割合(%)	50cm以上: 83	41	70	53	26	36
	50cm未満~0cm以上	81	40	71	58	34	35
	0cm未満~-50cm以上	77	45	75	40	32	39
	-50cm未満	68	20	83	27	7	13
印象	50cm以上	89	47	86	62	43	43
	50cm未満~0cm以上	85	46	83	71	44	45
	0cm未満~-50cm以上	80	49	81	53	34	46
	-50cm未満	68	26	87	41	9	18
色	50cm以上	9	36	1	6	16	0
	50cm未満~0cm以上	7	28	1	9	7	5
	0cm未満~-50cm以上	7	30	1	14	4	3
	-50cm未満	4	35	2	6	2	5
白濁系の割合(%)	50cm以上	36	19	10	41	13	57
	50cm未満~0cm以上	35	30	14	27	42	49
	0cm未満~-50cm以上	36	29	16	37	54	60
	-50cm未満	44	25	16	48	71	76
泡	50cm以上	0	9	9	0	0	24
	50cm未満~0cm以上	0	5	8	6	3	43
	0cm未満~-50cm以上	2	9	8	8	3	37
	-50cm未満	13	34	7	22	10	72
におい	50cm以上	94	56	99	65	55	26
	50cm未満~0cm以上	95	72	98	93	65	35
	0cm未満~-50cm以上	93	73	98	74	62	33
	-50cm未満	87	60	88	53	40	19
透視度(cm)	50cm以上	84	69	85	90*	65	66
	50cm未満~0cm以上	88	65	85	74*	83	72
	0cm未満~-50cm以上	80	65	83	80*	80	76
	-50cm未満	73	62	83	89*	72*	88
COD(mg/L)	50cm以上	7	9	8	11*	14	17
	50cm未満~0cm以上	8	9	7	12*	13	18
	0cm未満~-50cm以上	9	9	8	12*	15	18
	-50cm未満	9	11	6	13*	16*	16

*印:データ数が少ない

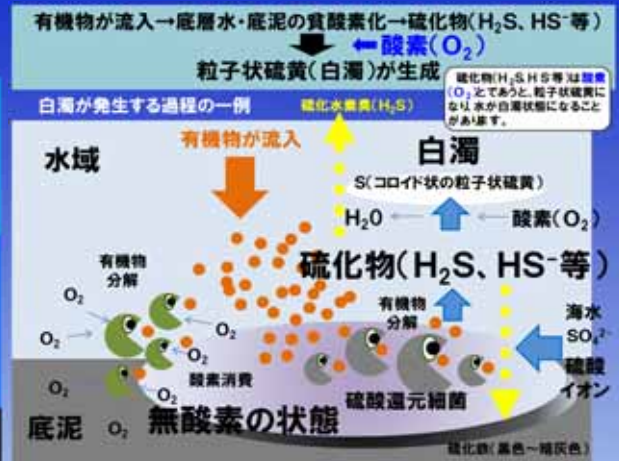
113

川底からの“あわ”と“におい”の発生メカニズム

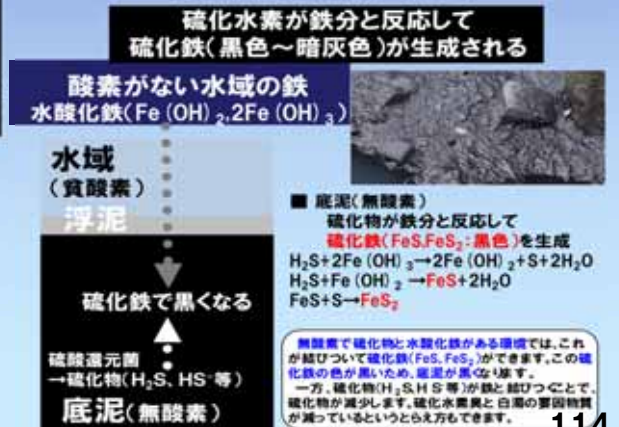


前日の降雨によって、堀川に有機物が流入し、それをエネルギーとする硫酸還元菌の活動が活発化し、硫化水素が生成されたものと考えられます。硫化水素は底泥に蓄えられ、干潮時(水圧低下時)に水中に開放され、その時間帯に“あわ”と“におい”と“白濁”が顕在化したものと考えられます。

(参考)なぜ貧酸素化して白濁するのか？



(参考)なぜ川底の泥が黒くなるのか？



114

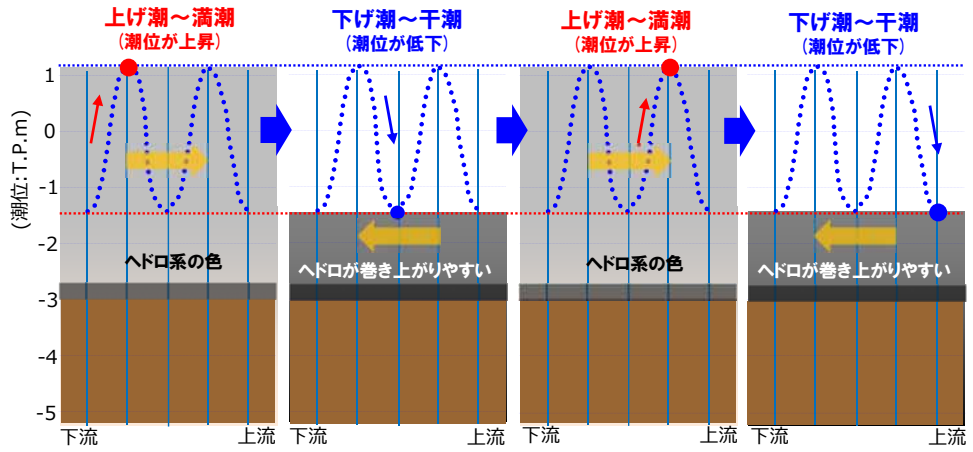
(参考資料) 潮位によるちがい (イメージ図)

松重橋～朝日橋間

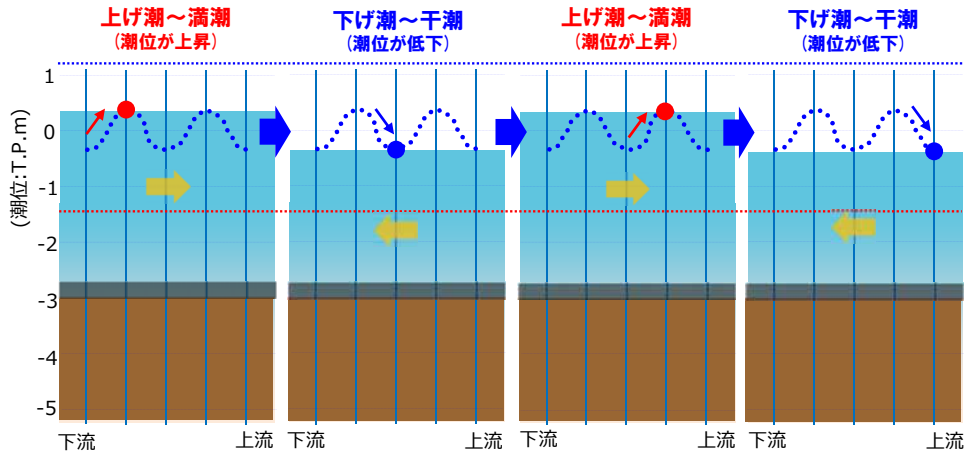
堀川

大潮時

川底にヘドロが堆積していると、潮位が低下した時にそのヘドロが巻き上がりやすい環境になります。



小潮時



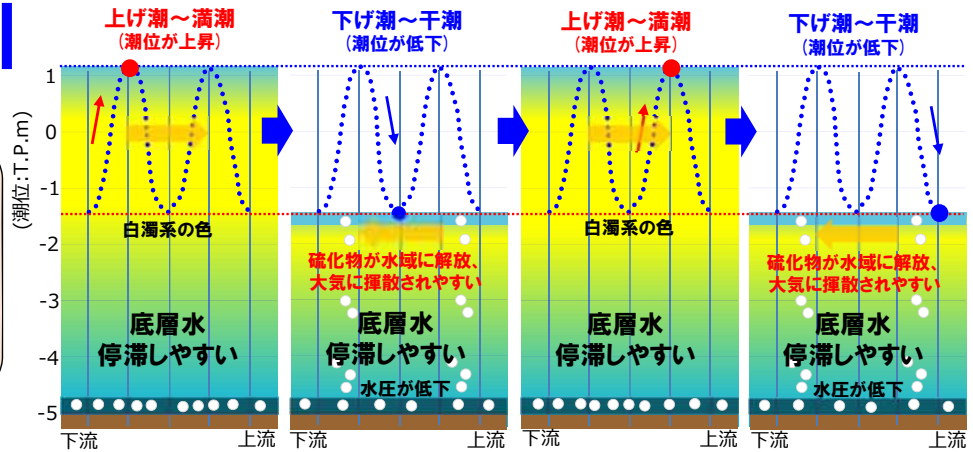
(参考資料) 潮位によるちがい (イメージ図)

宇津木橋～舞鶴橋間

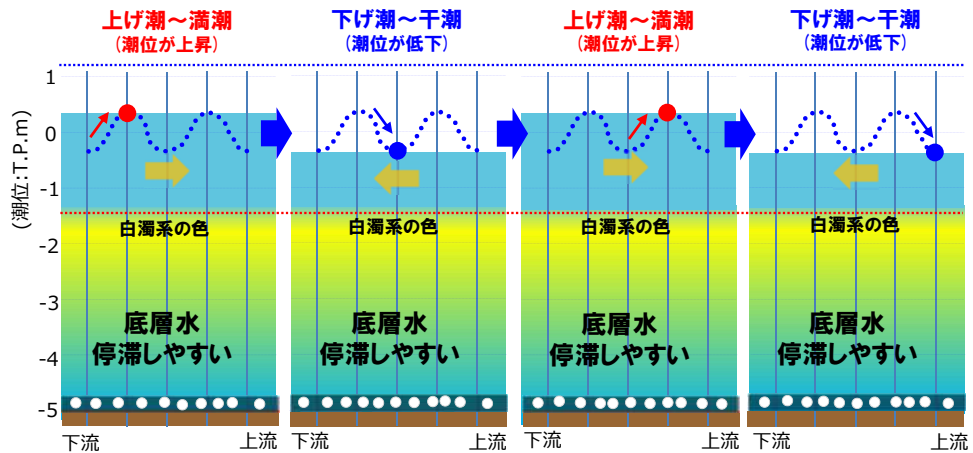
新堀川

大潮時

底泥中に硫化物が生成・蓄積されていると、潮位が低下した時に川底の水圧が低下して、その硫化物が水域に解放、大気に揮散されやすい環境になります。また、硫化物を多く含む底層水が表層部分にあると硫化物が大気に揮散されやすい環境になります。



小潮時

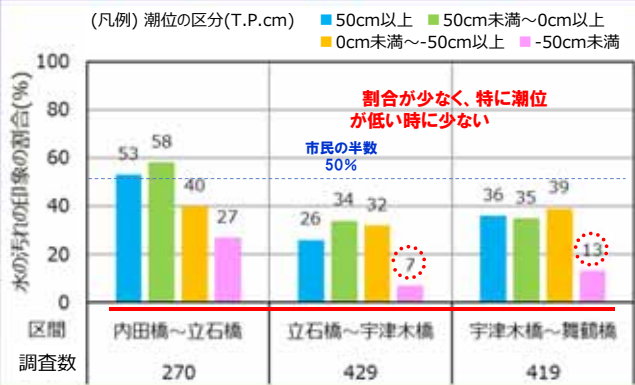
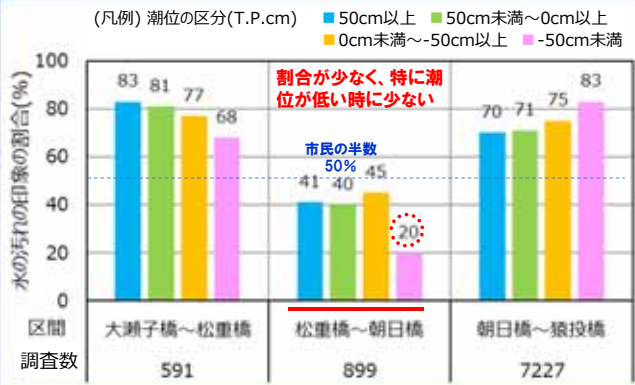


堀川

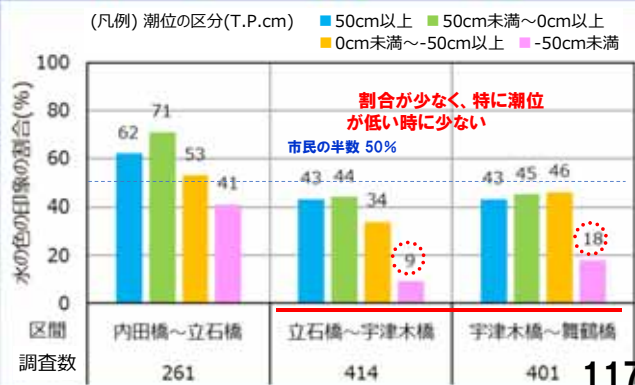
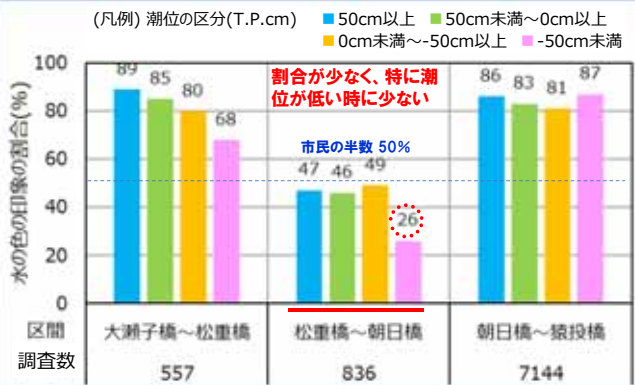
新堀川

使用データ： 2020年度(令和2年度)
 ~2024年度(令和6年度)
 前日・当日・降雨なし
 データ数: 13,157件

■ 水の汚れの印象 “きれい~どちらともいえない”の割合



■ 水の色の印象 “快適~どちらともいえない”の割合

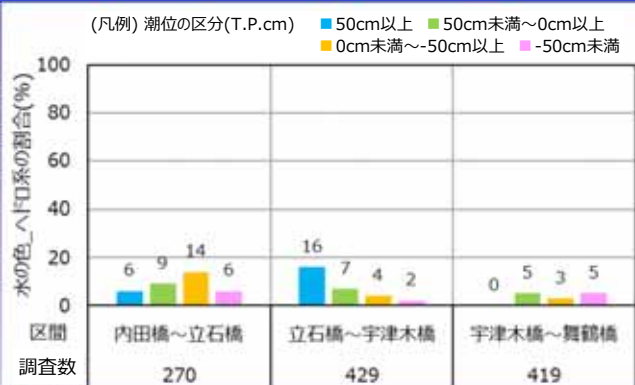
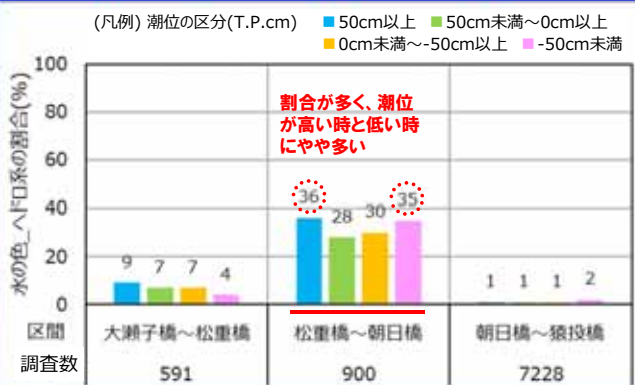


堀川

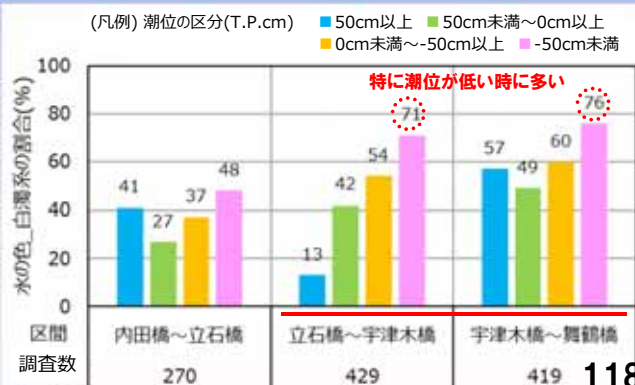
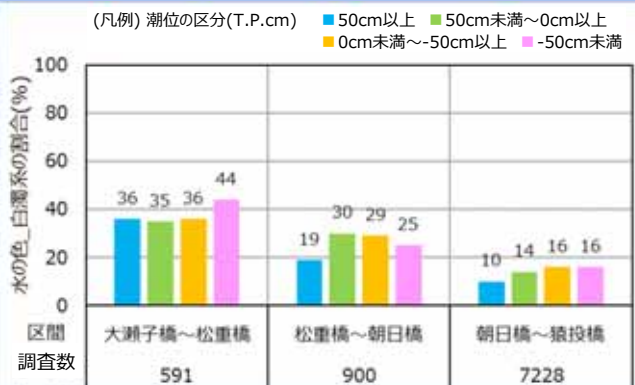
新堀川

使用データ： 2020年度(令和2年度)
 ~2024年度(令和6年度)
 前日・当日・降雨なし
 データ数: 13,157件

■ 水の色 “ヘドロ系の色”の割合

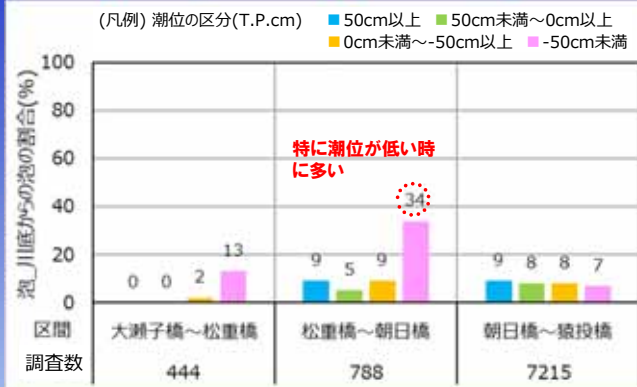


■ 水の色 白濁系の色”の割合



堀川

泡“川底からの泡”の割合

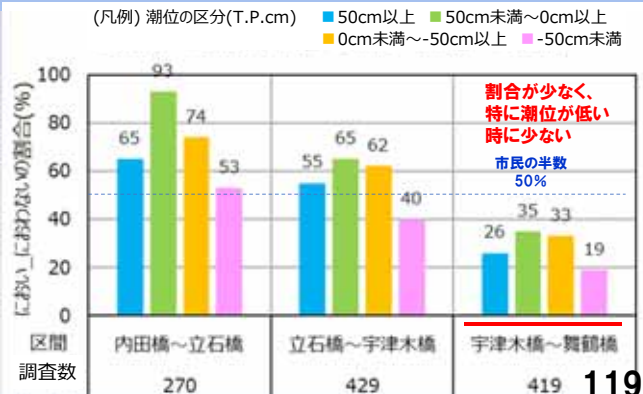
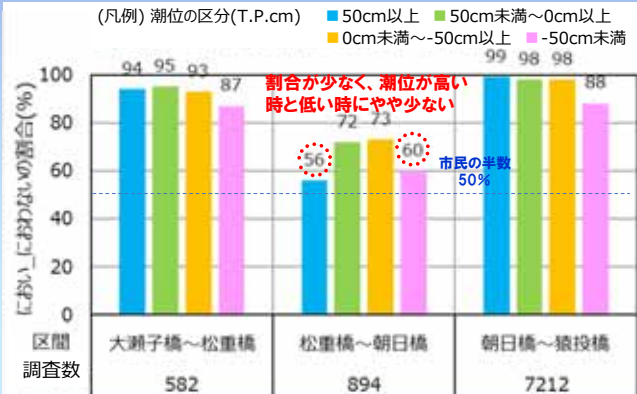


新堀川

使用データ: 2020年度(令和2年度) ~2024年度(令和6年度)
前日・当日降雨なし
データ数: 13,157件

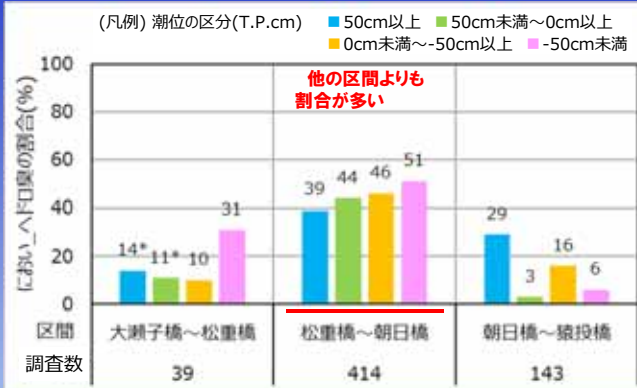


におい“におわない”の割合



堀川

においの種類“ヘドロ臭”の割合

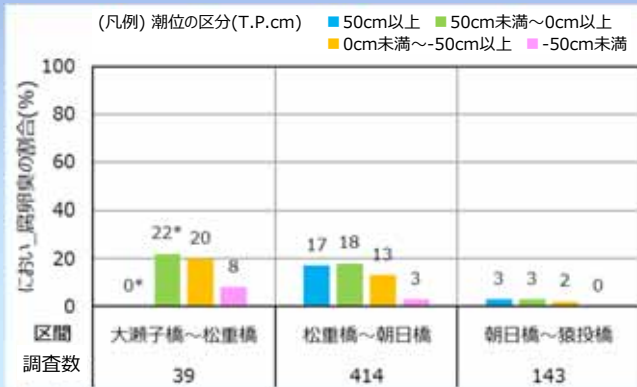


新堀川

使用データ: 2020年度(令和2年度) ~2024年度(令和6年度)
前日・当日降雨なし
データ数: 13,157件



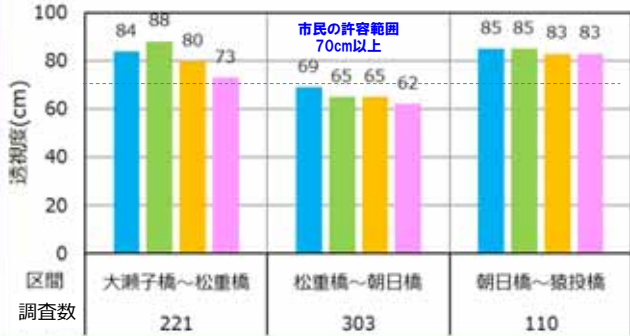
においの種類“腐卵臭”の割合



堀川

透視度

(凡例) 潮位の区分(T.P.cm) ■ 50cm以上 ■ 50cm未満~0cm以上 ■ 0cm未満~-50cm以上 ■ -50cm未満

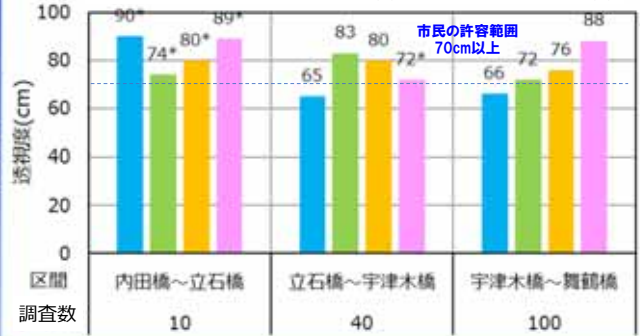


新堀川

使用データ: 2020年度(令和2年度)~2024年度(令和6年度)
前日・当日・降雨なし
データ数: 13,157件

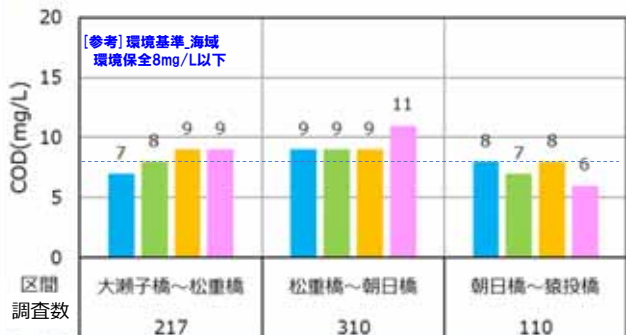
*印: データ数が少ない

(凡例) 潮位の区分(T.P.cm) ■ 50cm以上 ■ 50cm未満~0cm以上 ■ 0cm未満~-50cm以上 ■ -50cm未満

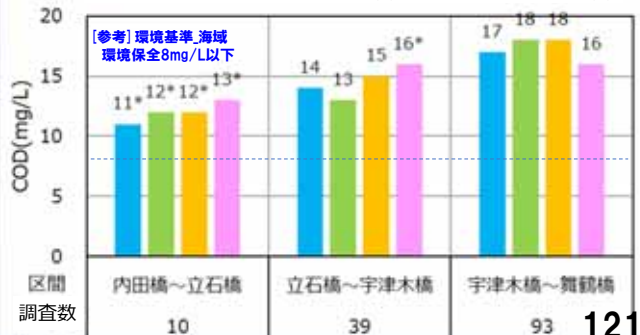


COD

(凡例) 潮位の区分(T.P.cm) ■ 50cm以上 ■ 50cm未満~0cm以上 ■ 0cm未満~-50cm以上 ■ -50cm未満



(凡例) 潮位の区分(T.P.cm) ■ 50cm以上 ■ 50cm未満~0cm以上 ■ 0cm未満~-50cm以上 ■ -50cm未満



6.7. 除草で改善した水辺環境 (年2回除草)

観察・記録: 朋和設備調査隊、事務局

第31回調査隊会議

2022年度

名古屋市が水辺の除草を実施

今後、水辺を除草して、その後の浮遊物(自然由来)の変化を確認する。

- ① 除草の範囲・回数は例年どおり実施
- ② 猿投橋下流を対象にひとりばえの木の撤去を実施
- ③ 田幡橋から名城公園間のヨシの刈り込みを実施

年2回除草実施

2023年度

1回目: 7月18日頃、2回目: 11月25日頃

2024年度

1回目: 6月10日頃、2回目: 11月13日頃

2025年度

1回目: 7月9日頃、2回目: 12月10日頃

除草なし 2022年4月



田幡橋下流向き



枯れたヨシが少しくずつ水面上に倒れて、落水・浮遊



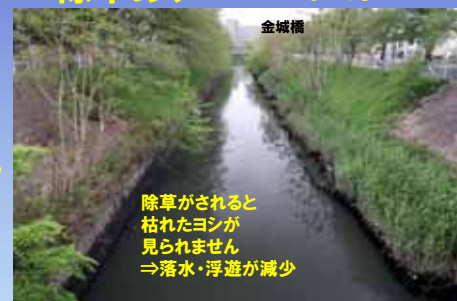
金城橋上流向き

除草しないと、枯れたヨシや木の葉などが年間を通じて少しくずつ水面上に倒れて、落水・浮遊します。除草がされたことで、これらが減少しました。



枯れたヨシが少しくずつ水面上に倒れて、落水・浮遊

除草あり 2023年4月



除草がされると枯れたヨシが見られませんか
⇒落水・浮遊が減少



除草がされると枯れたヨシが見られませんか
⇒落水・浮遊が減少

除草の継続で あらためて確認 されたその効果 と課題など

- ① 浮遊物の減少 (参考資料) 第32回調査隊会議 市民報告 p.63
 - ・自然由来(草や木の葉など)の浮遊物が年間を通して減少
 - ・プラスチックなどの人工の浮遊ゴミが回収しやすくなる
- ② 水質・底質の改善
 - ・川底に沈降・分解する自然由来の有機物などが減少
- ③ 水辺景観の改善
 - ・都市域の水辺として市民が望む機能・景観を模索
 - ・水辺の人工ごみが減少(隠すように投棄される人工ごみが減少する)

市民調査の結果、**除草の効果**があらためて確認されました。あわせて**“ゴミの回収、樹木の剪定・伐採・除草などの維持管理がしにくい水際の現状”**も明確になってきました。今後の河道の整備では、この結果をもとに**効果的・効率的な維持管理(市民と行政の連携・協働を含む)**が可能な水辺・歩道・道路・植栽の実現、落水・浮遊したゴミの回収効率の向上(ごみキャッチャーの逆流防止対策を含む)が望まれます。

雑木伐採の 効果

雑木が伐採されることでクスなどのツル性植物の繁茂が減少することがわかりました。



2023年7月23日



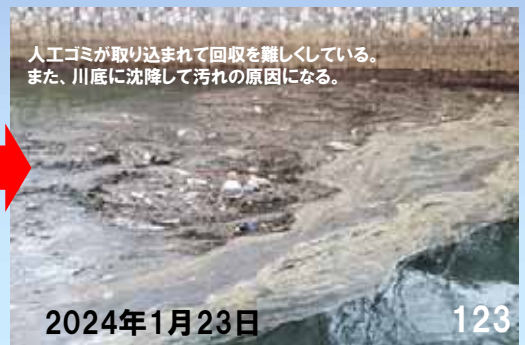
2023年10月17日

ヨシや雑草の 落水・浮遊

除草時に落水したヨシや雑草が長期間に渡って浮遊しているのが確認されています。これらの浮遊物に取り込まれた人工ゴミは、回収が難しくなります。また、ヨシや雑草などは、いずれ川底に沈降して汚れの原因になります。



2023年12月28日



2024年1月23日

123

2025年度 2回目(冬)の除草

■ 除草と雑木の伐採が行われました

除草とともに雑木の伐採が行われました。歩道から堀川の水面が見えないほど生長していた水際の雑木が伐採されたことで、歩道からの景色は遮るものがなくなり、開放的になりました。また、堀川越しに眺める名古屋城の景色が良くなったように感じます。



除草・雑木伐採前
2025年12月3日



除草・雑木伐採後
2026年1月9日

■ 除草・雑木伐採の作業の様子



観察・記録:事務局

除草・伐採後の枝や枯れ葉が風で落水・浮遊しないように、細かいものまできれいに清掃をされていました。



2026年1月9日 中土戸橋付近

124

1回目(初夏)の除草の時期について

7月中旬除草

2023年7月18日頃除草

6月上旬除草

2024年6月10日頃除草



1回目の
除草後



除草
1箇月後
の様子



除草
2箇月後
の様子



125

1回目(初夏)の除草の時期について

7月中旬除草

2023年7月18日頃除草

6月上旬除草

2024年6月10日頃除草



除草
3箇月後
の様子



除草
4箇月後
の様子



除草
5箇月後
の様子



126

7月上旬除草 2025年7月9日頃除草



6月上旬と7月(中旬)の除草後の観察・記録を比較すると、**6月上旬に除草した場合の方が1箇月後、2箇月後の雑草の生長が著しく、短期間に除草前の状態に戻ってしまう**ようです。梅雨の期間は、梅雨明け後よりも植物の生長が著しいためと考えています。今後、中土戸橋～猿投橋間の除草については、周辺の施設利用(名古屋城、IGアリーナのイベントなど)や親水・散策などの水辺利用を考慮しながら**効果的な除草の時期を考えるための情報を収集するための観察と記録の継続が必要**だと考えています。

1回目の
除草後



除草
1箇月後
の様子



除草
2箇月後
の様子



除草後の観察・記録

項目		2023年	2024年	2025年
		7月中旬 除草	6月上旬 除草	7月上旬 除草
6月	上旬		○1回目 除草	
	中旬			
	下旬			
7月	上旬		● 1箇月後	○1回目 除草
	中旬	○1回目 除草		
	下旬			
8月	上旬		● 2箇月後	● 1箇月後
	中旬	● 1箇月後		
	下旬			
9月	上旬		● 3箇月後	● 2箇月後
	中旬	● 2箇月後		
	下旬			

2025年
梅雨入り
5月17日頃

2025年
梅雨明け
8月27日頃

1回目(初夏)の除草の時期について

7月上旬除草 2025年7月9日頃除草



除草後の観察・記録(続き)

除草
3箇月後
の様子



除草
4箇月後
の様子



除草
5箇月後
の様子



項目		2023年	2024年	2025年
		7月中旬 除草	6月上旬 除草	7月上旬 除草
10月	上旬		● 4箇月後	● 3箇月後
	中旬	● 3箇月後		
	下旬			
11月	上旬		○2回目 除草開始	● 4箇月後
	中旬	● 4箇月後		
	下旬			
12月	上旬	○2回目 除草開始		○2回目 除草開始
	中旬			
	下旬			



6.8. 生き物 6.8.1. 堀川の主な生き物

鳥類 (38種→53種)

- タカの仲間
ミサゴ、トビ、ハイタカ、チョウゲンボウ
- カワセミ
- サギの仲間
コサギ、ダイサギ、コイスギ、アオサギ
ササコイ、ミソゴイ (死骸)
- カワフ
- カモの仲間
カモガモ、オナガガモ、キンクロハジロ
スズガモ、コガモ、ヒドリガモ
ホシハジロ、マガモ、オシドリ
ハシビロガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ
- カイツブリの仲間
カイツブリ、カンムリカイツブリ
- カモメの仲間
ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ
- バン、オオバン
- セキレイの仲間
ハクセキレイ、セグロセキレイ
キセキレイ
- インビヨドリ ■イソシギ ■コチドリ
- ヒヨドリ ■アカハラ
- シロハラ ■ツグミ
- ジョウビタキ
- キシハト
- シジュウカラ
- コゲラ
- ツバメ
- カワラヒワ
- スズメ
- ムクドリ
- メジロ
- ウグイス
- オオヨシキリ
- アオジ

水際・水面 水域

魚類 (16種→31種)

- 19ステージ 現在
- アユ
 - コイの仲間
コイ、フナの仲間、オイカワ
カマツカ、ニゴイ、モツゴ
 - ウナギ
 - ナマス ■キギの仲間
 - カワアナゴ
 - ハゼの仲間
ウキゴリの仲間、マハゼ
アベハゼ、ヨシボリの仲間
 - スズキ
 - クロダイ (またはキビレ)
 - ボラ
 - マサバ
 - コノシロ
 - マイワシ、カタクチイワシ
 - アカエイ
 - カレイの仲間
 - ※外来種
ブラックバス、ブルーギル
カムルチー、カダヤシ
ガーの仲間、アロワナ
カワスズメの仲間 (ティラピア)



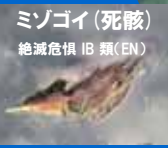
色々な生き物が見られ、種によっては
成育・繁殖も確認されるようになりました。
→食物連鎖による自浄作用が回復

ほ乳類 (3種)

タヌキ、ドブネズミ、※外来種 ハクビシン (死骸)

爬虫類 (6種)

- カメの仲間
クサガメ、イシガメ、スッポン
- ※外来種 ミシシッピアカミミガメ、スッポン
- ヘビの仲間
アオダイショウ



両生類 (1種)

- カエルの仲間
※外来種 ウシガエル

昆虫

- トンボの仲間
ハグロトンボ、シオカラトンボ
コシアキトンボ、ギンヤンマ

藻類

- アオサノリなど

甲殻類 (4種→8種)

- 19ステージ 現在
- カニ・エビの仲間
オオヒライソガニ、ベンケイガニ、モクスガニ、スジエビ、ミナミヌマエビ、テナガエビ
 - ※外来種
ミドリガニの仲間、アメリカザリガニ

撮影: 朋和設備調査隊
2025年 (令和7年) 10月23日
場所: 堀川 北清水橋～黒川橋間

*黄色文字の種: 日常的に良く見られる種



6.8.2. 堀川・新堀川で冬を越す水鳥たちのなぞ

堀川・新堀川で冬を越すのはなぜ?

水鳥 (冬鳥) たちは、近くに自然豊かな木曽川や庄内川などがあるのに、なぜ名古屋の市街地にある堀川・新堀川で冬を越すのか?

どのように冬を越しているのか?

(まとめ) 市民による堀川・新堀川での採餌と休息の観察・記録

種別	確認された場所	何を食べている?	どこで休息している?	(参考) 観察・記録された種
水面採餌種	水深が浅い場所	浮遊する植物の種子、植物片など	安全で風が避けられる水際の平場	オナガガモ コガモなど
		川底の水草・藻類など		オカヨシガモ、ヨシガモ マガモ、オナガガモ コガモなど
	水深が浅い場所 + 水際にヨシ帯	浮遊する植物の種子、植物片など		ヒドリガモ ハシビロガモ コガモなど
		川底の水草・藻類など		オカヨシガモ、ヒドリガモ ハシビロガモ、コガモなど
	水深が深い場所	浮遊する植物の種子、植物片など		ハシビロガモ コガモなど
水処理C放流口	浮遊しているもの	オオヨシガモ、ヒドリガモ ハシビロガモ、コガモなど		
潜水採餌種	水面に底泥が浮上	底泥中のもの	安全で風が避けられる水面	ホシハジロ キンクロハジロ オオバンなど
	水深が浅い場所	川底の動植物		
	水深が深い場所	水際と川底の動植物		

冬鳥の多くは夏の間にはシベリアなどで繁殖し、寒い冬を日本や東南アジアなどで過ごしています。堀川・新堀川では、市民の観察・記録によって、8月頃 (2025年8月8日初見) から飛来が確認され、冬を過ごして5月頃 (2025年5月10日) までに旅立つことが分かっています。

繁殖地

ユーラシア大陸
主にシベリア

移動

越冬地

市民の情報をもとに堀川・新堀川で冬を越す水鳥たちの観察・記録を整理しました。

(市民の気づき)

市民の調査によって、都市河川で水鳥 (冬鳥) たちが越冬できる水環境を維持・創出するためのヒントが見えてきたような気がします。

都市河川の水鳥 (冬鳥) たちに配慮した水環境の維持・創出

■さらなる水質の改善

透明度の改善によって、都市河川で水鳥たちが主に餌としている川底と水際の水草・藻などが増加

■安全で風が避けられる

水際の平場と水面の維持・創出
水鳥たちが休息をする場を確保

水鳥たちは 何を食べている? どこで休息している?

水面採餌種	浮遊する植物の種子、植物片など 川底・水際の水草・藻類など 浮遊物・底泥中のもの	安全で風が避けられる水際の平場
潜水採餌種	川底と水際の動植物	安全で風が避けられる水面

堀川・新堀川で主に観察・記録された水鳥(冬鳥)たち

■ 水面採餌種 7種類

 <p>オカヨシガモ 主に植物食 植物の種子、水草など</p>	 <p>ヨシガモ 主に植物食 穀類、植物の種子、 水生植物、藻類など</p>	 <p>ヒドリガモ 主に植物食 葉片、茎、根、種子、 藻類など</p>	 <p>マガモ 主に植物食 穀類、植物の種子、 水生植物など</p>
 <p>ハシビロガモ 主にプランクトンなど</p>	 <p>オナガガモ 主に植物食 植物の種子、植物片、 水草、藻類など</p>	 <p>コガモ 主に植物食 藻類、植物の種子など</p>	

屋間に水鳥(冬鳥)たちを観察すると、多くが平場や水面で休息していることに気がつきます。実は水鳥(冬鳥)の多くの種が夜行性だからです。一般的に日が暮れると餌場に移動・採餌をしていると言われていました。

市民の調査では、水鳥(冬鳥)たちの夜間の様子を観察できていませんが、**屋間にどこで休息をして、屋間に採餌をしている水鳥(冬鳥)たちの様子からどのようなものを食べて冬を越しているのか**が少しずつ分かってきました。

■ 潜水採餌種 3種類

 <p>ホシハジロ 動植物を幅広く採る</p>	 <p>キンクロハジロ 動植物を幅広く採る</p>	 <p>オオバン *クイナの仲間 動植物を幅広く採る</p>
---	---	---

文献では“主に植物食”の種と記載されていても、堀川ではイトミミズの様な動物を採餌している様子が確認されている種もいます。

- 堀川・新堀川の観察・記録情報・写真の提供 調査隊報告、一般市民、事務局
- 参考資料 種別食性 日本のカモ 識別図鑑 誠文堂新光社 氏原巨雄・氏原道昭著

堀川・新堀川で冬を越す水鳥たち 市民による水鳥(冬鳥)の観察・記録

調査隊報告、一般市民からの写真提供などの情報をもとに、堀川・新堀川で冬を越す水鳥(冬鳥)たちの観察・記録を整理してみました。

堀川・新堀川の冬鳥たち
採餌と休息の様子
2024年・2025年

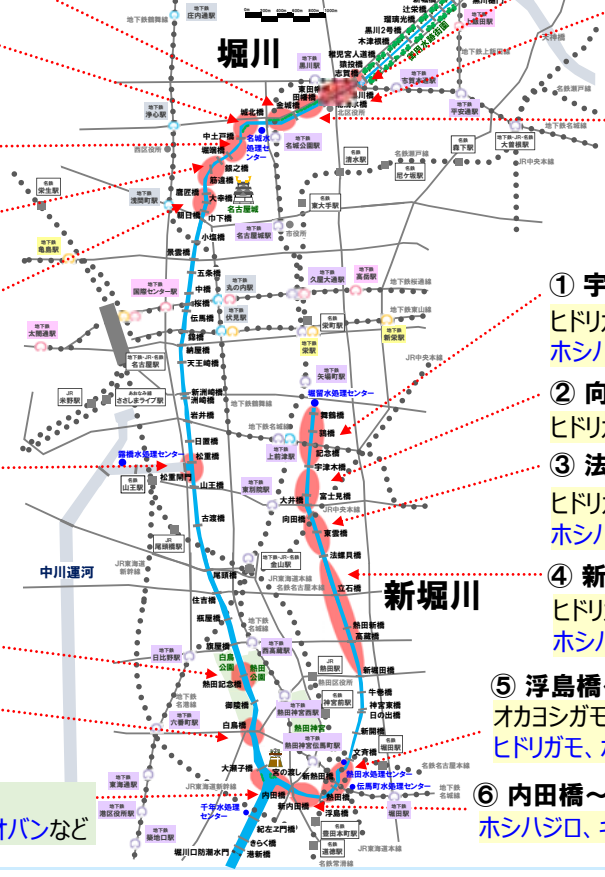


河川名	区間	市民の記録 ○:何度も観察 △:時々観察							*クイナの仲間			
		水面採餌種							潜水採餌種			
		オカヨシガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	マガモ	ハシビロガモ	オナガガモ	コガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	オオバン*	
堀川	① 志賀橋～猿投橋付近							○	○			
	② 田幡橋～志賀橋付近							○	○	○	○	△
	③ 金城橋～田幡橋付近	○	○				△	○	○	○	○	△
	④ 城北橋～金城橋付近	△	○		○			○	○	○		
	⑤ 中土戸橋～城北橋付近	△		△	○			○	○	○	○	△
	⑥ 堀端橋～中土戸橋付近				○				△	△	○	
	⑦ 鷹匠橋～堀端橋付近										○	
	⑧ 巾下橋～鷹匠橋付近								○	△	○	
	⑨ 松重開門付近	○								○	○	
	⑩ 熱田記念橋付近									○		
	⑪ 白鳥橋付近									○		
	⑫ 堀川・新堀川合流点付近	○		○				○	○	○	○	○
新堀川	① 宇津木橋～堀留付近			○		○		○	○	○		
	② 向田橋～宇津木橋付近			○		○		○	○			
	③ 法螺貝橋～向田橋付近			○		○		○	○			
	④ 新堀田橋～法螺貝橋付近			○		○		○	○		△	
	⑤ 浮島橋～文育橋付近	○		○		○		○	△	○	○	△
	⑥ 内田橋～浮島橋付近					△		△	○	○	○	○

堀川・新堀川で冬を越す水鳥(冬鳥)の観察・記録が少ない区間

- ④ 城北橋～金城橋付近
ヨシガモ、マガモ、コガモ
ホシハジロ、キンクロハジロなど
- ⑤ 中土戸橋～城北橋付近
マガモ、コガモ
ホシハジロ、キンクロハジロなど
- ⑥ 堀端橋～中土戸橋付近
マガモ、キンクロハジロなど
- ⑦ 鷹匠橋～堀端橋付近
キンクロハジロなど
- ⑧ 巾下橋～鷹匠橋付近
コガモ、キンクロハジロなど
- ⑨ 松重閘門付近
オカヨシガモ
ホシハジロ、キンクロハジロなど
- ⑩ 熱田記念橋付近
ホシハジロなど
- ⑪ 白鳥橋付近
ホシハジロなど
- ⑫ 堀川・新堀川合流点付近
オカヨシガモ、ヒドリガモ、コガモ
ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバンなど

市民による冬鳥（水鳥）の観察・記録



- ① 志賀橋～猿投橋付近
オナガガモ、コガモなど
- ② 田幡橋～志賀橋付近
オナガガモ、コガモ
ホシハジロ、キンクロハジロなど
- ③ 金城橋～田幡橋付近
オカヨシガモ、ヨシガモ、コガモ
ホシハジロ、キンクロハジロなど
- ① 宇津木橋～堀留付近
ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモ
ホシハジロ、キンクロハジロなど
- ② 向田橋～宇津木橋付近
ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモなど
- ③ 法螺貝橋～向田橋付近
ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモ
ホシハジロなど
- ④ 新堀田橋～法螺貝橋付近
ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモ
ホシハジロなど
- ⑤ 浮島橋～文育橋付近
オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモ
ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなど
- ⑥ 内田橋～浮島橋付近
ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバンなど

水面採餌の様子



水面採餌種の様子

主に水辺の
平場で休息

水深が浅い場所+水際にヨシ帯

ヨシなど

浮遊する植物の種子、植物片などを採餌



オカヨシガモ、ヨシガモ
マガモ、オナガガモ
コガモなど

水草・藻類

陽光が川底まで届く

水草・藻類

川底の水草・藻類などを採餌



水面採餌種の様子

主に水辺の
平場で休息

水深が深い場所

主に水辺の
平場で休息

主に水際に付着している藻類などを採餌

水際の
付着藻類

陽光が届く水際



水際の
付着藻類

陽光が届く水際

陽光が川底まで十分に届かない

ヒドリガモ、ハシビロガモ
コガモなど



水面採餌種の様子



137

水面採餌種の様子



138

潜水採餌種の様子

水深が浅い場所

安全で風が避けられる水面で休息



ホシハジロ
キンクロハジロ
オオバンなど

主に川底の動植物を採餌

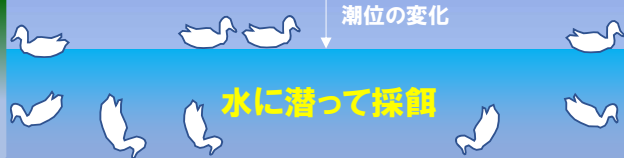
水深が深い場所

安全で風が避けられる水面で休息

陽光が届く水際

水際の
付着藻類

貝・甲殻類
などが付着



陽光が届く水際

水際の
付着藻類

貝・甲殻類
などが付着

ホシハジロ
キンクロハジロ
オオバンなど

水に潜って採餌

主に水際と川底の動植物を採餌



ホシハジロ



キンクロハジロ



オオバン

潜水採餌種の様子

安全で風が避けられる水面で休息



(参考) 堀川・新堀川で冬を越す水鳥(冬鳥)の確認が少ない区間の様子

堀川



新堀川



6.9. 市民意識の向上 6.9.1. 学習会、イベントなど

中日新聞 2025年(令和7年)
10月22日 名古屋市民版(朝刊)

堀川1000人調査隊2010 第37回調査隊会議
2025年10月18日(土) 会場:名古屋都市センター 11階ホール



堀川のボラ大量死
高い水温など原因
中区で市民団体報告

市内を流れる堀川などの
浄化に取り組む市民団体
「堀川1000人調査隊2010」による報告会が18
日、中区の名古屋都市セン
ターであった。一般市民の
ほかにも市庁舎周辺の
職員も参加し、約60人が
見交際した。

報告会は31回目。調査隊
は約18年ほど、及公衆自衛隊
で堀川と新堀川に關する
アンケート約2万件を基に、
と開催した。

堀川などの水質改善
名古屋市長、中区
文化部長、名古屋市中
区を名古屋都市センターで

市側はヘドロ除去や浮遊
物の回収など浄化活動に
ついて報告。副都事務局長
は水質改善隊として「雨水
を水に混ぜずに新堀川に
流してほしい」と訴えた。

参加した松田俊博副市長は
「アンケートに基づいた積極的な
発表が興味深かった。市民
と協力して川の浄化に取り
組みたい」と意欲を示し
た。(三浦好次郎)

カブトビールバー
2025年9月26日(金)・27日(土)
場所: 納屋橋周辺



尾頭橋にぎわいマルシェ
名古屋市河川計画課、なごや建設事業サービス財団
堀川PRブース・あつた堀川クルーズ
2025年11月16日(日) 場所: 尾頭橋親水広場



なごや堀川クルーズ
2025年10月4日(土)~12月7日(日)



堀川万博 2025年10~11月



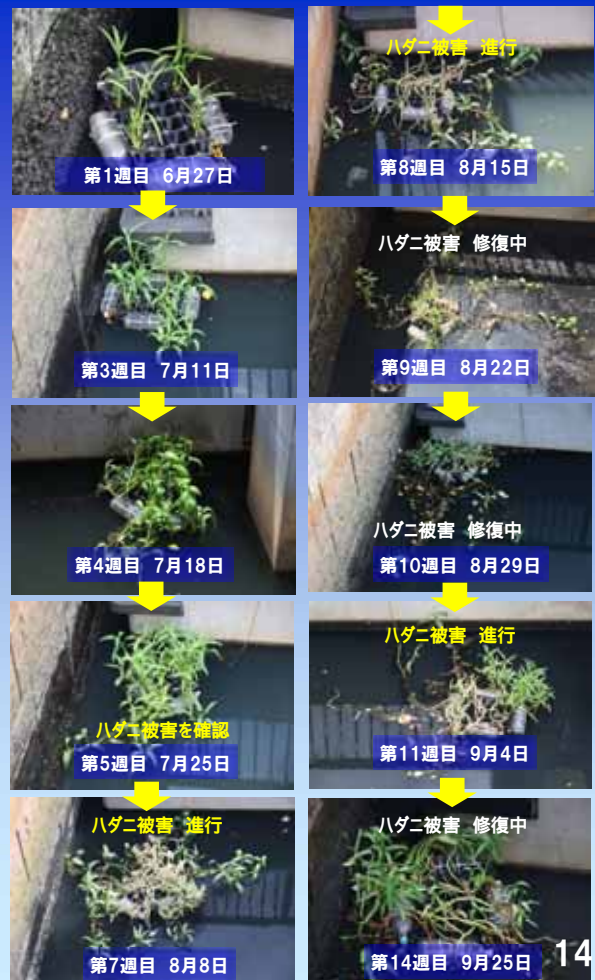
なごやさい青空市
2025年 11月29日(土)
12月6日(土)
2026年 1月22日(水)
場所: 熱田区尾頭橋親水広場
名古屋市都市農業振興協議会
なごや建設事業サービス財団



6.9.2. 空芯菜による堀川浄化実験

空芯菜のハダニ被害と猛暑は関係がある? (その2)
2025年(令和7年)6月20日設置・実験開始

場所 納屋橋船着場付近
主催 恵那農業高等学校+名古屋堀川ライオンズクラブ



空芯菜による堀川浄化実験

2025年(令和7年)11月28日撤去・実験終了



第18週目 10月24日



第20週目 11月7日



ハダニ類の特徴

ハダニ類は25~28℃くらいの温度で乾燥した状態であると、卵期間2~3日、幼虫~若虫期間6~7日で成虫になる。ハダニ類は高温、乾燥などの適した条件では急速に株全体に広がる。歩行や風による飛散、管理作業者への付着などによる移動が頻繁に行われ、未発生地へも広がっていく。

ダニは作物の組織内を口器で破壊し吸汁するので、小さな白斑が点々とできてかすり状になる。ハダニの密度が高まると茎葉の伸長が悪く、株がすくんだようになる。作物によっては落葉したり、葉の枯上がりや、株の枯死も見られる。

参考資料) 愛知県HP
あいち病害虫情報
<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaic/hu/zennkyouhadani.html>

空芯菜のハダニ被害と猛暑は関係がある？

初期的な被害の状況



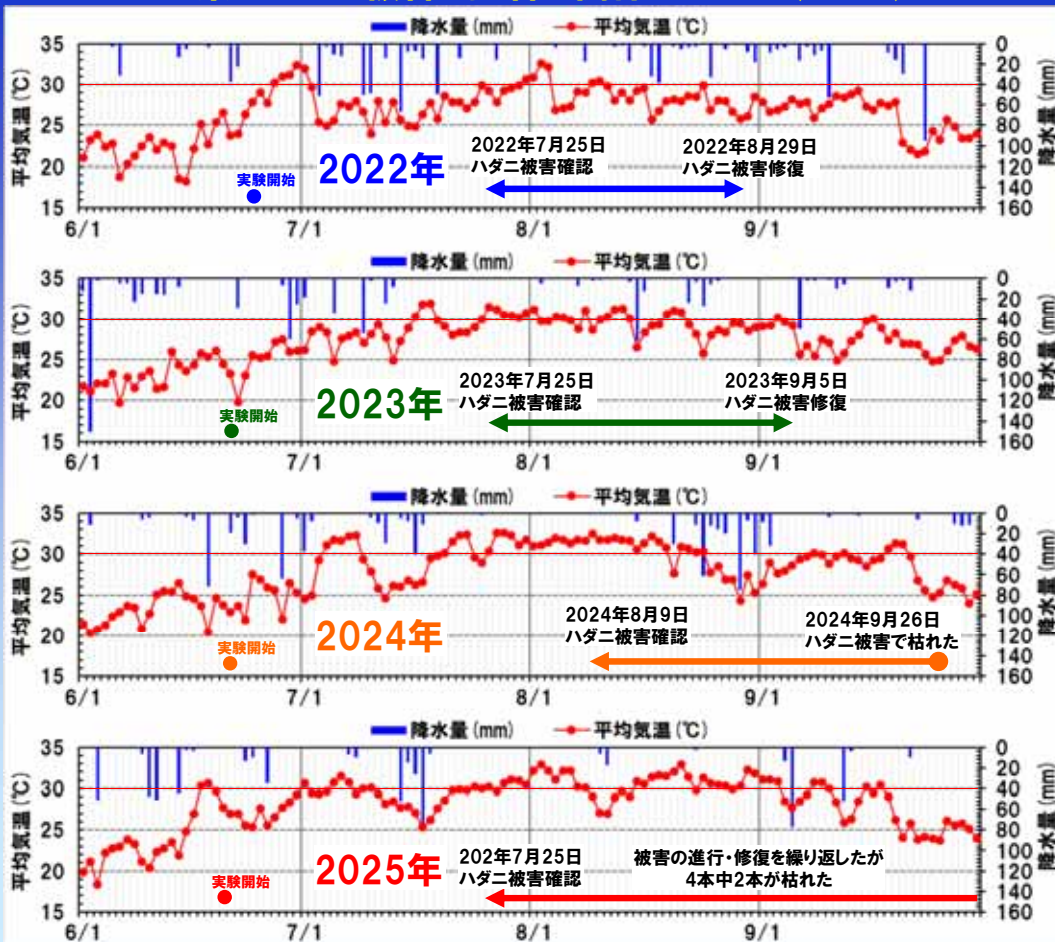
ハダニ類の集合体



2025年 4本中2本が枯れた



空芯菜のハダニ被害と猛暑は関係がある？(その2)



ハダニの被害

7月下旬から
8月上旬に顕在化

9月まで続く
猛暑が関係？

9月になっても30℃を超える日が連続すると被害の修復ができなくなる？

過去4箇年(2022年から2025年)の実験の結果をもとに、ハダニの被害の確認と修復の経過を気象(降水量・気温)の変化とともに整理をしてみました。

その結果、ハダニの被害は、毎年、7月下旬から8月上旬に顕在化することが分かりました。

この時期は梅雨が明けて、降雨が少なく、平均気温が30℃を超える高温が続くようになる時期です。

2024年と2025年のように9月になっても雨が少なく、30℃を超える日が続く期間がある年は、被害の修復が出来ないまま、枯れてしまうこともあります。

